

平成20年度

豊かな体験活動推進事業

実践事例集



平成21年3月

山口県教育委員会

は じ め に

近年、少子高齢化や核家族化、都市化や地域社会におけるコミュニティーの希薄化により、子どもたちが社会性を身に付ける機会が減少しており、子どもたちに命を大切にする心や思いやりの心、倫理観や規範意識、コミュニケーション能力等を育てていくことが課題であると指摘されています。

そうしたことから、山口県教育委員会では、「教育ビジョン第2期重点プロジェクト」に「心ふれあう教育推進プロジェクト」を掲げ、様々な体験活動を通して子どもたちの心を育てる取組を進めています。

特に、平成14年度からは「豊かな体験活動推進事業推進地域・推進校」を指定し、他校のモデルとなる体験活動の推進に取り組んでまいりました。さらに、平成15年度からは「地域間交流推進校」を指定するとともに、平成16年度からは「長期宿泊体験推進校」、平成17年度からは「命の大切さを学ばせる体験活動に関する調査研究協力校」を指定し、研究してまいりました。平成20年度は、新たな取組として中山間地域づくり推進室と連携を図り、「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」を指定し、農家での宿泊を伴った農業体験等を推進してきたところです。

こうした中、このたび平成20年度の本事業全体の成果等をまとめ、『豊かな体験活動推進事業実践事例集』を刊行することにいたしました。本冊子は、体験活動に関する様々な実践モデルを提供することにより、各学校において、それぞれの地域の特性を生かした効果的な体験活動が実施されることを願って、各実践研究校の協力を得て、作成・編集したものです。

各学校におかれましては、本冊子を十分活用され、子どもたちに豊かな人間性や社会性などを育むための体験活動に一層積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

終わりに、本書の作成に当たり、終始熱心に御協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年3月

山口県教育庁

義務教育課長 中 馬 好 行

高校教育課長 三 吉 英 太

も く じ

1 児童生徒の輝く心育成事業 ～ふれあい応援プロジェクト～ (H19・20年度)

命の大切さを学ぶ体験活動の推進

周南市立湯野小学校	4
田布施町立田布施西小学校	10
山口市立宮野中学校	16
周南市立菊川中学校	20
山口県立高森高等学校	24

2 農山漁村におけるふるさと生活体験 (H20年度)

自然体験や農林漁業体験の推進

下関市立文関小学校	30
山口市立大海小学校	34
周南市立夜市小学校	40

3 学校教育における人間力向上のための長期宿泊体験活動推進プロジェクト

(H19・20年度)

仲間と学ぶ長期宿泊体験教室の推進

下関市立王喜小学校	48
下関市立山の田小学校	52
周南市立久米小学校	57
周南市立福川南小学校	61
美祢市立美東中学校	65

4 子ども農山漁村交流プロジェクト山口県受入地域 (資料)

長門市俵山地域	71
阿武町	77
岩国市錦町	83

命の大切さを学ばせる体験活動

しゅうなん の
周南市立湯野小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：7学級(内特別支援学級1学級)
- 児童数：74人
- 教職員数：11人
- 活動の対象学年：全学年・74人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 湯野温泉を校区にもち、山や川等の自然にも恵まれている。地域社会との連携も深まり、温かな眼差しに包まれた児童はのびやかに育っている。老人介護施設や老人病院が点在し、高齢者との交流も盛んである。
- ほとんどの児童が隣接した幼稚園から入学し、異学年とのつながりを深める中、全校が大きなファミリーという思いがつけられている。

③ 連絡先

- 〒745-1132
周南市大字湯野3843番地
- 電 話：(0834) 83-2025
FAX：(0834) 83-2135
電子メール：yunosjm@shunan.ed.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 命の大切さを実感することを通して、自己肯定感をもち、よりよい生き方を実現しようとする意欲・態度の育成。
- 他の教科等との関連や日常生活とのつながりを通しての「ひとりだち（自立）」。
- コミュニケーション能力を高め、互いがかけがえのない一人であり、支え合って生きていること（共生）の実感。

② 活動内容と教育課程上の位置づけ

- 〈全校体制による活動から抜粋〉
- ふるさと探訪
(総合的な学習、生活5時間)
- 三世代ふれあい活動
(生活、図工、総合的な学習2時間)
- 〈各学年の活動から抜粋〉
- 成長の記録作り(第2学年)
(生活17時間、道徳2時間)
- 元気をお届けします(第3学年)
(総合的な学習36時間、国語6時間、音楽6時間、図工4時間、道徳3時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ① 命の大切さを実感することを通して、かけがえのない存在である自分自身を肯定し、一人ひとりがよりよい生き方を実現しようとする意欲・態度を育む。
- ② 体験活動と他の教科等との関連を図ったり、日常生活とつなげたりすることにより、「ひとりだち（自立）」をめざす。
- ③ 体験活動の中で自分の思いを表現し合う場を設定してコミュニケーション力を高め、互いがかけがえのない一人であり、支え合って生きていること（共生）を実感させる。

(2) 全体の指導計画

① 主な活動と教育課程上の位置づけ

学年	体 験 活 動	教育課程上の位置づけ
1	和牛農家の訪問、幼稚園との交流、サツマイモの栽培	生活、道徳、学活
2	成長の記録作り、幼稚園との交流、野菜の栽培	生活、道徳、学活
3	高齢者、障害者との交流	総合的な学習、道徳

4	飼育活動、幼稚園との交流、1/2成人式、環境緑化	総合的な学習、図工、学活、道徳、保健
5	飼育活動（メダカ）、竹炭作り、お仕事にチャレンジ	総合的な学習、学活、道徳
6	栽培活動（大豆）、お仕事にチャレンジ	総合的な学習、学活、道徳
全校	ハートフルコンサート、サン・サンロードクリーン作戦、三世代ふれあい活動、ふるさと探訪、お話の会、一人一鉢運動、全校道徳	国語、生活、図工、家庭、総合的な学習、特活、道徳

② 各活動の指導計画（例 第4学年 1／2成人式をしよう）

活動の名称	内 容（道徳はねらい）	教育課程上の位置づけ	単位時間数
いっしょに遊ぼう	飼育動物の話をしたり、園児と遊んだりする。	総合的な学習	10
大人に近づくからだ	男女の体の変化を理解する。	体育（保健）	4
おばあさんのおむかえ	家族の一員として役割を果たしていこうとする。	道徳	1
フィンガーボール	相手のことを思いやり、親切にする	道徳	1
ぎこぎこトントン	「湯野にあるといいもの、いるもの」をのこぎりや金づちをつかって木工制作する。	図工	6
アルバム	生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。	道徳	1
湯野にあるといいものを完成させよう	4年生、園児それぞれが作った物を持ち寄り、「ジェットコースターのある水族館」「夜の動物園」を制作する。	総合的な学習	6
こどものいのちを助けたい	生命の大切さを感じ取り、生命あるものを大切にする。	道徳	1
1／2成人式をしよう	自分の成長を喜び、将来の夢を語る式を行う。	総合的な学習	11

2 活動の実際

(1) 全校での活動例 ～ハートフルコンサート(ピアノ演奏会)～

① 事前指導

視覚障害者である今回の奏者は、山口県内だけでなくいろいろな場で演奏活動が続けておられ、たくさんの賞を頂いておら



「新ちゃんがないた」を見て

24日（土）に「新ちゃんがないた」のビデオを見ました。

生まれつき足の不自由な新ちゃんは、歩行の訓練を受けるために、小学校入学と同時に「はまなす学園」で暮らし始めます。5年生になった新ちゃんは、もう自分の力で生活ができるだろうということで自宅に帰り「田上小学校」に転入し、幼なじみのツヨシ君と一緒に登校し始めました。嫌がらせにあいながらも、自分らしくがんばります。新ちゃんやツヨシ君のすばらしさが全校のみんなにも伝わりよりよく成長していくというお話です。

4年生は、新ちゃんではなく「ツヨシ君のすばらしさ」について感想を書きました。

- ・ツヨシ君は、新ちゃんが好きだからそばにいて困ったときに助ける。
- ・ツヨシ君は、新ちゃんががんばるから助ける。
- ・新ちゃんがトイレで困っていたら、そのことを先生に伝え、手すりや洋式の便器をつけてもらった。行動力がある。
- ・みんなからいやがらせを受けていた新ちゃんをかばっていた

たくさんのすばらしさを見つけており、めあてに沿って一生懸命考えている姿、鉛筆を走らせている姿にとっても嬉しくなりました。ただ、気になったのが、ツヨシ君がすることに対して「～してあげている。」という書き方です。ツヨシ君は自分の意志で行動しているのだから、「～している。」と書いていこうと話しました。

動物たちや下の学年、学級の友達にもとても優しく接することができ4年生なので、さらに相手の立場に立って話したり書いたりしていけるように見守っていこうと思います。（担任も一緒に気をつけていきたいと思っています。）

学年便りから抜粋

れることを伝えました。全校で「新ちゃんがないた」のビデオ視聴もした。各学年に応じて新ちゃんが障害を克服しながら一生懸命に生きようとする姿や友だちのツヨシ君の温かい眼差しなどについて感想を書いたり話し合ったりした。

② 活動の展開

「エリーゼのために」など、児童がよく耳にする曲や口ずさめるものを中心に演奏されたこともあり、流れるような指運びや柔らかな響きに時間のたつのも忘れ聴き入った。演奏の途中に「毎日時間を決めて練習する。病気になるないように体を鍛えている。好きなことを集中的に練習することが大切。親がいなくなってもひとり立ちできるようにするためにしている。」など、お母さんから息子であ

る奏者への接し方や育て方についての話を伺うこともできた。

③ 事後指導

全校で感想を書き、道徳や学活で深めていった。どの学年も、「障害を感じさせない演奏に感激した」「元気な自分が怠けているので負けずに力をつけていきたい」「『以前よりさらに上手になっておられる』と先生が教えてくれた。目標をもって練習をしておられるからだろう。すごい。」などと、今の自分に置き換えて考えていた。学校生活の中で目標を見失いそうになったときなどに思い出して頑張る姿も見られる。

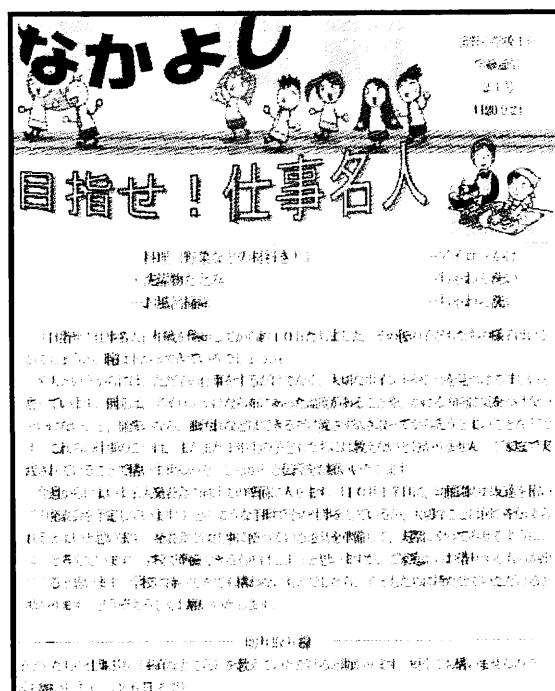


(2) 各学年での活動例 ～ 第1学年の活動 生活科「だいすきだよ」 ～

① 事前指導

学級の実態として、何事も自信がなく活動に手間取る児童が多いので、5月連休明けから「いえのおしごとをしよう」を休日の宿題にしてきた。本単元に入るに当たり、実施した「家の仕事調べ」の結果から、児童は家の仕事の多さや、そのほとんどを母親が担当していることなどに気付いた。そこで、小単元「めざせ！しごとめいじん だいさくせん」では、家族と相談して、ほぼ毎日できるものを自分の仕事に決めて取り組んでいくことにした。

家庭で行ったことを学校で検証しながら深めていくという学習なので、家庭との連携が不可欠である。活動の意義や声かけの仕方等を右のように学年便りで知らせた。



② 活動の展開

○ 仕事がんばりカードの活用

仕事の様子や気づきを毎日記録して保護者にも一言記入してもらい、気持ちの交流を図る手段とした。

○ 「仕事名人発表会」リハーサル

2年生のアドバイスを受け、聞き手の立場に立って発言できるようになった。

○ 「仕事名人発表会」⇒園児を招待

各自の仕事ぶりを聞き手（幼稚園児）にわかりやすく発表した後、技を伝授した。この活動で仕事名人として誇らしい気持ち（自尊感情や自己有用感）を膨らませるとともに、他の仕事にも意欲がわいてきた。



③ 事後指導

この学びを家庭生活にもどし継続できるよう、名人認定証や保護者からの手紙を活用して更なる意欲付けを図った。手紙の返事を書き、これからの仕事がんばりカードも自作し、一緒に手渡した。そこには、日頃伝えられない言葉や感謝の気持ちが満ち溢れていた。

3学期は、「たのしかったね 1ねんかん」と題して、できるようになったことがたくさんある自分を振り返り自信を深め、家族や新しく入ってくる1年生のために役立とうとする気持ちを更に高めていきたい。



(3) 各学年での活動例 (幼小連携・異年齢交流を軸にした取り組みから)

～ 第4学年の活動 総合的な学習「1/2成人式をしよう」～

命の授業関連図	
時期	児童の意識の流れ
4月	〈自分に関する〉 ・4年生今日から上学年だ。何が起こるかなあ。 〈生き物に関する〉 ・飼育の仕事が始まる。一生懸命やろう。 ・えさを残しているけれど、どうしてだろう？ ・ふんの色が変だ。 ・えさにも好き嫌いがあるようだ。 ・アルファは朝いつもチャボけんかを売りに行く。 ・気づいたことを分かりやすく発表しよう。 ・同年生にでも分かるように工夫しよう。 ・小道具を作ろう。 ・クイズを入れよう。 ・聞きやすいように話そう。 ・1年生が来るように紹介をし、誘いに行こう。 ・ふれあいコーナーに、たくさん来るよう、放送したりカードを配ったりしよう。えさも出そう。 ・うまくいったよかった。 ・動物もぼくたちみたいに性格があるよね。だからかわいいたよね。 ・サンサン花壇に花を植えよう。 ・今度は夏の花を植えよう。きれいだね。 ・社会や道徳で勉強したように湯野もきれいになろう。 ・田部井淳子さんと野口健さんみたいに、まず湯野の環境をきれいになろう。 ・湯野はきれいですって、頑張って言いたいな。 ・サン・サンロードクリーン作戦。全校でやるときれいになるね。 ・サンサン花壇に春に咲く花を植えよう。
5月	〈自分に関する〉 ・言葉がちよっと難しい勉強だね。 ・体の外側が少しずつ変わっていくんだね。 ・お母さんみたいな体になるんだ。 ・体の変化は、男女差、個人差、年令差があるから、悩まなくてもいいんだ。 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
6月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
7月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
8月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
9月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
10月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
11月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
12月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
1月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
2月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
3月	〈自分に関する〉 ・体の中も大人になるために変わっていくんだね。 ・大人になる体を大切にしよう。 ・食事や運動、睡眠にも気をつけよう。 ・家の人もこんな時があったんだね。 〈生き物に関する〉 ・幼猫のブランコはあんなに小さかったかなあ。 ・砂遊びをよくやったね。 ・ピンクのドレスが青いのになっていったね。 ・幼稚園の友達が「また来だね。」と言っていたよ。 ・ぼくたちや幼稚園の施設で変わったところを幼稚園の先生に聞いてみよう。 ・木工製作をいっしょにやろう。設計図のように作れるかなあ。 ・うまく作れるかな。友達のを参考にしよう。 ・幼稚園の人は動物を作るのがうまいな。 ・赤ちゃんの頃から今までの成長を残そう。自分のよさができるといいな。アドバイスをもらおう。 ・夢はまだ決まっていな。 ・ぼくは、野球の選手が夢だ。 ・私は看護婦になりたいの。 ・たくさん来てほしいな。 ・音楽や衣装を考えよう。 ・みんな喜んでくださったね。 ・5年生になっても、このことを忘れないでいよう。
各教科等との関連	
総合 生き物を大切に育てよう ・動物の世話を手際よくする方法やめあてを決める。 ・湯野っ子集金や幼稚園で発表する。 ・ふれあいコーナーの計画を立て、昼休みに実施する。 ・動物のことで気付いたことをカードに記入する。 道徳 ぼくの生まれた日ードラえもんー 家庭室 4-(2) ねらい 家族が自分のことをどれだけ大切にしているかを理解し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。 湯野っ子集金・ふれあいコーナー 体育(保健) 大人に近づくからだ ・赤ちゃんの頃からの成長について知る。 ・成長には食事、運動、休養が必要であることを理解する。 ・男女の体の変化について理解する。 ・心の変化を理解し、男女が互いに協力し合っていくことの大切さに気付く。 道徳 おばあさんのおむかえ 家庭室 4-(3) ねらい 家庭がそれぞれの家族によって支えられていることを理解し、その一員として役割を果たしていこうとする態度を育てる。 総合 湯野飼育・環境係出陣 ・サンサン花壇に花を植える。 ・校内の草取りをする。 ・校区内のごみクリーン作戦を行う。 道徳 富士山を教えー 田部井淳子ー 自然愛・動物愛護 3-(1) ねらい 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動物を大切にすること。 総合 1/2成人式をしよう ・湯野幼稚園児と遊ぶ。 ・湯野っ子集金で発表したものを見せる。 ・木工製作で「湯野にあったらいいもの」を作る。 ・園児の作った物を元に設計図を考える。 ・一組に仕上げをする。 ・音楽隊で発表する曲を聴いてもらう。 ・園児の発表を見せてもらう。 ・園生から4年生までの成長記録(心身両面から)を作成する。 ・招待する人を決め、招待状を作る。 ・自分の将来の夢を考え、発表する方法を考える。 ・学習発表会に招待する。(1年生と一緒に) ・1/2成人式の計画を立て、練習をする。 ・1/2成人式を行う。 ・お礼の手紙を書く。 道徳 アルバム 生命尊重 3-(2) ねらい 生きていることの大切さを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。 道徳 子どもの助け合い 生命尊重 3-(2) ねらい 生命の大切さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。 道徳 前へ進もうー 車いすでサッカーーかんときー 目指すー 活動力 1-(3) ねらい 自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げる。	

具体的な子どもの姿の一覧表を参考に各学年で設定した児童像に照らし合わせながら行動や記述物を見たり、保護者と連携しながら児童の様子を聞き取ったりという方法で日頃から成長の様子を見取り書き留めていくよう努めている。また、アンケートも実施し指導の改善に生かしている。

学年便りから抜粋

③ 道徳の時間等での補充・深化・統合

体験から得られた価値を道徳の時間等に取り上げ、再度向き合うことで活動の価値を高め、各活動に関連性をもたせて生かし高め合うよう改善している。

5 活動の成果と課題

① 進む活動の体系化と「知」の総合化

児童の発達段階を踏まえて、命のどの側面に視点をあてた学習を仕組んでいくのかを明確にして単元構想「命の授業関連図」を練っていくことにより、様々な教育活動を関連付けて生かしていこうとする教師の構えができた。積み上げられてきた活動が学校全体の見通しの中で体系的なまとまりのあるものとなり、「知」の総合化につながっている。

② 連携の拡充推進

○ 学年間の実践に系統性をもたせ、学びが上の学

年につながっていくよう校内連携が強化された。2年生と4年生の性教育では、両担任だけでなく、研修主任、養護教諭、ゲストティーチャーの助産師も加わって指導案を検討し、

「自己肯定感」を育むとともに「命の自己責任」についても価値を深めていくことができた。

○ 前述の幼稚園を始め、家庭や地域社会など、校外との連携も深まっている。昨年度の課題であった「ふるさとへの愛着を生むよう、湯野の自然を生かした体験活動の開発」がなされ、「ふるさと探訪」として湯野の子どもたちの安全を見守る会の協力の下で実施した。

③ よりよく生きようとする児童の姿

○ 伝統となった活動を通して子どもたちのつながりが強まっている。飼育活動を行ってきた毎年の4年生は、「かけがえのない命」を軸としてつながっている。ウサギの突然の死で4年生が作る墓の前に自発的に集まった5、6年生の姿。かつて4年生の時に飼育を通して心の中に共通の思いが育っているのを実感した姿であった。

○ 異年齢とのかかわりの中で、うまくいかないところを手伝ったり、相手の思いを尊重しながらアイディアを出したりする姿によりよく生きようとする心を感じる。

○ 学びあう姿・遊ぶ姿・働く姿等の中に仲間への温かい思いの伝わる言動や、登校後すぐ飼育小屋に向かい生き物を愛おしむ姿などが日々見られている。

④ 評価の累積と更なる連携

○ 子どもを見取る具体的な姿の一覧表を命観と照応させて整理し、目指す姿を更に明確にしたい。それは、教師が子どもの変容を見取る力を高めるだけではなく、子ども自身が自己の成長を実感しよりよく生きようとする姿勢を育む契機になると考える。

○ 6年間の学びで育まれたよりよく生きようとする姿が、一人ひとりの夢の実現に向けて卒業後も継続されるよう、中学校との連携を強化していきたい。

ありがとう。チャッピー！

20日（金）ウサギのチャッピーが小屋の中で静かになっていました。

「今週に入ってあんまりえさを食べなくなっていたの。」

「4月ごろ、おしりから血みたいのが出ていたよね。」

「今週は雨が多くて、濡れたのがいけなかったのかな。」

「最近、ちょっと元気がなかったよね。」

子どもたちも私たち教職員もショックで、たくさんの思い出や後悔が心の中に湧きあがっていました。

ほとんどの子どもたちが、物心がついてから初めて「死」というものに会ったようで「これからどうしたらいいのだろう」「何かもつとしてあげていけばよかったのに」涙が出て仕方ないという状態でした。また、愛情を込めてお世話していたからこそ、「生」への感謝があらわれていたのだとも感じました。

「チャッピーの姿はなくなってしまったけれど、湯野小みんなの心の中にいつまでも生きています。そして、湯野小に元気をくれたチャッピーに感謝しよう。あつちの世界でも、楽しく過ごせるように、みんなも負けずにいろいろなことに挑戦しよう。」

と担任が話し、みんなはこれまでのお礼や考えていることを手紙にしました。

子どもたちは、チャッピーが寂しくないように、あつちでもひまわりを育てようとして、お墓の前で「うさぎのダンス」を歌ったり、お花をあげに行ったりするそうです。「一つお別れ」からもらった命が、満足感が、きっとこれから子どもたちの成長に役立っていくのではないかなと感じました。

自然や文化・芸術に関わる体験活動

たぶせ たぶせにし
田布施町立田布施西小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：8学級（内特別支援2学級）
- 児童数：181人
- 教職員数：16人
- 活動の対象学年：全学年（181人）

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本町は県東部に位置し、人口約1万6千人で、田園風景が広がる農村地帯である。
- 周南市や柳井市の近郊地域として発展し、人やものの交流が盛んである。
- 豊かな自然と古代以降の長い歴史、民話や特産、地域を愛した先人など優れた文化が融合した地域である。
- 古代から米作りが盛んで、海上交通の要所でもあった。また、「熊毛王」の古墳も数多く点在する。
- 現在、地域交流館を主とする物産店が各地にでき、地産地消をはじめ、地域素材を活用した様々な活動が展開されている。
- 民話の紙芝居作りやハゼの実ロウ復活など、田布施文化を継承・創造していこうとする住民の地域活性化の気運やその活動が高まっている。

③ 連絡先

- 〒742-1511
山口県熊毛郡田布施町下田布施 2156-1
- 電 話：0820-52-2051
- F A X：0820-52-2126
- 電子メール：tabusenishi-e.school@town.tabuse.yamaguchi.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 町の自然や文化・芸術に関する体験活動を通して、豊かな心とふるさと愛に満ちた、命を大切にする児童の育成を図る。
- 身近な地域とふれあい、自分なりのふるさと観を構築し、進んで田布施の良さを発見する地域創造の態度を育てる。
- 地域に積極的にに関わり、進んで活動しようとする態度を養い、豊かに生きていく知恵を発見し、活用する力を身に付ける。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 自然に関わる体験活動
 - ・「夢広がる里山再現 in 学校林」
(理科4時間、図工4時間、総合的な学習の時間10時間、特別活動5時間)
 - ・「土の臭い、風のかおりを楽しもう！」
(国語1時間、理科4時間、家庭5時間、総合的な学習の時間6時間、特別活動6時間)
- 文化や芸術に関わる体験活動
 - ・「古代田布施文化を夢見よう！」
(社会4時間、図工6時間、総合的な学習の時間30時間)
 - ・「田布施文化を味わおう！」
(国語4時間、社会2時間、総合的な学習の時間4時間、特別活動2時間)
 - ・「新しい田布施文化を創ろう！」
(国語4時間、音楽2時間、図工2時間、総合的な学習の時間8時間、道徳2時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

本町は、豊かな自然と古代以降の長い歴史や文化が融合した地域である。そこに有する学習素材を有効に活用し、豊かな心とふるさと愛に満ちた命を大切にする児童の育成を目指してお

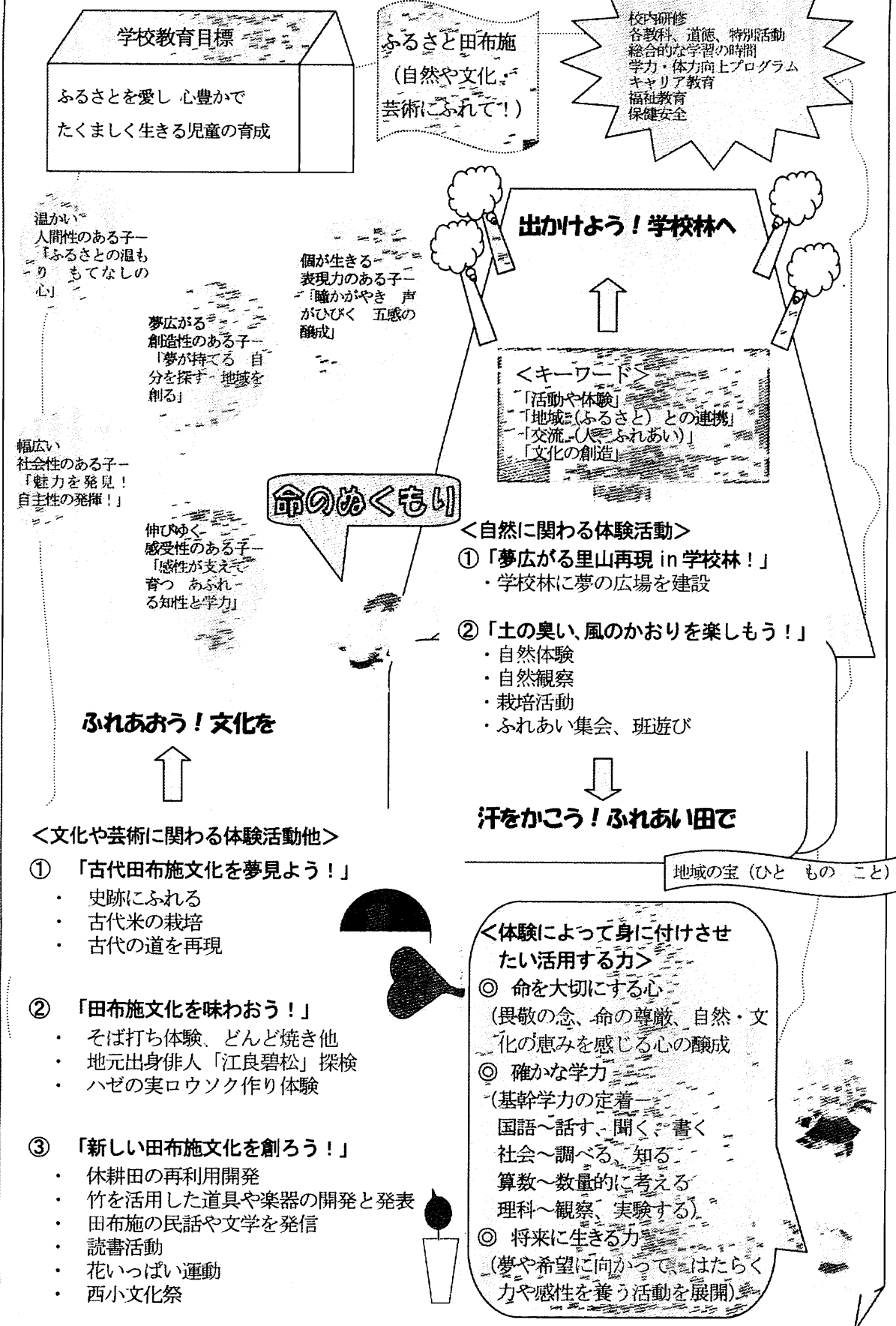
り、体験活動をととして、次のような児童を育てたいと考えた。

- ・ 温かい人間性のある子「ふるさとの温もり もてなしの心」
- ・ 幅広い社会性のある子「魅力を発見！ 自主性の発揮！」
- ・ 夢広がる創造性のある子「夢が持てる 自分を探す 地域を創る」
- ・ 個が生きる表現力のある子「瞳かがやき 声がひびく 五感の醸成」
- ・ 伸びゆく感受性のある子「感性が支えて育つ あふれる知性と学力」

(2) 全体の指導計画

活 動 の 名 称		実施 学年	内 容	教育課程上の 位置づけ	期間（単位時間数、 日数等）
自然に 関わる 体験活動	夢広がる 里山再現 三学校林	遊び場作り	6年 秘密基地、ふれあい 遊具	図工、総合的な学習 の時間、特別活動	通年 (17時間、10日)
		見晴らし場作り	6年 野鳥観察、展望場、双眼鏡設置	理科、総合的な学習 の時間	10月、2月 (2時間、2日)
		ピオトープ	全校 ミニ田んぼ、小川	総合的な学習の時間	4月、5月 (2時間、2日)
		ネイチャーゲーム	6年 樹木調べ、樹木の名札付け	理科	5月(2時間、1日)
	土の臭い、 風のかおりを楽しもう！	どろんこ祭り	5, 6 米俵うばい、江良碧松カルタとり、ど ろんこリレー、米俵ドッジボール	国語、総合的な学習 の時間	5月(2時間、1日)
		田んぼの生き物調べ	4年 生き物の観察、生態調べ	理科	7月(2時間、1日)
		乾田遊び	5, 6 稲わら投げ、なる足リレー、なる足バ ンパー、稲わらダイブ	総合的な学習の時間	10月(2時間、1日)
		川遊び	5, 6 川の生き物調べ	特別活動	7月(1時間、1日)
		星空観察会	全校 四季の惑星や星座を観察	理科	8月、12月 (2時間、2日)
		野山の恵みを楽しもう	全校 フキ、タケノコ、野いちご、栗の収穫 と試食	家庭、総合的な学習 の時間	通年 (3時間、5日)
		ふれあい集会	全校 ウォークラリー	特別活動	4月(2時間、1日)
		なかよし班遊び	全校 陣取り、こおりおに、ケイドロ、アス レチック	特別活動	通年 (0.5時間、8日)
		環境奉仕	6年 地域のごみ拾い	家庭科、総合的な学 習の時間	8月、2月 (4時間、2日)
文化や 芸術に 関わる 体験活動	古代田布施文化を 夢見よう！	史跡にふれる	3, 6 町探検、古墳見学、土器作り	社会、総合的な学習 の時間	5月(6時間、6日)
		古代米の栽培・収穫	5, 6 田植え、稲刈り、脱穀、餅つき、ポン ボラ飯、しめ縄	総合的な学習の時間	5月～12月 (20時間、5日)
		古代の道を再現	6年 学校林で道造り、田布施文化再現(民 話、俳句、ハゼの実ロウ、古代人かたし)	図工、総合的な学習 の時間	5月～2月 (14時間、10日)
	田布施文化を 味わおう！	昔を体験	全校 そば打ち、どんど焼き、昔の遊び	総合的な学習の時 間、特別活動	10月～1月 (4時間、2日)
		江良碧松に近づこう	6年 自由律俳句	国語	6月～10月 (4時間、4日)
		ハゼの実ロウソク作り	6年 実の収穫、ロウ絞り、絵付け	社会、総合的な学習 の時間	10月(4時間、1日)
	新しい田布施文化を 創ろう！	休耕田の再利用	6年 セイタカアワダチソウでカブト虫飼育	総合的な学習の時間	通年(2時間、2日)
		竹楽器作り	3, 4, 6年 竹楽器の製作、音楽発表	音楽、図工、総合 的な学習の時間	9月、10月 (4時間、6日)
		読み聞かせ	全校 民話を読む・聞く、朝読書、読書ラ ー	国語、道徳、特別 活動	通年(6時間、20日)
		花いっぱい運動	全校 一人一鉢	特別活動	通年(4時間、20日)
		西小文化祭	全校 田布施文化を学校林に再現し体験コー ナーを設け、地域に公開	総合的な学習の時間	10月(4時間、1日)

児童生徒の輝く心育成事業 全体構想図



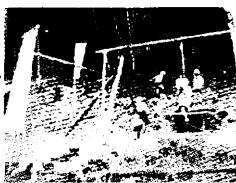
2 活動の実際

(1) 活動の展開

①自然に関わる体験活動の取組

○ 「夢広がる里山再現 in 学校林」

- ・ 秘密基地、ふれあい遊具（落ち葉の滑り台、稲わらダイビング場、ターザンロープ、竹ブランコ、トンネル）、



<稲わらダイビング>



<竹ブランコ>

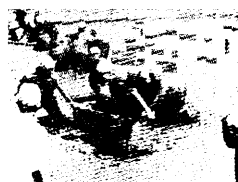


<樹木調べ>

木登り体験場、野鳥観察双眼鏡施設、校区展望場や校区紹介マップ、ビオトープ（ミニ田んぼ、小川）、生き物コーナー（羊）、樹木調べや名札付け（ネイチャーゲーム）

○ 「土の臭い、風のかおりを楽しもう！」

- ・ 自然体験、観察～星空、川遊び、～田んぼの生き物、乾田遊び、泥んこ祭り
- ・ 栽培活動～野山の果物収穫・試食



<どろんこ祭り>



<乾田遊び>

（フキ、タケノコ、野いちご、栗）

- ・ ウォークラリーふれあい集会、なかよし（縦割り）班遊び、環境奉仕

② 文化や芸術に関わる体験活動の取組

○ 「古代田布施文化を夢見よう！～農耕・生活文化」

- ・ 史跡にふれる～町探検、古墳見学、土器づくり
- ・ 古代米の栽培～田植え（文字アート）、稲刈り、脱穀、餅つき、ポンポラ飯、しめ縄飾り



<古代米アート『よい人』>



<稲刈り>



<古代米ポンポラ飯作り>



<餅つき>

- ・ 古代の道を再現～学校林に道を造り、田布施文化（民話・俳句・ハゼの実ロウ・古代人かかし）の世界を表現

○ 「田布施文化を味わおう！～農耕・衣食・環境文化」

- ・ そば打ち体験、どんど焼き、昔の遊び
- ・ 地元出身俳人「江良碧松」自由律俳句の学習
- ・ ハゼの実ロウソク作り体験～実の収穫、ロウ絞り、絵付け



<ハゼの実ロウ絞り>

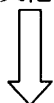
○ 「新しい田布施文化を創ろう！～芸能・生活文化」

- ・ 休耕田の再利用開～セイタカアワダチソウを利用したカブト虫飼育
- ・ 竹を活用した道具や楽器の開発と音楽発表～竹楽器の製作、町の音楽会で披露
- ・ 読み聞かせ（民話）の開催、民話の世界を学校林に再現し地域に公開
- ・ 花いっぱい運動～気候や季節にあった花の栽培、地域住民へ配布
- ・ 西小文化祭～町の自然、文化や芸術を再現、地域に公開



<文化祭風景>

基幹学力の向上を！



- ① 体験活動をとおして、初めて知ったことや学んだことを振り返る。

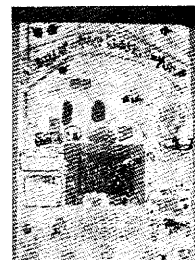


<体験から学んだことを書く>

体験活動からの連想
(マインドマップ)
→意見の交流



<かべ新聞作り>



<できあがったかべ新聞>

- ② 体験と田布施町の将来像や自分の今後の生き方についてかべ新聞にまとめる。

体験して、感じたことや
思ったことを俳句や日記に
書き記す。

継続することで、書く力
を養い、感受性や表現力の
向上につながった。<自作俳句>



体験から生じた疑問や「はてな？」を
新聞や図書などで調
べる。

調査・観察力が身
に付き、探究心が高
まっていった。



<新聞活用>

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会の体制

校内では、体験活動の担当者として地域コーディネーターを配置した。そして、体験のめあて達成のため、地域公民館長、生きがい教室会長、PTA 会長、読み聞かせの会会長、地域活性化に尽力されている地域住民、さらに学校評議員の方にお願ひし、委員会を構成した。

(2) 支援委員会の主な活動

学校支援委員会や各教科等担当教員と連携を取りながら、地域や保護者、全教職員の共通理解の下、実施計画やその方法など年間を通した見通しのある綿密な計画を作成していった。定期では学期に1回、学校と支援委員会のメンバーによる協議会を開き、活動計画や活動報告をして、幅広く意見を聞いた。

さらに、出前講座や子ども教室を実施している県や町の関係部署・機関や外部団体、支援ボランティアとも連携を密にして、充実した活動になるように努めた。

そして、体験活動を実施する際には、全教職員の共通理解を図り、児童の安全確保などの危機管理にも留意した。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

協議会並びに、活動事後の臨時の協議会を開き、地域住民や保護者などの外部評価や活動途中での形成的評価も積極的に行い、より効果的な体制作りや活動の改善をしていった。

また、学校便りや学級通信、町や公民館広報紙などで、積極的に広報活動を行い、活動の周知と協力をねらった。

体験後には、体験で初めて知ったことや学んだこと、感動したことなど、学習プリントや振り返りカードを使って、まとめていった。また、俳句や日記、かべ新聞にまとめる活動を取り入れ、体験のみに終わらず、事後指導へも重点を置いた。

ここで、体験後の振り返りカードでは、形成的評価と総括的評価を行い、その項目には、身に付けさせたい力としてあげた、社会への興味・関心、情報活用・発信能力、表現力、コミュ

<形成的評価項目（例）>

- ① 体験は、楽しかったですか。
- ② 初めて知ったことがありましたか。
- ③ かべ新聞やプリントに上手にまとめられましたか。
- ④ 友達との交流はありましたか。
- ⑤ 次に、生かしたいですか。

コミュニケーション能力、社会貢献の心、ふるさと観や郷土愛に関するものを取り上げた。また、他教科との横断的評価と通年活動において伸びたと思われる点を加味した評価とした。

さらに、自分の成長に気づき、体験活動やNIE実践（2年次）に充実感を味わわせる配慮をした評価方法も工夫していった。

<総括的評価項目（例）>

- ① もっと町の文化や歴史を知りたい。
- ② みんなに町の文化や歴史を広めたい。
- ③ 本や新聞で有効な情報が得られた。
- ④ かべ新聞などへのまとめ方が上手になった。
- ⑤ 新聞などを使った広報活動のよさが分かった。
- ⑥ 国語や社会の学習にも生かした。
- ⑦ いろいろな人に出会った。
- ⑧ 体験は面白い。
- ⑨ 調べ、見つけることが上手になった。
- ⑩ 町の発展には、文化や歴史は必要だ。
- ⑪ よく作業をするようになった。
- ⑫ 町の良さがさらに分かった。
- ⑬ 県総合芸術文化祭は人成功だ！

<成長した自分を書いてみよう>

5 活動の成果と課題

本年度本校で取り組んでいる、本事業と山口県主催「子ども夢プロジェクト」（第2回山口県総合芸術文化祭）の事業を関連付け、この教育・体験活動を仕組んでいった。

結果、地域の宝「ひと、もの、こと」と積極的に交流することにより、自然や文化の恵を感じる心や地域や友だちへの感謝の心が育ち、よりよい人間関係を築いていこうとする温かい人間性が身に付いてきている。例えば、活動する過程で、友だちと協力し合い、励まし合っていく、団結力が育っていったこと、そこから、友だち同士で悩みを打ち明け、解決していこうとする態度が見られるようになったことなどである。

また、身近な地域での活動によって、自分なりのふるさと観を構築し、進んで田布施の良さを発見し、町の発展への意欲や実践力が高まり、地域創造の態度が育った。そこから自分たちの自然や文化を継承し、創造する活動へ発展し、地域に発信する力やコミュニケーション力などの社会性を身に付け、進んで将来の自分に生きてはたらく活用力を身に付けようとする意識がでてきたと思う。

ここで、保健室来室者の推移から児童の変容を見てみると、擦り傷や切り傷等の軽微なけがは増加したが、保険対象（大きなけが）の傷害は減少した。これは、活動時間（機会）や遊び場が増えたことに原因はあるが、柔軟性や運動能力の向上が見られた結果である。また、体の不調（頭痛や腹痛等）を訴える児童が半減したことは、休み時間や授業で友だちと運動場や学校林で遊び、発散した証拠であり、気力やたくましさが増成されたものと推察できる。

さらに、国語や社会科、図工、総合的な学習の時間、特別活動などとの横断的な活動によって、調査・観察、技能、思考や理解など基幹学力の向上が見られた。様々な体験で学んだことを俳句や日記に表したり新聞にまとめたりすることで、感受性や表現力が豊かになり、書く・聞く・話すといった言語活動の充実につながり、確かな学力が身に付いてきていると確信する。

特に、豊かな体験の実践活動をまとめた「かべ新聞」が、「全国かべ新聞コンクール」で入選し、評価をいただいたことが、その成果の表れだと確信する。豊かな体験で学んだ様々な力を発揮し、広く発信したいという実践力が身に付いたと実感した。

最後に、全国的な課題である、活用力や応用力の育成にもつながるような教育活動のあり方を探り、教科の学力向上を補完することができるような取組を開発・実践したい。そして、夢と希望に向かって将来に活用力や応用力が生きて働き、学習面でも体験で得た力が生かされる教育活動を開発していく。さらに、今後とも、「活動や体験」「地域との連携」「交流」「文化の創造」をキーワードに、児童のやる気を喚起できる魅力ある活動を継続的に展開していきたい。

赤ちゃんとのふれあい体験活動

やまぐち みやの
山口市立宮野中学校

学 校 の 概 要

① 学校の概要

- 学級数：13学級
- 生徒数：353人
- 教職員数：31人
- 活動の対象学年：2年・122人

② 体験活動の観点からみた学校環境

- 本校は、山口市の中心地より北東に位置し、周囲はすぐ近くまで山に囲まれ、水田を作っている農家も多く、自然の豊かさを感じさせる地域である。しかし、日常生活の中で自然や地域の人々とふれあう機会や経験は、少ない。
- 宮野地区は中心地に隣接した新興住宅地となっているため、核家族が多く、地域と学校との結びつきが希薄な面が感じられ、学校の様子が地域に伝わっていない面もある。

③ 連絡先

〒753-0021
山口市桜畠4丁目9-1
電 話：083-928-0144
FAX：083-928-0597
電子メール：miya-jhs@c-able.ne.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 地域のお母さん方と乳幼児との交流体験や専門家からの直接の指導を通して、生きていることに感謝し、自他の命を大切にしようとする気持ちを育てる。
- 職場での勤労体験を通して、働くことの厳しさや喜びに触れ、社会の仕組みやマナーについて学び、自分の将来について真剣に考えさせる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 保健師による指導
家庭科 2時間
- 赤ちゃんとのふれあい体験学習
「赤ちゃんと遊ぼう、赤ちゃんに学ぼう」
ふれあい体験 総合的学習の時間 18時間
- 助産師による「命の大切さについて」の授業
保健体育 2時間
総合的な学習の時間 4時間
- 大学生によるピア・カウンセリング
全校 学校行事（文化祭） 2時間
- 命の大切さを学ぶ講演会
保健体育 2時間
道徳 2時間
- 職場体験学習
総合的な学習の時間 18時間

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

- ・ 地域の子育てネットワークのお母さん方の協力を元に、2回（6月、12月）のふれあい体験の中で赤ちゃんの半年間の成長や発達の早さを知り、お母さん方の出産や子育て話を聞いたり、我が子への愛情のこもった接し方を傍らで見たりすることにより、命のつながりや命の大切さを学ばせたい。
- ・ 自分も愛情をもって育ててもらったことを知ることで、自尊感情を高め、親や周囲の人たちへの感謝の気持ちをもたせたい。

- ・ 専門家から、中学生の身体と心の成長を学ぶことで、自分の成長を客観的に見ることができるようになり、正しい情報をもとに、正しい判断力を身に付けさせたい。

○ 全体の活動計画

活動の内容	単位時数	時期と位置付け
事前学習として、助産師から乳幼児の成長と発達の講義を受け、赤ちゃんの抱き方とオムツ交換の実技指導を受ける。	2時間	6月 家庭科
赤ちゃんとのふれあい体験活動	6時間	6月 総合
職場体験学習	18時間	7月 総合
助産師による講演 「思春期のからだと向き合おう」	2時間	9月 保健体育
県立大学生によるピア・カウンセリング 「大学生と一緒にからだのクイズに挑戦しよう」	2時間	10月 学校行事 (文化祭)
赤ちゃんとのふれあい体験活動	6時間	11月 総合
助産師による命の学習 「思春期の心と向き合おう」	2時間	12月 総合
助産師による命の学習 「今、あなたたちに伝えたいこと」	2時間	12月 総合
村瀬幸浩氏講演 「思春期を生きるということ」私もあなたも大切	2時間	2月 保健体育
森 美加さん講演 「命について考える」	2時間	2月 道徳

※上記の中から2つを取り上げて次に報告する。

2 活動の実際

(1) 赤ちゃんとのふれあい体験活動

登録したお母親62人 乳幼児75人(6ヶ月～4歳)

○ 事前指導

昨年度の体験活動で、初めて赤ちゃんを抱いた生徒は全体の2割ほどにのぼった。今年度は、市の保健師と地域の母子推進委員の協力を得て、沐浴人形を使った事前学習を取り入れたことで、生徒の不安感を取り除くことができた。また、単なるふれあい活動にしないために、事前学習では、赤ちゃんに接する時のマナー、距離を縮めるための声かけの工夫や、お母さんに出産や子育ての思いを話してもらう質問内容をグループ毎に話し合った。

○ 活動の展開(ふれあい体験学習の活動の流れ)

- ・ 体育館に8枚のマットを敷き、8グループに別れて活動する。2回とも生徒と親子は同じ 班分けとする。
- ・ 参加者の緊張感をほぐすために、音楽をかけ簡単な手遊び歌をして身体と気持ちをほぐす。
- ・ 班長が司会進行をし、自己紹介をしながら赤ちゃん、お母さん、生徒の名札を作る。
- ・ 1回目はほとんどの班が出産や子育ての質問をしていたが、2回目は6ヶ月間の成長ぶりや、子育ての中で危険に感じたことなど、質問も班ごとに変わってきていた。
- ・ 質問の後は、生徒が準備した赤ちゃんが喜びそうなおもちゃや、風船、新聞紙、ボールなどを利用しながら遊びを工夫する。(2回目の時は、同じ班の赤ちゃんのために一人ひとずつおもちゃを作った。)
- ・ 班ごとに、班長がお礼の挨拶を述べて終了する。

○ 事後指導

2回の体験活動を通じて命の繋がりを感ずることができたか、人とかかわる中で自分な

りの表現をすることができたかなど、アンケートや感想を書く中で学びをふりかえった。
お母さん、赤ちゃんそれぞれにお礼の手紙を書き郵送した。

また、活動の感想をまとめ、学校便り、学級通信や保健便りに掲載することにより、互いの考えを知り、保護者にも生徒の活動を理解してもらっている。参加されたお母さん方にも、「ふれあい通信」を発行し、生徒感想や他の参加者がどのような意義を感じて参加されたかを知ってもらうものになった。

(2) 助産師による、命の大切さについての授業

○ 事前指導

昨年度は、保健の授業として助産師に話をしてもらったが、生徒の感想を読むと内容が少し難しかったことがうかがえた。そこで、今年度は教科担任の授業の後に実施することや、内容の精選や、エピソードを増やしてもらうようにした。

○ 活動の展開

「上級思春期相談士」の資格を持つ助産師に、各学年の発達段階を踏まえた指導をしていただいた。また、助産師という立場から、命の尊さと誰もが望まれて生まれてきたことを現場のエピソードを交えて話をしてもらい、生徒は性が自分の一生に関わる問題であること、命に関わる問題であることを理解することができた。

○ 事後指導

生徒の感想はテーマを設定して、これまでの自分の生活体験や考え方などを、総合的にとらえる中で、テーマに対する自分なりの考えを書く方法をとった。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会

大学教授、助産師、保健師、子育てサークルの代表、小学校校長、小学校教頭、教育委員会担当者、校長、教頭、研修主任、家庭科教諭、生徒指導、養護教諭のメンバーで構成した。

○ 配慮事項等

乳幼児が学校を訪れるため、お母さん方に安心して来校してもらえるような、案内状の準備を行い、活動の理解を求めた。また、質問の内容についても、事前に参加する方にお知らせしておいた。参加する親子に保険をかけ、安全面を含めた配慮をした。

4 活動の評価工夫と指導の改善

- (1) 最初と半年後ではどのように自分の意識や気持ちが変わったか、評価をさせた。
- (2) 協力を得たお母さん方にも評価をもらい、来年度に向けた活動の改善点が明確になった。
- (3) 教科とのつながりについては、教科主任や教科担当と事前に相談しながら進めた。学習指導要領に示されている教科の目標と体験活動の内容を考慮しながら進めた。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

○ 「ふれあい体験活動は今後も継続した方がよいと思いますか。」

生徒	・・・継続した方がよい	88%	分からない	9%	続けない方がよい	2%
参加したお母さん	・・・	90%	”	3%	”	0%

生徒の中には、「継続するのなら、2回目の方が積極的に関わられるので、2回実施した方が良い」や、「末っ子や、一人っ子には良い刺激になった」と言う意見があった。

○ 「ふれあい体験学習で印象に残ったことは何ですか。」

生徒の回答（3つ選ぶ）	参加したお母さんの回答（3つ選ぶ）
①自分が優しい気持ちになった 55人	①中学生が優しさや思いやりを持って接してくれた 22人
②お母さんたちの子育ての大変さが分かった 50人	②我が子が中学生になった時の様子が想像できた 16人
③子どもとの接し方や遊び方が分かった 46人	③予想したより中学生が礼儀正しかった 14人
④6ヶ月の赤ちゃんの成長ぶり 45人	④子育てをする親として中学生に協力できた 11人
⑤自分もこんなに大切に育てられていたこと 24人	⑤異年齢で交流することの必要性を感じた 10人
⑥自分の作ったおもちゃを喜んでくれた 20人	⑥子育ての話を中学生にできた 7人
⑦幼いもの、弱いものの、命の大切さ 20人	⑦生徒の半年間の成長ぶり 4人
⑧赤ちゃんが身近な存在になった 13人	⑧開かれた学校であると感じた 3人
⑨出産や、子育ての話を聞くことができた 10人	⑨子育ての大変さを中学生に分かってもらったこと 2人
⑩自分の親に感謝の気持ちを持つようになった 9人	⑩その他（おもちゃを手作りしてくれたこと） 4人

アンケートの結果からも分かるように、生徒も参加したお母さん方も、ふれあい体験活動の意義を感じている。幼い命との交流の中で、生徒はこれまで感じたことの無かった慈しみの感情や忘れていた親への感情など多くのことを味わうと共に、子どもの発達のすじみちや発達を支えるかかわり方などについて、学ぶことができた。また、目の前にいる乳幼児の姿と、助産師が話す出産までの期待と緊張感が重ね合わさり、生徒一人一人が命の尊さを肌で感じる事ができた活動であった。

(2) 課題

本校の活動は2年目を迎え、来年度以降も活動を継続していきたい。今後の課題として、1回目のふれあい体験活動が終わってすぐ、生徒同士による反省会を取り入れる必要がある。体験活動の目標を達成できたかをふり返り、2回目の活動では生徒各自がより主体的に関われるように意見を出し合う場にしたい。

また、参加されたお母さん方の、中学生の役に立ちたいという気持ちが強いので、生徒がそのことを汲み取り、お母さんへのかかわり方を変えていく必要がある。

当初、6ヶ月間あけて成長の様子を見るようにしていたが、11月下旬は寒いので時期にこだわらず早い時期にした方がよいと思われる。

今後も、人とのかかわりを大切にする実践に取り組んでいき、本校が目指している表現力やコミュニケーション能力をより高めることができるような活動を創っていきたい。



夢の実現に向けて、たくましく生きる生徒の育成
～ 「生きる力」を高める教育活動の深化、充実 ～
しゅうなん きくがわ
周南 市立菊川中学校

— 学 校 の 概 要 —

① 学校規模

- 学級数：7学級（内特別支援1学級）
- 生徒数：201人
- 教職員数：15人
- 活動の対象学年：2年生・67人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 周南市の周辺部に位置し、校区の南にコンビニート、北に山村地域がある。学校は国道2号線から、3キロ北に入った農村地域にあるが、近年宅地化が進み、田畑が住宅地に変わりつつある。
- 校区内に幼稚園、保育園、通所介護事業所があり、地域内で3世代にまたがった活動・行事が行われている。地域行事には、小学生や中学生も参加している。
- 教育や文化への意識が高く、特に公民館活動を中心とした社会教育活動が盛んである。また、保護者の教育に対する関心が高い地域である。

③ 連絡先

- 〒745-0853
周南市大字上村685番地
- 電 話：0834-62-2805
- FAX：0834-62-2389
- 電子メール
kikugawachu@shunan.ed.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

① 活動のねらい

- 人とのふれあいを深め、郷土愛や思いやりの心を育てる。
- 活動の中から課題や疑問を見つけ、解決する資質や能力を育てる。
- 介護や幼い命を育む職に携わる人とふれあう実習や、命の大切さを伝える人々の話を聞くことを通して、生命の尊厳や他者へのいたわりの心を育てる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 命を考える教育講演会（全学年）
（総合的な学習の時間2単位時間、道徳2単位時間）
- 被爆体験講演会（2年）
（道徳2単位時間）
- 広島平和学習・発表会（2年）
（総合的な学習の時間8単位時間）
- 自転車安全教室（全学年）
（特別活動1単位時間）
- 「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。」教室（全学年）（保健体育2単位時間）
- マナー講習会（全学年）
（総合的な学習の時間2単位時間）
- 職場体験学習・発表会（2年）
（総合的な学習の時間14単位時間）
- 人間関係づくりワークショップ（全学年、2年）（特別活動5単位時間）
- 芸術鑑賞会（2年）
（総合的な学習の時間4単位時間）
- ボランティア活動（全学年）
（総合的な学習の時間3単位時間）

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

- ・ 平和学習や職場体験などの活動を通して、命の大切さや他者への思いやりの心を学ばせるとともに、将来に向けて主体的に生きる態度を育てる。
- ・ 活動の中から課題や疑問を見つけ、それを解決する能力を育てる。

- ・ ワークショップの活動を通して、他者への思いやりの心を育て、仲間と協力することの大切さを学ばせる。
- ・ 命の大切さや生きることについての話を聞き、生命の尊厳や他者へのいたわりの心を育てる。

○ 全体の指導計画

実施学年	活動の名称 ・実施する体験活動の概要	実施日時・期間 (単位時間数)	教育課程上の 位置付け	活動の場所 (指導者)
全学年	命を考える教育講演会 ギター弾き語り講演会 ・ 講師の講演を聞き、生きることの大切さについて考えさせる。	6月 8日 (2時間) 10月22日 (2時間)	総合的な学習の時間 道徳	菊川中学校 (有國智光) (あどRun太)
2年	被爆体験講演会 ・ 被爆者の方々の話を聞くことによって、原爆や戦争の悲惨さ、平和の大切を知るとともに、命の大切さについて考えさせる。	5月 9日 (2時間)	道徳	菊川中学校 (周南市被爆者の会、濱田俊夫 稲垣方子)
2年	広島平和学習 ・ 原爆が投下された町を直に見学することで、戦争の悲惨さや平和の大切さを学ばせる。	5月20日 (6時間)	総合的な学習の時間	広島市
2年	広島平和学習発表会 ・ 平和学習の活動を再確認するとともに、発表を通して自らの課題や疑問を見つける。	6月13日 (2時間)	総合的な学習の時間	菊川中学校
全学年	マナー講習会 ・ あいさつ、言葉遣い等の重要性和基本を学び、実践しようとする態度を育てる。	11月13日 (2時間)	総合的な学習の時間	菊川中学校 (自動車販売会社 井上智一)
1年 2年	職場体験学習 ・ 職場体験をすることにより、働くことの厳しさを知るとともに、将来の自分の生き方について考える。	11月 18・19日 (12時間)	総合的な学習の時間	各事業所
1年 2年	職場体験学習発表会 ・ 各職場ごとに活動のようすをまとめ、活動を振り返りながら課題を発見する。	11月26日 (2時間)	総合的な学習の時間	菊川中学校
全学年	薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室 ・ 薬剤師の話を聞き、薬物が体や社会に与える恐ろしさを学ぶ。	7月10日 (2時間)	保健体育	菊川中学校 (薬剤師 丸山恵子)
全学年	自転車安全教室 ・ 自転車の安全な乗り方を学び、命を大切にする姿勢を育てる。	4月 9日 (1時間)	特別活動	菊川中学校 (県警及び 周南交通課)

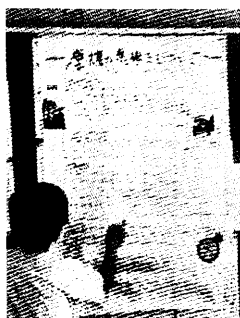
全 学 年 ・ 2年	人間関係づくりワークショップ ・ ワークショップを通して、仲間と協力することの大切さや思いやりの心を育てる。	4月24日 (2時間) 1月28日 2月2日 (各クラス 2時間)	特別活動	菊川中学校 (玉川大学 准教授 難波克己) (山口県十種ヶ峰野 外センター指導主事 手島泰寛)
2年	ブラインドウォーク ・ ブラインドウォークを行うことによって、他者への思いやりの心を育てる。	10月7日 (1時間)	特別活動	菊川中学校
全 学 年	資源物回収活動 ・ 地域の清掃活動、リサイクル活動を通して、地域住民との積極的な交流を図り、地域に生きる一員としての自覚を促し、地域への感謝の心を育てる。	12月6日 (2時間)	総合的な学習 の時間	菊川中学校
全 学 年	ボランティア教育 ・ ネパールに文房具を送る活動の話聞き、ボランティア活動に関心をもたせる。	11月7日 (1時間)	特別活動	菊川中学校 (周陽小学校 小島富美子)
2年	芸術鑑賞会 ・ ヴァイオリン等の演奏を聞くことによって、豊かな心を育てる。	7月4日 9月26日 (4時間)	総合的な学習 の時間	市文化会館 菊川中学校

2 活動の実際

○ 事前指導

広島平和学習は、事前に、被爆体験された二人の方の話聞き、原爆についての調べ学習を行った後に実施した。一方、職場体験学習は、夏休みに教師が各事業所に体験学習の依頼をし、その後、生徒の希望調査結果で事業所を決定した。生徒たちは、「班長による事業所での事前打ち合わせ」「職種についての調べ活動」などに取り組んだ。

○ 活動の展開



平和学習発表



職場体験学習



職場体験学習

○ 事後指導

活動で感じたことや身についたことをまとめ、指導者に感想とお礼の内容の手紙を書いた。また、平和学習も職場体験学習も、事後、ポスターセッションを行い、活動内容を再確認させたほか、文化祭では展示物を作成することで、命の重みを考えさせた。

3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会の体制

菊川公民館長、菊川幼稚園長、菊川保育園長、菊川駐在所長、校長、教頭、教務主任、道徳主任、2年学年主任の9名で学校支援委員会を構成し、活動についての理解と支援をお願いした。

○ 配慮事項等

活動を実施するにあたっては、校外施設の責任者との打ち合わせを密にして、施設利用者への配慮事項等を確認するとともに、生徒の安全確保にも努めた。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

○ 活動後に個人・班の自己評価を行い、体験学習の協力事業所等にもアンケートをお願いした。また、平和学習については、文化祭で展示物を作成することで、学習内容の深化、発展を図った。

○ 担当する教職員の数に対し、職場体験学習の事業所数が多かった。速やかに適切な指導や対応をするためには、体験活動の内容や種類を見直し、事業所や指導者との連絡をより密にしていこうにしたい。

5 活動の成果と課題

（被爆体験の話聞いた生徒の感想）

稲垣さん（被爆体験をされた方）の話で、昨日いたはずの妹、弟が原爆のせいで死んでしまったこと、死んだ妹に（火葬するための）火がつけられなかったお父さんのことが、一番心に残りました。昨日いたはず、昨日みた妹、弟が二人いっぺんに死んでしまったらどんなにつらいだろうと思いました。そこに一緒にいたのに、守ってやれなかったお父さんは、くやんでもくやみきれないぐらいだと思います。自分の娘を焼かなくてはいけないお父さんの気持ちが痛々しいほど伝わってきました。お父さんに必死でたのまれて火つけた稲垣さんもつらかっただろうと思いました。

被爆体験者の話は、具体的で生徒の心を打つ内容であった。その話を聞いた後に、広島での平和学習を行い、文化祭の展示物を完成したことで、生徒たちはより身近に、「命の重み」を感じることができた。また、職場体験でも、実際の職場の方の指導を受けながら活動することで、生きることや働くことの大切さ、厳しさを、直に感じることもできたと思われる。

生徒たちは、異年齢の方々とかかわりを通して、「命の重み」を感じることができたが、日々の学校生活のなかでは、それを否定するような軽率な言動も見られる。今後は、体験活動の成果を、同年代の人間関係づくりに生かしていくことが課題である。

集团的活動や就業体験等を通して命の大切さを学ばせる体験活動

山口県立高森^{たかもり}高等学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：9学級
- 生徒数：347人
- 教員数：46人
- 活動の対象学年：1年生・117人
2年生・112人

② 体験活動の観点からみた学校環境

- 本校が設置されている岩国市玖珂町、周東町は山口県東部の人口2万5千人の玖西盆地に位置し、JR岩徳線の他、国道2号線や山陽自動車道が通り、比較的交通の便に恵まれている地域である。
- 平成15年4月に高森みどり中学校を開校し、山口県初の併設型中高一貫教育を開始する。
- 今年度、高森みどり中学校第1期生が高森高等学校3年次生となり、平成21年3月卒業予定である。

③ 連絡先

- 〒742-0333
岩国市玖珂町1253番地
- 電 話：0827-82-3234
- F A X：0827-82-3247
- ホームページ：
<http://www.takamori-h.ysn21.jp>
- 電子メール：
takamori-h@ysn21.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 高森ピア・セミナーなど自然の中での集团的活動
 - ・ PAの手法を用いた体験学習を実施して、新入生の早期の融和を図るとともに、豊かな人間性や社会性の育成をめざす。
 - ・ 大自然の中で自分を見つめなおし、自然を通して「生命への畏敬」「他者への配慮」などの心を育成する。
- インターンシップ（1年）や東京キャリアアップツアー（2年）などの活動
 - ・ インターンシップや東京キャリアアップツアーを行うことにより、勤労観・職業観を育むとともに、人に対する「思いやり」や「いたわり」の気持ちに気付かせ、また、自分の命や他人の命の大切さについて考えさせる。
- ボランティアなどの社会奉仕活動
 - ・ 生徒の豊かな心や思いやりのある温かい心を育てるボランティア活動を、全校的な活動として継続的・計画的に実施するために「高森ボランティアチーム」を設置し、社会性や協調性を培うことをめざす。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 自然の中での集团的活動
(学校行事41単位時間)
- 職業・就業に関わる体験活動
(総合的な学習の時間24単位時間、学校行事12単位時間)
- ボランティアなどの社会奉仕活動
(学校行事4単位時間)

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

- 平成15年度に開校した併設の高森みどり中学校から第1期生が高森高等学校に入学した平成18年度より、集团的活動「高森ピア・セミナー」を1年次の年度当初に実施し、新入生の早期の融和と良好な人間関係の基盤の形成を図っている。

また、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、大自然のなかで、人や動物、植物などとふれあい、自然の摂理を体得するとともに、一つひとつの生命の重さ、不思議さを考えさせ、「生命への畏敬」「他者への配慮（思いやり）」などの心を育成することをめざしている。

- 中高一貫を踏まえたキャリア教育を推進するため、中学校1年次から、計画的なキャリア体験学習（職業・就業に関わる体験活動）を実施し、高校1年次において「インターンシップ」、高校2年次に「東京キャリアアップツアー（東京研修旅行）」を行い、勤労観・職業観を育むとともに、生産者・消費者などとの接触を通して、人に対する「思いやり」や「いたわり」の気持ちに気付かせ、また、介護体験や保育体験を通して、自分の命や他人の命の大切さについて考えさせている。
- 生徒の豊かな心や思いやりのある温かい心を育てるボランティア活動を、全校的な活動として継続的・計画的に実施するために「高森ボランティアチーム」を設置し、社会性や協調性を培うことをめざしている。

○ 全体の指導計画

活動の名称	実施学年	活 動 内 容	教育課程上の位置付け	期 間
高森ピア・セミナー	1年	・P A的内容（T A P：[徳地アドベンチャープログラム]） ・スコアオリエンテーリング ・マウンテンバイク ・野外炊飯 ・学習会、キャリアガイダンスなど	学校行事	①4月22日（2時間） ②4月30日～5月2日（37時間） ③11月11日（2時間）
インターンシップ	1年	・市内近郊及び周辺市町の病院、福祉施設、小学校、動物園などで就業体験	総合的な学習の時間	10月7～9日（24時間）
東京キャリアアップツアー	2年	・東京都内の企業や大学（医・薬学部等）訪問	学校行事	10月7～10日（12時間）
高森ボランティア活動	1、2年	・地域一斉清掃作業	学校行事	3月13日（4時間）

2 活動の実際

○ 事前指導

1年次生は、高森ピア・セミナーについては新入生オリエンテーション、事前の全体集会において、生徒部長・学年主任からピア・セミナーの意義や目的について指導した。また、学年の担任2人が事前に国立山口徳地青少年自然の家（山口市徳地船路668）にて研修を受け、復伝後、それぞれのHR（ホームルーム）において、各担任が指導した。その後、4月22日、国立山口徳地青少年自然の家の所員2人により、アイスブレイキングなどP A的な活動による人間関係

づくりの活動を行い、4月30日からの準備を行った。

インターンシップの実施については、総合的な学習の時間に業種を中心に11班に分かれ、それぞれ担当の教員から心構えなどの指導を受け（4時間）、前日には全体指導の中で生徒部長からマナー指導や、特に「命の大切さ、命を守る」を実感できる職場については他の職場以上に細心の注意を払うよう促した。

2年次生は東京キャリアアップツアーの訪問企業や大学の選定・検討のため、総合的な学習の時間に4～6人の23班に分かれ、2～3班に1人の教員がついて指導に当たった。

○ 活動の展開

□高森ピア・セミナー

平成18年度から実施したこの高森ピア・セミナーは所期の目的を達成するとともに多くの成果を挙げてきたが、一方で様々な課題も現れてきた。そこで、今年度は以下のことに留意しながら実施した。

課題点	変更点
● 学習オリエンテーション ・短い期間の中で5教科全てを実施すると集中力に欠ける。	○ 教科・科目を英語・数学に限定し、集中して実施した。
● MTBオリエンタリング ・オリエンタリングの難コースを一律にマウンテンバイクで実施させた。	○ マウンテンバイクを使用しないオリエンタリングを行った。また、難コース、易コースの選択を生徒各班に決定させ、作戦を立てさせた。 ○ マウンテンバイクの走行は別日に実施した。
● 規律と自律 ・PAの手法を取り入れた体験活動は生徒の自主性を重んじており、教師は「待ち」の姿勢を求められている。そうした中、生徒の「自由」は「放任」となりやすい。	○ 男女間の交友を含め、自らを律し、節度ある行動がとれるよう、事前によく指導するとともに、要所要所で指導を加えた。
● 命の大切さ・自然の恩恵の希薄 ・豊かな物質文明社会の中で、「生命への畏敬」の念は想起しにくい。	○ 事前指導や授業の中でことあるごとに取り上げ、自然の中の我々であることを認識させた。 ○ 山中でのスコアオリエンタリングにより、自然をより意識させた。 ○ 野外炊飯を実施し、「食」を通して命の大切さを学ばせた。



事前指導[アイスブレイキング]



大自然の中で野外炊飯

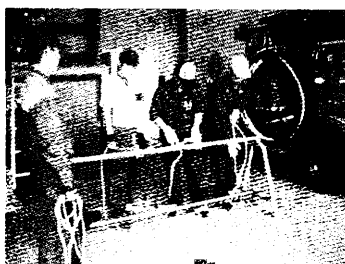


ローエレメント

□インターンシップ



小学校で絵本づくり



消防署にて
(命綱の結び方を学ぶ)



保育園にて

□東京キャリアアップツアー



早稲田大学



日本大学



本所防災会館

□高森ボランティア活動

平成18年度、多様な交流活動の一つとして、生徒の豊かな心や思いやりのある温かい心を育てるボランティア活動を、全校的な活動として継続的・計画的に実施するため、「高森ボランティアチーム」(現在、中・高で94名)を設置した。

地域から本校のボランティア活動の実績が認められ、多くの要請をいただき活動の機会も増加している。

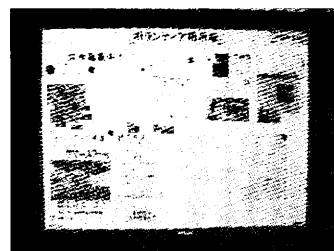
また、市内介護体験、薬物乱用防止キャンペーンや市内近郊の病院ボランティアなど「生命に関わる」ボランティア活動へも積極的に参加している。



図書館祭りで古本を販売



献血推進キャンペーンでの
献血クイズ



ボランティア掲示板

○ 事後指導

- ・ 高森ピア・セミナー

11月11日(火)、国立山口徳地青少年自然の家在所員2人による人間関係づくりの活動(2時間)を行うとともに、LHR(ロングホームルーム)で「振り返り」を行い、今後のクラス目標を決定した。

- ・ インターンシップ、東京キャリアアップツアー

実施後にLHRで感想や反省、課題などを記入させた。命にかかわるさまざまな事業所や企業を訪問し、多くの感銘を得たようだ。自分の在り方生き方を考えるきっかけとなり、今後の進路選択に生かされるであろう。

- ・ 生徒の感想から（一部）

□高森ピア・セミナー

- ・ あっという間にピアセミナーが終わってしまった。
- ・ 1日目は違う中学校（併設中学校以外）から来た人たちとアイスブレイキングやオリエンテーリングで打ち解けることができた。
- ・ 2日目は違う班の人たちともいろいろ話もできたし、ローエLEMENTでは15人が本当によく協力できた。さらに夜の講演もとてもよかった。
- ・ 3日目は1、2日の活動で仲良くなった班員と薪割りや鍋で米を炊いた。初めてのことが多かったけど、協力して美味しいカレーができた。3日間で協力することの大切さが分かったので、これからの高校生活に生かしていきたい。

□インターンシップ

- ・ 心を閉ざしている生徒も中にいて、何もできない自分とその子の気持ちを考えると辛かった。（小学校）
- ・ 生きていくためには、命を犠牲にしなければならない。動物は他の動物の命を無駄にせず、残さず食べた。人間も見習わなければいけない。（動物園）
- ・ 幅広い将来性、無限の可能性を見せる小学生を見たとき、彼らを社会全体で大切に守っていかねばならないと感じた。（小学校）

□東京キャリアアップツアー

〔企業訪問〕

- ・ 消火器使用、地震、人工呼吸、AEDなどの体験ができてよかった。（防災会館）
- ・ 良かったというか怖かった。でも生きていくうえで知っていて損のあることではなく、むしろ得なので、身をもって体験できてよかった。（防災会館）

〔大学訪問〕

- ・ 学区内がとても広く、案内してくれる大学生は元気がよく、とても明るい印象でよかった。
- ・ 東京の大学自体めったに見学できないので、将来の進路に役に立ったと思う。

3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会

- (1) 生徒部（特別活動係）
- (2) キャリア支援部（進路指導部）
- (3) 人間関係づくり推進プロジェクト（生徒部・保健体育部）
- (4) 学校支援委員会（年2回開催）

- ・ 地元小中学校長・市教育委員会支所長、地元商工会会長、介護施設関係代表ほか

- ・ 第1回学校支援委員会 平成20年9月19日（水）午後2時から午後4時まで
 - ・ 第2回学校支援委員会 平成21年2月18日（月）午前10時から正午まで
- 所管の生徒部特別活動係を中心に、キャリア支援部、保健体育部、各学年とよく連携をとり、計画を進めていった。

学校支援委員会の構成員は、上記のとおりであり、多くの助言・支援をいただいた。

○ 配慮事項

特に注意をしているのが班編制である。人間関係づくりが苦手な生徒が年々増加してきている中、ひとり班から離れたり、あるいは班から外れたりしないよう、細心の注意を払った。また、校外、あるいは他の市町村に出て行くので、安心安全にも充分注意を払った。ボランティア活動においても傷害保険等にその都度加入して、万が一に備えた。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

体験活動をしたあとにはレポート・感想文を作成させ、それを教員がまとめ、全教職員に配布する。特にインターンシップは総合的な学習の時間として実施しているので、年度末に評価している。

体験活動をする場所については、インターンシップの就業場所が広範囲にわたっているのも、特に新着任の教員が場所の事情に疎く、事業所の営業内容や場所などよく研究して指導に当たる必要がある。

また、インターンシップが他の中学校と重なったりしたので、事業所とは事前によく問い合わせをし、本校生徒に必要な事業所を確保した。

5 活動の成果と課題

○ 成果

高等学校で高森ピア・セミナーを実施するに当たり、一部検討を加え、内容をより精選して実施したことにより、実施後、生徒はクラスを問わず交流の場面がより多く見られ、それぞれのクラスにおいても積極的な発言・活動をしている。部活動にも多くの生徒が加入し、熱心に活動している。

今年度も学級の中の人間関係の診断（Q-U診断）を、1年次生では10月、2年次生では11月に実施した。1、2年次生ともに本校におけるQ-U検査の特徴は『学級内で意欲的に活動し、楽しく学校生活を送っている。気軽に話のできる先生がいる。悩みを相談できる先生がいる。学習意欲も高く、進路意識も十分ある。』などで概ね良好である。

○ 課題

生徒がさまざまな体験活動で実感したことが、今後の生活でどのように活かせるか、いつまで継続するかなどよく見守る必要がある。幸い「いじめ」や「暴力」など問題行動はこの1年間ほとんどなく、秩序ある学校生活を送れたものと思われる。

しかし、学級生活満足度を見ると、高校1年次生は43%と全国平均を上回っているが、2年次生が27%と全国平均を少し下回っている。この結果をよく分析し、今後の学校生活に生かしていきたい。

農山村ふるさと生活体験学習in俵山 ～リーダーをめざして～

しもんせき ぶん とう ん
下関市立文関小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：19学級（内特別支援1学級）
- 児童数：584人
- 教職員数：32人
- 活動の対象学年：5年生 96人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 旧下関市（人口26万人）の中心部に位置し、校区内に商店街や住宅地、数々の公共施設があり、交通の要衝でもある。
- 街中であるため、自然体験および農業体験の機会に恵まれていない。
- 平成20年度の本校重点施策【相互理解、信頼と敬愛・連携】を軸に、学校・家庭・地域が一体となって取り組む行事（平家踊り等）を通して信頼関係を築き、密接に連携を深めることにより、開かれた学校づくりに努めている。

③ 連絡先

- 〒750-0009
山口県下関市上田中町1丁目14-1
- 電 話：083-222-1433
- F A X：083-232-0423
- 電子メール：bunkan-shou@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 山村農家民泊による多様な生活体験を通して、自律性・協調性・社会性の育成を図る。
- 俵山特有の体験プログラムを通して、伝統文化や食育に関わる価値を体感させる。

② 活動内容と教育課程上の位置づけ

- 入村式（行事1単位時間）
- 俵山小との交流・町歩きOL
（総合的な学習の時間5単位時間）
- 野菜の収穫・郷土料理体験
（総合的な学習の時間6単位時間）
- 歌舞伎・化粧炭・そば打ち・餅つき等
（総合的な学習の時間6単位時間）
- 山登り体験・ボランティア活動
（総合的な学習の時間5単位時間）
- 離村式（行事1単位時間）

③ 宿泊先

- （農家民泊 2泊）
山口県長門市俵山地区（31家庭）
- （民間施設泊 1泊）
山口県長門市俵山5061-8 坂倉旅館
山口県長門市俵山5140 京家旅館
山口県長門市俵山5139 泉屋旅館

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

本校は、旧下関市内の中心部に位置し、校区内には、商店街、住宅密集地、裁判所や総合庁舎をはじめ様々な公共施設が建ち並び、古くから栄えた交通の要衝でもある。そのような環境の中で育つ本校児童にとって、街中では体験できない山村農家民泊による様々な生活体験や多くの人（関係機関、指導者、民泊先農家、ボランティア、現地児童等）とのふれあいを通して、自律性（自己管理能力）・協調性（共生の精神）・社会性（コミュニケーションを通じた豊かな人間関係づくり）の育成を図ることは、大変有意義なことである。

また、日常体験できない「長門市俵山」特有の体験プログラム（子ども歌舞伎、農作業や野

菜の収穫、郷土料理づくり等)を通して、人々の絶え間ない努力を知り、伝統文化を受け継ぐ心や食の重要性に気づく心を育てることは、「愛・敬・信」を基調とした本校教育目標の本質にふれる絶好の教育的機会であり、その価値を体感させることにより、学校での日常の教育活動をさらに深化・充実・発展させることにつながると考えられる。

○ 全体の指導計画

活動時期・期間	実施する体験活動の概要	教科・領域	単位時間
4月～7月	〔関連教科単元〕「わたしたちの生活と食料生産」	社会科	【全27単位時間】
5月	総合的な学習の時間『リーダーをめざして』 山村農家民泊体験の概要把握・課題設定	総合的な学習の時間	【全75単位時間】 4単位時間
6月	『農山村ふるさと生活体験学習 in 俵山』事前学習 ①俵山を知ろう ②どんな体験を積もうかな ③どんな人たちと出会うかな	総合的な学習の時間	【全6単位時間】 2単位時間 2単位時間 2単位時間
9月24日 ～27日	『農山村ふるさと生活体験学習 in 俵山』 ①俵山小との交流・町歩きOL ②野菜の収穫・郷土料理体験 ③歌舞伎・化粧炭・そば打ち・餅つき・焼き芋栗 ④山登り体験・ボランティア活動 ※入村式・離村式	総合的な学習の時間 学校行事	【3泊4日】 5単位時間 6単位時間 6単位時間 5単位時間 2単位時間
10月	『農山村ふるさと生活体験学習 in 俵山』事後学習 ①俵山で学んだこと ②様々な体験 ③多くの方々との出会い	総合的な学習の時間	【全6単位時間】 2単位時間 2単位時間 2単位時間
11月30日	学習発表会『リーダーをめざして』	総合的な学習の時間	【全10単位時間】

2 活動の実際

○ 事前指導

本校第5学年児童の実態から『農山村ふるさと生活体験学習 in 俵山』を考えていく際、高学年に進級したとはいえ、まだまだ自律性、協調性、社会性といった面で多くの課題を抱えていることから、年度当初より日常の学級・学年経営の柱としてこれら3つの課題を取り上げ、特に、総合的な学習の時間『リーダーをめざして』（全75単位時間）の中では、児童自らの興味・関心に基づいた自主的な課題設定、意欲的な追究活動、主体的な表現活動等の児童像を念頭に、最終単元『リーダーバトンタッチ』まで長期にわたる継続的な指導を意識してきた。

『リーダーをめざして』では、運動会を通して高学年意識を高めていくことや、よりよいリーダー像を描いて日常ボランティア活動へ主体的に取り組むことなどの活動からスタートし、俵山での活動に直接あるいは間接的につながると思われることに関しては、児童に課題解決へ向けての意識が高まるまで、時間をかけて「見守る」指導姿勢で臨んできた。

○ 活動の展開（プログラム） 指導者：俵山グリーンツーリズム推進協議会員・学校支援委員・下関市立文関小学校教職員

9月24日（水）		9月25日（木）		9月26日（金）		9月27日（土）	
8:00	登校	6:00	起床・朝食	6:00	起床・朝食	6:00	起床・朝食
9:00	学校出発	8:00	農作業体験 [俵山地区4集落]	8:00	(A)歌舞伎体験	8:00	公民館出発
10:00	俵山到着 入村式 俵山小学校との交流			9:00	(B)化粧炭 [俵山公民館・河原]	9:00	住職さんの話 [能満寺]
11:00				10:00	(B)選択メニュー 餅つき そば打ち	10:00	山登り [能満寺裏山]
12:00				11:00	そば打ち	11:00	
12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	町歩きOL [支援ボランティアに帯同]	13:00	民泊先へ移動 郷土料理づくり	13:00	(B)歌舞伎体験 (A)化粧炭	13:00	ボランティア活動 [長靴洗浄・河原]
14:00				14:00	(A)選択メニュー 焼き芋 焼き栗	14:00	離村式 [俵山公民館]
15:00				15:00	焼き栗	15:00	俵山出発
16:00				16:00		16:00	
17:00				17:00	各旅館へ移動 旅館到着 [17:30頃]		学校帰着 解散
18:00	対面式 民泊先へ移動 [俵山地区31軒]	18:00	夕食	18:00			
19:00	夕食	19:00		19:00	夕食		
20:00	入浴	20:00	入浴	20:00	入浴		
21:00	1日の振り返り	21:00	1日の振り返り	21:00	1日の振り返り		
22:00	就寝・消灯	22:00	就寝・消灯	22:00	就寝・消灯		

○ 事後指導

実施後は、「お礼の手紙」冊子作成や、学習発表会へ向けての台本づくりなど、児童の発案による活動が展開された。これは、事前学習からの流れの中で自然と身に付いてきた主体的な

姿だと捉えている。台本作成に手間取ったり、若干お礼が遅くなったりした感はあるが、最後まで「見守る」の指導姿勢を貫き、児童の主体的活動を保障していくことを心がけた。

11月30日（日）に行われた学習発表会では、初めての体験活動や多くの人々との出会いから学んだことを、リーダーをめざす自分自身の成長というテーマで発表し、当日特別に参観していただいた俵山の民泊先農家の方々へしっかりと思いを伝えることができた。

3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会の体制

- ・ 校内職員体制「俵山プロジェクト実行委員会」[校長以下9名] ※全職員による協力体制
- ・ 学校支援委員会[大学教授、市教委、PTA執行部、学校評議委員等10名]
- ・ 指導者「俵山グリーンツーリズム推進協議会員」「学校支援委員」「下関市立文関小学校教職員」

○ 配慮事項等

- ・ 交通安全&活動支援ボランティアの配置「下関市立大学学生ボランティア等」[16名]
- ・ 下見の徹底と綿密な打ち合わせ（事前研修会3回、事前全体会3回、事後全体会2回）

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

年間を通して、自己評価と相互評価を取り入れ、「総合ファイル」「生活ノート」「心のノート」「当日のしおり」等に記述された内容をもとに、評価表『リーダーバロメーター』で自己および他者の成長を実感できるように工夫し、学習のまとめや新たな課題設定に活用してきた。

5 活動の成果と課題

【児童の変容～体験活動後行った保護者からの聞き取り調査より一部抜粋】

- ・ 農業の大変さを知って、食べ物を大切にしたり嫌いな物でも食べたりできるようになった。
- ・ 自分以外の周りの人や事柄にも目を向けるようになり、感謝する気持ちが高まった。
- ・ 帰ってきてから少しずつたくましくなり、自分のことは自分でする姿勢が身に付いてきた。
- ・ いろいろな体験ができ、俵山の方々とふれあったことで、これまでより生き生きとしてきた。

【保護者の声～体験活動後に行ったアンケート調査裏面に記してあった一つを全文引用】

周囲に農業をしている人がいないので、民泊させていただいた家の生活は、テレビや本の中でしか知ることができません。そんな中で実際に体験させてもらえて、子どもにとって貴重な時間だったと思います。牛や山羊、鶏など、普段見ることのない動物たちを見て、触れて、お世話をして、野菜を自分の手で収穫して、毎日食べているものがどうやってできているか、農業の大変さ、すばらしさを実感できて、とてもすばらしい体験活動だったと思います。今回で終わりではなく、今後もたくさん子どもたちが参加できることを期待しています。

【課題～体験活動後に行った教職員アンケートより一部抜粋】

- ・ 児童の感想に「もっと居たかった」「一週間あってもいい」というものが多くあった。期間設定の際危惧していたホームシックや病気等がほとんどなく、趣旨に沿った「長期滞在」も可能であった。
- ・ 「児童につけたい力」を初期のプログラム構成段階からもっとよく吟味しておくよかった。
- ・ 予算執行・会計処理に関しては、諸担当者（県市教委会計担当者・学校事務職員・受け入れ側会計担当者）による緊密な連携と高度な会計処理能力が求められた。いかに簡潔にできるかが課題である。
- ・ 単発型ではなく、本校と俵山地区とのつながりを継続発展させることが今後の課題である。
- ・ 大学生ボランティアとの事前打ち合わせの徹底等、関係諸団体との連携強化が課題である。

油谷・俵山 ふれあい体験活動

やまぐち おおみ
山口市立大海小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：8学級(内特別支援学級2学級)
- 児童数：127人
- 教職員数：13人
- 活動の対象学年：全学年・127人

② 体験活動の観点などから見た学校環境

- 北・西・南の三方を山に囲まれ、東は大海湾に面し、海岸線に沿って漁村地区を含む集落が街村形態をなしているが、児童の保護者で実際に漁業を営んでいる家庭はなく、ほとんどは市内や近隣市の会社・工場・官公署等に勤務している。
- 気候は比較的温暖で年間を通じて過ごしやすい。海に面しているが校区内に遊泳できる海岸はなく、また河川もない。
- 各学年とも単学級のためクラス替えはなく、児童の人間関係が固定化されがちである。そこで縦割り班での活動を日常的に行っている。地域住民は、学校行事等に積極的に参加し、学校教育に非常に協力的である。

③ 連絡先

- 〒754-1101
山口県山口市秋穂東2299
- 電 話：083-984-2253
- FAX：083-984-4063
- ホームページ：
<http://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ohmi-e>
- 電子メール：
ohmi-e@yamaguchi-ygc.ed.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 自立・自律や共同の精神を培う
- 感謝・奉仕など美しい心を育てる
- 豊かな感性を育てる
- 自然を大切にする心を育てる

② 活動内容と教育活動上の位置付け

- ボランティアにかかわる体験活動
(5、6年総合的な学習の時間2時間)
- 自然に関わる体験活動
(5、6年総合的な学習の時間6時間)
(1、2年生活科2時間)
(3年総合的な学習の時間1時間、理科1時間)
- 勤労生産に関わる体験活動
(5、6年総合的な学習の時間9時間)
(1、2年生活科2時間)
(3年総合的な学習の時間1時間、4年5時間)
- 文化や芸術に関わる体験活動
(5、6年総合的な学習の時間1時間)
(3年総合的な学習の時間1時間、図工1時間)
- 交流に関わる体験活動
(5、6年総合的な学習の時間10時間、
家庭科2時間、特別活動2時間)
(1、2年生活科2時間、特別活動2時間)
(3、4年特別活動3時間)
- その他これらが複合した体験活動
(5、6年総合的な学習の時間22時間、
国語科6時間、図工科4時間)
(1、2年生活科8時間、特別活動2時間、
国語科2時間、図工科2時間)
(3、4年総合的な学習の時間10時間)

③ 宿泊先

- 山口県油谷青年の家
- 山口県長門市俵山地区(民泊、旅館泊)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ・ 自分たちだけで生活する体験を通して、自立・自律や共同の精神を培うとともに、規律の大切さに気づくことができるようにする。
- ・ 長期間家庭から離れて過ごすことを通して、家庭の温かさや家族のありがたさなどを感じ取り、家庭や家族の大切さに気づくことができるようにする。また、家族や友達、宿泊施設や地域の人など、多くの人々への感謝の心、奉仕の心など美しい心を育てる。
- ・ 農村での様々な勤労生産体験や、農家の人とのふれあいを通して、多面的なものの見方や考え方、豊かな感性を育てるとともに自然を大切にする心を育てる。

(2) 全体の指導計画

10月6日 5、6年 油谷青年の家泊

10月7、8日 5、6年 俵山 3、4人ずつが14家庭に分かれての民泊

10月9日 全学年 俵山 縦割り班16班が7旅館に分かれての旅館泊

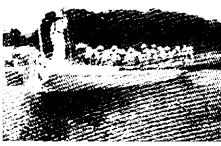
期 日	体験活動の概要	教育課程上の位置づけ(時数)	期 日	体験活動の概要	教育課程上の位置づけ(時数)
1、2年			5、6年		
10月上旬	事前学習	生活科(6)	9月下旬	事前学習	総合的な学習の時間(6)
10/9	ゆずきち収穫体験 川遊び(水辺の教室) 縦割り班ウォークラリー	生活科(1) 生活科(2) 特別活動(1)	10/6	野外炊事 キャンプファイヤー	総合的な学習の時間(2) 家庭科(1) 特別活動(2)
10/10	こんにゃく作り 俵山小との交流会	生活科(1) 特別活動(1)	10/7	カッター研修 奉仕活動 俵山地域探訪	総合的な学習の時間(3) 総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(1)
10月中旬	事後学習	生活科(4) 国語科(2)	10/8	民泊家庭での農業体験 (野菜・ゆずきち収穫、 そば・こんにゃく作り、 家畜の世話、など)	総合的な学習の時間(7)
3年			10/9	孟宗竹ごはん作り 川釣り・山野めぐり 縦割り班ウォークラリー	総合的な学習の時間(1) 家庭科(1) 総合的な学習の時間(1) 特別活動(1)
10月上旬	事前学習	総合的な学習の時間(3)	10/10	奉仕活動 住職講話・登山	総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(2)
10/9	野菜収穫体験 ちぎり絵体験 縦割り班ウォークラリー	総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(1) 図工(1) 特別活動(1)	10中旬	事後学習	
10/10	自然散策	総合的な学習の時間(1) 理科(1)	か	・礼状	国語科(2)
10中旬	事後学習	総合的な学習の時間(6)	ら	・思い出を絵で表す	図工科(4)
4年			11下旬	・体験活動のまとめ ・ニュース番組作り ・写真集作り	総合的な学習の時間(8) 国語科(4) 総合的な学習の時間(4)
10月上旬	事前学習	総合的な学習の時間(3)			
10/9	つるし柿体験 野菜収穫体験 縦割り班ウォークラリー	総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(2) 特別活動(1)			
10/10	農業体験	総合的な学習の時間(2)			
10中旬	事後学習	総合的な学習の時間(6)			

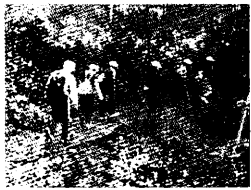
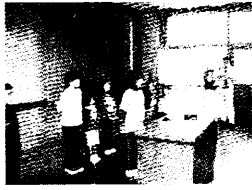
2 活動の実際

(1) 事前指導

- ① 年度初めの学級懇談会を利用した保護者への説明会。(事業の趣旨説明、日程説明等)
- ② 保護者へ児童の健康面・緊急連絡先等についての事前アンケートの実施。
- ③ 参観日を利用した保護者・児童合同の説明会。(研修内容、準備物等の説明)
- ④ 保護者アンケートをもとに養護教諭による児童一人ひとりとの面談。
- ⑤ 児童対象の最終オリエンテーションの実施。
- ⑥ 活動地域の事前調べ学習

(2) 活動の展開 (5、6年生) 於：油谷青年の家、俵山地区

	午前	午後	夜
十月六日(月)	入所式 	スタンプ練習 野外炊事  	キャンプファイヤー  (油谷青年の家泊)
概要	5年生にとっては初めての野外炊事。班の仲間と協力してカレー作りを行った。釜を焦がしてしまい片付けに苦労。所々の先生の点検は厳しく、次の日まで持ち越した班もあったが子どもたちにとってはよい経験となった。夜のキャンプファイヤーは各班とも思考をこらしたスタンプを披露し大変盛り上がった。仲間との親睦も深まった。		
十月七日(火)	カッター研修 	奉仕活動 退所式 俵山入村式 地域探訪 	民泊家庭顔合わせ  (民泊)
概要	カッター研修。艇の仲間と声と気持ちを合わせて必死で漕いだ。 午後から俵山へ移動。地域みなさんに温かく迎えられ子どもたちもホッとした様子。1時間半ほどの地域探訪で俵山地区を見て回った。その後、民泊先の方々とのお面式を済ませ各家庭へと移動。夜は各家庭で楽しく過ごしながら2日間のことや民泊先のことをはがきに書き、自分の家に送った。		
十月八日(水)	民泊家庭先での活動    		(民泊)
概要	民泊家庭先2、3軒が集まって地区ごとに活動をした。俵山の特産品のゆずきちを収穫し、出荷の手伝いをするグループ、そば打ちやこんにやく作りをするグループ、野菜を収穫したり牛豚の世話をしたりするグループ、自分たちで作った道具で柿もぎをするグループと、それぞれのグループごとに地区の方の指導を受けて活動した。民泊も2日目、どの子も各家庭に慣れ、家族の一員として過ごした。		

	午前	午後	夜
十月九日(木)	孟宗竹ごはん作り  (1~4年生入村) 1、2年 ゆずきち収穫体験 3年 野菜収穫体験 4年 つるし柿体験	川釣り、山野めぐり  縦割り班で昼食 1、2年 川遊び 3年 ちぎり絵体験 4年 野菜収穫体験 	縦割り班ウォークラリー  (縦割り班で旅館泊)
概要	民泊家庭でお世話になったお礼に奉仕活動をし、公民館に集合。昼前に到着する1~4年生のために孟宗竹ごはん作りを行った。みんなで河原で食べたご飯は格別の味だった。 午後は事前に選択しておいた川釣りと山野めぐりに分かれて活動した。 夜は縦割り班で温泉街をウォークラリー形式で回った。高学年は低学年の手を引ながらポイントを回り、学年ごとに設定された問題を解いて行った。 宿泊は7つの旅館に分かれたが、ここでも高学年が下学年の面倒をよく見、縦の関係がより深まったようだった。		
十月十日(金)	奉仕活動 住職講話・登山  1、2年 こんにゃく作り 俵山小との交流会	退村式  3年 自然散策 4年 農業体験	 たくさんの方々に お見送りをいただきました。
概要	お世話になった旅館をきれいにし、荷物を持って公民館へ。能満寺住職のお話を聞いた後、班ごとに登山に出発。 88のお地蔵さんを探しながら山をぐりと一周して回った。 昼食は全校そろってボランティアの学生や地域の方々と一緒にくりご飯と猪鍋を食べた。退村式では各学年の代表がお礼の言葉を述べた。多くの地域の方々に見送られて俵山を後にした。		

(3) 事後指導

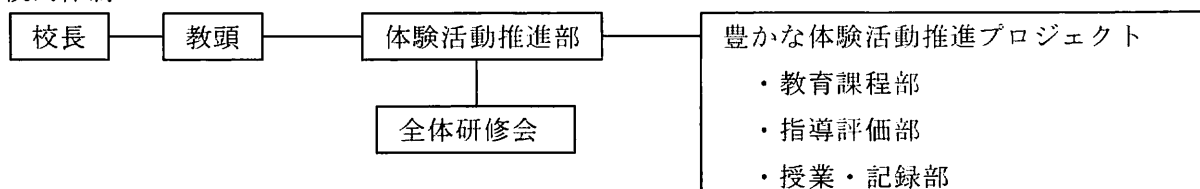
- ふれあい体験活動の振り返りを行い、学んだことを作文や掲示資料、絵にまとめた。
- お世話になった青年の家・民泊家庭・旅館・学生ボランティアなどへお礼の手紙を送った。
- パソコンを使って児童一人ひとりの思い出のアルバム作りをした。
- 今回の体験活動の中から一番伝えたい活動を選び、ニュース番組形式にまとめ、発表会を行いDVDに編集した。編集したDVDは各家庭、活動地域に配付した。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会

機関・団体名	
俵山グリーンツーリズム	山口短期大学
長門市経済振興部商工観光課	山口市立大海小学校学校評議員
油谷青年の家	山口市立大海小学校

校内体制



体験活動推進部では、研修の方向付け、各プロジェクトの総括を行う。

全体研修会では、研究主題にかかわる活動内容・方法の適正について検討する。

(2) 配慮事項等

- ・ 体験活動を実施するにあたり、保護者へのお知らせを文書で4回、事前説明会を3回行い、活動への理解と協力を求めた。また、児童の健康状態には特に気を遣い、保護者への事前健康調査をもとに養護教諭が児童一人ひとりと面談を行い健康面・精神面における心配ごとの把握に努めた。さらに、児童一人ひとりの健康状態並びに注意事項を一覧表にまとめ全教職員に配付し、説明会を行い共通理解を図った。
- ・ 全教職員による利用施設や地域の見学、並びに体験内容を実際に行ったり、指導者との打ち合わせを密に行ったりし、児童の安全確保に十分な配慮を行った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- 毎日の活動の最後に、自己評価カード、一日の反省の時間を設け、その日の活動の振り返りを行った。その日のうちに担任が自己評価カードに目を通し、コメントを添えて返すことで活動に対する賞賛や価値付けを行い、次の日の活動への意欲付けを行った。
- 地域担当者と引率者でその日の夕方に反省会、次の日の予定の確認を行った。さらに、引率者は期間中毎晩1日の活動の振り返りと次の日の活動の確認をする時間を設け、共通理解を図った。
- 体験活動後、児童・保護者・学生ボランティア・教職員を対象としたアンケート調査を行い、分析を行った。児童・保護者・学生ボランティアともに高い評価を得た。

5 活動の成果と課題

○ 成果

前年までの2年間の経験を生かし、今年はより幅広い体験活動を仕組むことができた。

長期の宿泊ということもあり、一つ一つの活動を余裕をもって行うことができた。また普段体験することができない様々な体験をすることもできた。農業体験などももちろんであるが、民泊をさせてもらい各家庭で過ごすことで、たくさんの人々に支えられていると感じ、また、家族のありがたさや友達のよさなども感じ取ることができた。さらに、カッター研修や野外炊事など仲間との協力が不可欠な活動を通して、みんなの力で克服することで得られる達成感や、仲間と励まし合ったり仲間から認められたりする連帯感を体感することができた。また、これらの活動は、自分のことや友達のことを見つめ直し、じっくり考えるきっかけとなった。

＜体験活動後の児童の感想＞

- ・ カッター研修ではみんなで力を合わせてこぎました。ひとりでも力を抜くと進まないのだからみんなで力を合わせることを忘れないでいろいろな活動をしていきたいです。
- ・ 時間を守ったり、みんなと協力できた5日間だった。最後の2日間は下学年のお世話もしっかりできたと思う。
- ・ 自分で一番がんばったところは・・・「協力」かな？と思います。みんなに助けってもらったり、友達を助けたり、いろいろみんなと協力しました。
- ・ 柿の収穫をしたり、牛の世話をしたり、めったにできない体験をすることができた。どれも最後まで一生懸命することができた。
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんたちも自分の孫のように接してくれてとてもうれしかった。お手伝いもたくさんして、分からないことは教えてもらいながらすることができた。

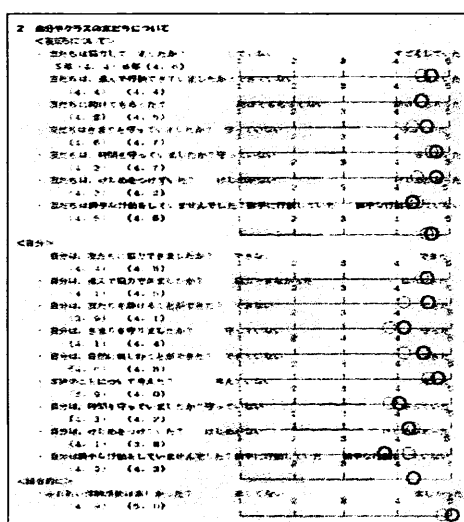
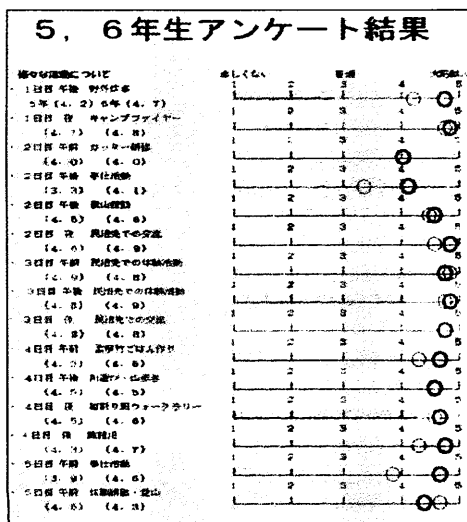
＜保護者の感想＞

- ・ 貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。この体験活動で学んだことは、子どもたちにとって精神面でもよい変化をもたらしてくれるものと思います。
- ・ カッター研修や民泊体験などなかなか体験することができないことをさせていただき感謝しています。帰ってきてからも「もっと泊まりたかった。」と言っていたのでとても楽しく、とても充実していたんだなと思いました。
- ・ 全校で実施したことはとてもよかったと思います。上級生が下級生のお世話をするのでよい勉強になったと思います。
- ・ 子どもが成長したように思える大変よい経験になったと思います。全校で継続できるといいと思います。
- ・ たくさんの方々に協力していただいて無事に終わることができ感謝しております。子どもたちもいろいろと助け合いながら過ごすことができたように思います。周りの方々への感謝の気持ちをもってくれたらと思います。
- ・ 最初は1、2年生も宿泊することに少し不安でしたが子どもたちはそんなにひ弱ではなく子どもたちのたくましさを感じることができました。

○ 課題

来年度の活動内容については経費の面から大きな見直しをする必要があり、学校、保護者、関係各所との連携や協力体制をより綿密に図っていく必要がある。

体験活動が一過性のものにならないためにも、児童が今回の体験活動等で得た力を普段の学校生活で発揮していける機会やそれらの力を効果的に発揮するにはどうすればよいかについても考えていく必要がある。



○の
太字6年
細字5年

夏休み錦町宿泊体験学習

しゅうなんし やじ
周南市立夜市小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：7学級（内特別支援学級1学級）
- 児童数：107人
- 教職員数：11人
- 活動の対象学年：全学年・107人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 周南市の中心地より西へ約10kmの所に位置し、利便性が比較的良好、校区には多くの田畑が存在する。
- 周辺には自然が多く残り、地域の祭など伝統行事なども受け継がれている。
- 地域は、学校教育に大変理解があり、隣接する学習田での自然体験学習や学校行事などに、地域の強力な支援がある。

③ 連絡先

- 〒746-0084
山口県周南市大字夜市730番地
- 電 話：0834-62-2711
- FAX：0834-62-2700
- ホームページ：<http://www.shunan.ed.jp/yajisho>
- 電子メール：yajishou@shunan.ed.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 何事にも進んで取り組ませ、家族班の協働による成功体験を味わわせる。
- 児童相互のよさに気付かせ、心のつながりを強化させる。
- 自己を厳しく見つめさせ、最後までやり抜く強い心や美しいものに感動する心を育てる。
- 様々な人、物、事にかかわることを通して多様な見方、考え方、感じ方ができるようにする。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 宿泊体験学習（下学年）
（特別活動1単位時間、生活科7単位時間、体育2単位時間、図工2単位時間）
- 宿泊体験学習（上学年）
（総合的な学習の時間9単位時間、特別活動3単位時間、図工2単位時間、体育9単位時間、理科6単位時間）

③ 宿泊先

8月25日(月)・26日(火)：1～6年：民泊〔岩国市錦町3地区（広瀬、向峠、府谷地区）〕
27日(水)：4～6年：羅漢山交流センター
28日(木)：4～6年：深谷峡温泉清流の郷

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

【学校教育目標】主体的に人や社会とかかわり、心豊かにたくましく生き抜く子どもの育成

- 《基本方針》 □ 児童一人ひとりのよさや特性を伸ばし、何ごとにも主体的にかかわらせ、自己教育力を育てる。
- 心の教育を積極的に推進し、自己を厳しく見つめ他者を思いやる心を涵養する。
- 児童自ら進んで外遊びや運動に親しみ、自他の健康で安全な生活を実践する力を育てる。

- 『重点事項』 ○ 確かな学力の育成（主体的学習、伝え合う力、基礎基本の徹底、学習習慣の確立強化）
- 豊かな心の育成（道徳性、自己肯定感、体験活動、学級づくり、人間関係づくり「AFPY」）
- 健康な身体力の育成（生活習慣、運動・遊び、健康教育、保健委員会、安全教育・管理）

(2) 全体の活動計画

- ① 期 間 8月25日(月)～29日(金)
- ② 活動日数 2泊3日(1、2、3年) 4泊5日(4、5、6年)
- ③ 活動内容

月 日	体験活動の内容	実施学年	教育課程上の位置付け(単位時間数)
8月 25日 (月)	開校式：オリエンテーション 草木染め 川遊び 自然探検「とことこトレイン」 ホストファミリーとの対面式 民泊	1～6年 " " " " "	特別活動(1時間) 図画工作(2時間) 体育(2時間) 総合、生活科(1時間)
26日 (火)	農業体験(田畑での勤労体験) 民泊	1～6年 "	総合、生活科(6時間)
27日 (水)	民泊した農家への奉仕活動 魚釣り カヌー 法華山散策 キャンプファイヤー	4～6年 " " " "	総合(2時間) 体育(2時間) 理科(2時間) 特別活動(1時間)
28日 (木)	羅漢山登山 奉仕活動 わさび栽培 酪農体験	4～6年 " " "	体育(3時間) 特別活動(1時間) 理科(1時間) 理科(1時間)
29日 (金)	奉仕作業 沢歩き 閉校式	4～6年 " "	体育(2時間)、理科(2時間)

2 活動の実際

重点事項 ・全校児童全員参加 ・児童の主体性の伸長 ・児童相互の人間関係の深化
・児童の感性を磨く ・児童の道徳性の伸長

(1) 事前指導

① 家族班での清掃活動(週4回実施)

- ねらい 家族班で協力しながら清掃活動を行うことを通して、掃除の仕方を教えあったり、責任をもって掃除をしたりできるようにする中で、班員のよりよい人間関係をつくるとともに、上学年のリーダー性を育てる。また、みんなで学校を美しくしようとする心情を育てる。

② 家族班給食(1回実施)

- ねらい 家族班での給食を通して、人間関係を深め上学年のリーダーシップ及び下学年のフォロアーシップを高める。
- 食事(作法、話題等)のマナー向上を図る。

③ 上学年児童への指導〔7月9日(水)4校時実施〕

○ ねらい 民泊家庭での過ごし方を念頭において、上学年児童に礼儀作法や安全面で留意することなどを考えさせ、家族班の下学年児童に教えられるようにする。

○ 指導内容

- ・ 安全面、礼儀作法、生活面について

④ 家族班での話し合い〔7月17日（木）1校時実施〕

○ ねらい 宿泊体験学習に向けて、グループで仲良く活動するために目標を決め、それを達成するための自分のめあてを決める。

民泊家庭での過ごし方に関して、班長が中心になって礼儀作法や安全面での留意点などを、家族班の下学年児童に教える。

○ 活動内容

- ・ 錦町の様子を写真などで知る。
- ・ グループの目標と、それを達成するための自分のめあてを考える。
- ・ 民泊家庭での過ごし方について話し合う。

⑤ 最終指導〔8月17日（日）：環境整備作業後に実施〕

○ ねらい 宿泊体験学習を1週間後に控え、「心の準備」、「物の準備」、「体の準備」を万全にするように全校児童及び保護者に周知する。

○ 指導内容

- ・ 必要な物品を準備する。
- ・ 規則正しい生活をして心身の健康状態を整える

(2) 実践

月日、活動場所、活動内容、参加児童等	指導体制等
【第1日】〔8月25日（月）〕 錦町広瀬地区 参加児童107人(全校) ・開校式：オリエンテーション ・草木染め ・川遊び ・自然探検「とことこトレイン」 ・ホストファミリーとの対面式 ・農家民泊（広瀬、府谷、向峠地区28家庭） 家族班の男女別（3～5人）で1軒に民泊	昼間 指導者：教員10人 支援員7人 現地スタッフ4～6人 夜間 宿泊：本部と3地区（広瀬、府谷、向峠地区）に教員が各2～3人、支援員が各2～3人 *緊急対応車両：3台
【第2日】〔8月26日（火）〕 錦町3地区 参加児童107人（全校） ・農業体験（各家庭で畑や田での勤労体験） ・農家民泊（1日目と同じ家庭に民泊）	昼夜 指導者：教員10人 支援員10人 現地スタッフ4人 *緊急対応車両：3台
【第3日】〔8月27日（水）〕 広瀬地区、羅漢山 参加児童59人（4～6年） ・民泊した農家への奉仕活動 ・広瀬地区へ集合後 1～3年（48人）帰校 ・魚釣り ・カヌー ・スタンプ ・バーベキュー ・キャンドルサービス	昼間 指導者：教員5人 支援員10人 現地スタッフ4～8人 帰校引率：教員5人 支援員3人 夜間 宿泊：教員5人 支援員10人 現地スタッフ2人

・羅漢山交流センター宿泊	*緊急対応車両：3台
【第4日】〔8月28日（木）〕 羅漢山、向峠、広瀬 参加児童59人（4～6年）	昼間 指導者：教員9人 支援員10人 現地スタッフ 6～10人
・羅漢山登山 ・奉仕活動 ・向峠地区へ移動 ・わさび栽培 ・乳牛の世話 ・深谷峡温泉清流の郷宿泊	夜間 宿泊：教員9人 支援員10人 *緊急対応車両：3台
【第5日】〔8月29日（金）〕 宇佐郷、広瀬 参加児童58人（4～6年）	指導体制：教員9人 支援員10人 現地スタッフ5人 *緊急対応車両：3台
・奉仕活動 ・沢歩き ・閉校式 ・帰 校	



（3） 事後指導

ねらい 最も心に残った活動を振り返り、達成感や感謝の気持ちを確認させる。

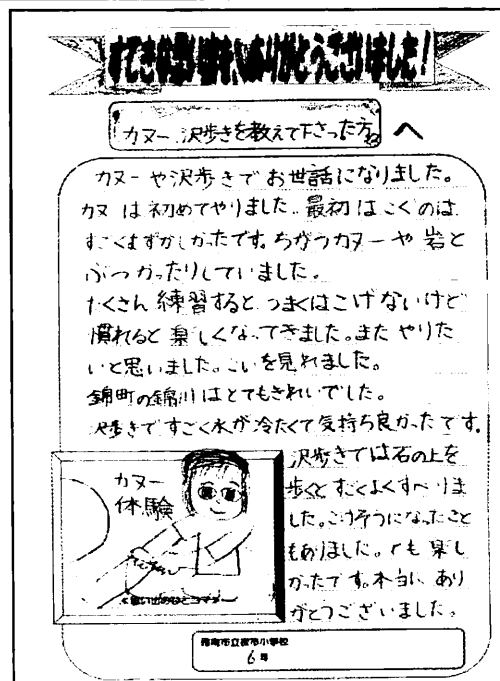
① お礼の手紙等の作成及び送付

2学期に入り早々に、錦町での宿泊体験学習でお世話になった方々へ、お礼の手紙や絵日記を作成し、送付した。

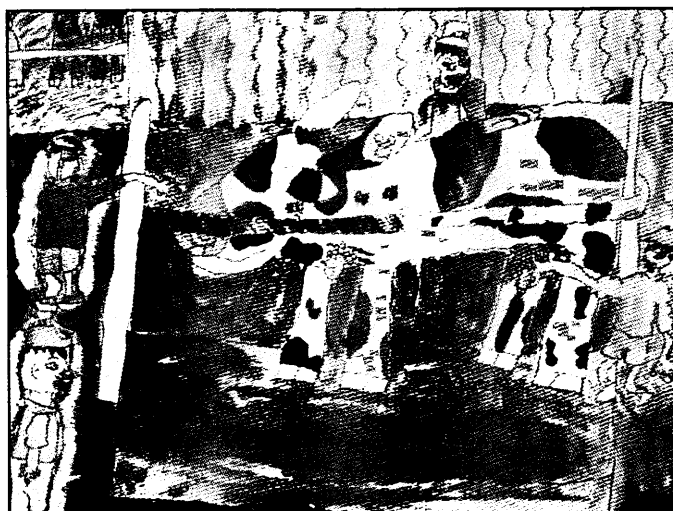
② 宿泊体験学習の作品制作

宿泊体験学習のまとめとして、各学年が作品を制作した。

- 1年生・・・思い出の絵
- 2年生・・・思い出の絵日記
- 3年生・・・思い出の絵と作文
- 4年生・・・思い出の絵
- 5年生・・・思い出の絵
- 6年生・・・思い出の絵と作文



【お礼の手紙】



【5年生の作品】

3 体験活動の実施体制

重点事項 ・ 児童の安全確保体制整備 ・ 保護者との信頼関係並びに連携の強化
 ・ 児童や保護者の不安解消

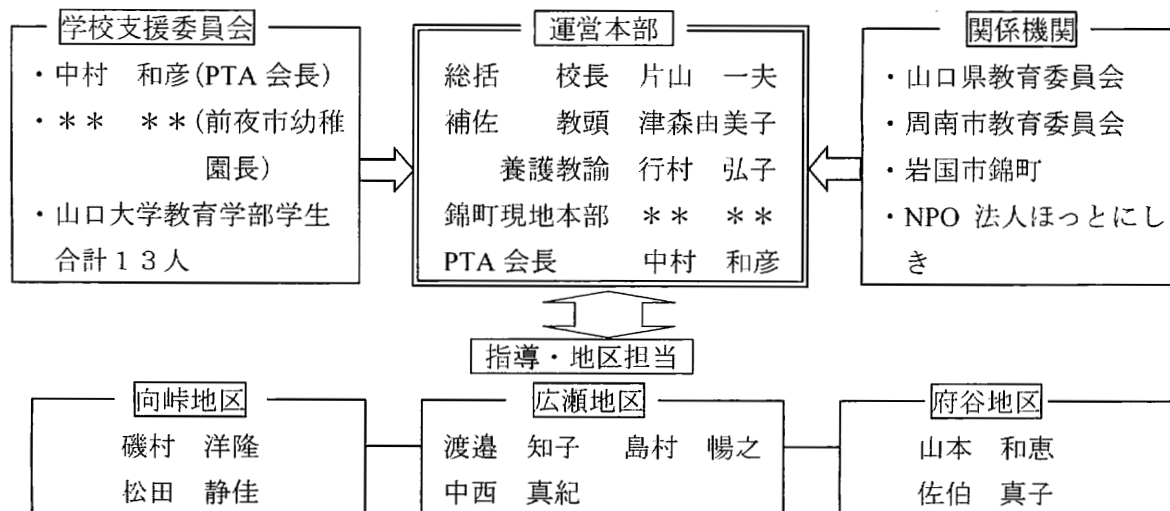
本事業を実施するにあたり、参加対象範囲を何学年までにするか随分迷った。

下学年児童は、親の元を離れて2泊3日を過ごすことはおそらく初めてである。安全面、健康面をはじめとし活動に耐えられるかなど、不安はたくさんあった。

最終的に全学年参加として実施を決定した主な理由は以下の通りである。

- ・ 本校には長い伝統のある「家族班」活動があり、6年を中心とする上学年児童が下学年児童を入学当初から親身になり大変よく世話をすること。
- ・ 児童の基本的な生活習慣が比較的しっかりしていること。
- ・ 児童が大変素直であり、勤労意欲が旺盛であること。
- ・ 児童は戸外での運動、遊びを好む者が多く、体力が比較的高いこと。
- ・ 児童は集団行動が比較的きちんとできること。
- ・ 本校教育活動に対して、保護者やPTA、地域の理解と協力があり強力な支援があること。
- ・ 山口大学教育学部の学生との交流が、平成15年度のチューター事業から現在も継続していること。
- ・ 人間関係づくりやコミュニケーション力向上をめざす本校教育活動を充実するために、有意義であること。
- ・ 教職員全員の総意として決定したこと。

(1) 錦町宿泊体験学習の運営体制



(2) 保護者への説明、児童の健康調査及び安全管理体制

① 保護者への事前説明会

- ・ 第1回〔6月14日(土)〕
 内容 ・ 目的 ・ 活動内容と指導体制 ・ 経費 ・ 錦町と体験学習の概要(プレゼン)
 ・ 質疑応答
- ・ 第2回〔7月17日(木)〕
 内容 ・ 宿泊家庭 ・ 必要経費 ・ 持ち物 ・ お願い
 ・ 児童受入に向けての構えや準備状況を説明(錦町担当者) ・ 質疑応答

② 児童の健康調査

- 1回目の健康調査では、アレルギー等、保護者が事前に民泊家庭に知らせたいことを把握して一覧表を作成し、錦町担当者を通して各民泊家庭へ届けた。(7月14日提出)
- 2回目の健康調査は、宿泊学習直前の子どもの体調を把握するために行った。調査結果を一覧表に追記し、錦町担当者を通して各民泊家庭に伝えた。(8月17日提出)
- 各民泊家庭から、配慮が必要な児童へ特段の配慮があった。
- 特に配慮を要する児童2人(1年、5年生各1人)がお世話になる民泊家庭には、担任教師が児童と一緒に民泊家庭に宿泊し、諸活動を見守った。

③ 安全管理体制

- けがや病気等様々な事態を想定し、事前に錦町と綿密な打合せを行うとともに、危機管理マニュアルを作成の上、共通理解を図った。
- 民泊の2泊については、錦町の各地区に教員と支援員を配置した。それぞれそこで2泊し、昼夜を通して万一の事故等に備えるとともに、諸活動へも参加した。夜間、教員、支援員が児童のホームシックの対応等を行うことが若干あった。
- 第2日目は、全ての地区と民泊家庭を校長、教頭、PTA会長等で巡回し、活動の様子を確認した。
- 第4日目の羅漢山登山は、不安定な天候の中で実施するか否か判断を迷ったが、インターネット情報、現地スタッフの意見を参考にして、雷が発生しないことを確認の上、実施の判断をした。
- 川遊びやカヌーなど大きな危険が伴う活動は、教員、現地スタッフ、支援員が分担してたくさんの人の監視体制を敷いた。
- 錦町の現地スタッフの安全管理、指導が充実しており、諸活動を安心して任せられた。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 評価の工夫

- ① 児童及び保護者に対して、9月上旬にアンケート調査を実施し、結果をグラフと文章にまとめた。学校だよりに掲載して、集団宿泊学習の成果や課題を保護者へ知らせた。また、「実践集」を作成し学校図書館で自由に閲覧できるようにしている。
- ② 支援員は、集団宿泊学習終了後、自由記述による振り返りを行った。
- ③ 教員は、第2学期の諸教育活動を実践する中で、児童の行動観察を中心とした児童の変容を評価し、全教職員が共有した。

(2) 指導の改善

- ・ 集団宿泊学習後、多くの児童が学校や家庭生活によりよい変化が見られ、どの児童からも自信や意欲を感じる。
- ・ 家族班活動、全校行事、集会活動等の活動の様子から、全校児童のまとまりや高学年児童のリーダーシップの高まりを感じる。
- ・ 集団宿泊学習以後、学校教育諸活動を推進する中で、教員がこうした児童の変容を認め、児童一人ひとりの自信や意欲、自己肯定感を強化しつつ家族班や各学級、全校での活動を一層充実させている。

5 活動の成果と課題

(1) 本活動のねらいや重点事項について、以下のことから概ね達成し成果を挙げたと考える。

○ 教職員による児童の行動観察等から（一部抜粋）

- ・ 教員と児童の人間関係、信頼関係がさらに強まった。
- ・ 6年生を中心とする上学年は、家族班の下学年へ配慮するとともに、活動や生活全体の世話をするなど、リーダーとして友達をまとめた。それら全ての体験が、学校生活に生かされていると感じる。
- ・ 一番心配していた民泊家庭での生活を、児童は楽しい思い出と感じていた。それは、思いやりを実感できたからだと思う。

○ 児童のアンケート調査及び事後学習から（一部抜粋）

- ・ 全ての質問に対して、9割程度の児童が活動を肯定的にとらえる回答をしており、児童にとって有意義で心の琴線にふれる活動になったと思われる。
- ・ 自由記述には、子どもたちの活動期間中の思いが盛りだくさんに記述され、体験を今後の生活や自分の成長に生かしたいという願いなども述べられている。初めての場所で初めての体験をする中で一生懸命取り組んだことが伝わってくる。
- ・ 児童の自由記述や作成したお礼の手紙、作文から、お世話になった人々へ対して感謝の気持ちが培われたことが伺える。
- ・ 事後学習の絵画に、児童が楽しく活動している様子が生き生きと描かれており、充実した活動であったことが伺える。

○ 保護者のアンケート調査から（一部抜粋）

- ・ 本事業を実施するにあたり、各家庭において食事のマナーや礼儀作法等を家族で話し合ったり、実践したりするなどの取組が行われた。結果的に基本的生活習慣を大切にする意識の高まりや、家族での話し合いなどの機会を提供することになった。
- ・ 本事業を実施して、9割を超える保護者が「有意義であった」と回答し、児童の家庭生活にもよりよい変化が現れているとの回答もある。こうした変化は一時的なものもあると思われるが、今後の児童のすこやかな成長により影響があると考ええる。

○ 学校支援委員会から（一部抜粋）

- ・ 家族班のまとまりがよかった。6年生が1、2年生の世話をよくした。体調など友達を気遣う子が多いと感じた。
- ・ 異年齢集団で高学年が低学年を引っ張っていたところがすばらしかった。また、そういう機会があることが貴重だと感じた。
- ・ 子どもたちが敬語で話してくれた。多くの小学校へ行ったが、こんなに徹底されているところはなかった。低学年でも、敬語で話していて驚きとともに感心した。
- ・ 地域の人々が温かく受け入れてくださったことに感動した。地域での体験だけでなく、人と人とを結びつける体験ができたのだと感じた。子どもたちは、今回の体験を忘れないだろう。

○ その他（一部抜粋）

- ・ 本事業は保護者や家族の理解と協力がなくては実施できないものであり、学校と保護者との連携が一層深まった。また、保護者や家庭の理解と協力を得て全校児童が参加した。

(2) 全体的には満足できる成果を得たが、以下のことから一部の児童や保護者が十分な成果を感じられなかったことは残念である。しかしながら、下学年は2泊3日間、上学年は4泊5日間の活動を仲間やたくさんの人と共に体験したことは大いに意義がある。

○ 教職員による児童の行動観察等から

- ・ 夏休みの実施に備え、1学期の間に家族班の活動を多くする必要があったのではないか。
- ・ 事業を終えて、低学年児童への、生活や言葉遣いの指導が十分ではなかったと感じた。
- ・ 消極的な児童がその場の雰囲気になれるのに時間がかかる。

○ 児童のアンケート調査及び事後学習から（一部抜粋）

- ・ 活動やめあて、家族班活動等に係る質問に、「楽しくなかった」「仲よく活動できなかった」「守れなかった」等と回答した児童が1割程度ある。

○ 保護者のアンケート調査から（一部抜粋）

- ・ 学校の配慮が不足しているとの指摘があった。
- ・ 保護者の金銭面の負担に対する指摘があった。
- ・ 子どもの体力面や精神面での負担を心配する指摘があった。
- ・ 民泊家庭の対応の違いへの指摘があった。

○ 学校支援委員会から

- ・ 事前の打ち合わせや準備不足の指摘があった。

○ その他（一部抜粋）

- ・ 教育課程（道徳教育、道徳の時間及び各教科等）の目標や内容のレベルで、集団宿泊学習との関連を明確に位置付け、体験活動の成果をさらに強化する必要がある。
- ・ 本事業は、文部科学省委託事業として予算措置に基づき実施できた。今回の保護者の負担は食費のみであったが、同様の活動を行うには保護者の金銭的負担が大きい。



ふれあい交流体験活動

しものせき おうき
下 関 市 立 王 喜 小 学 校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：7学級（内特別支援学級1）
- 児童数：158人
- 教職員数：15人
- 活動の対象学年：5年生・32人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校の校区は下関市の東部の海岸線に沿い、西側に木屋川が流れ、北東にゆるやかな中国山地、南に広い王喜開作があり、豊かな自然環境に恵まれた地域である。
- 校区の中央を東西に走るJR山陽本線、北側にJR山陽新幹線、学校のすぐ前を通る県道33号と南側を東西に通る国道2号が交差し、非常に交通量の多い通過地点となっている。

③ 連絡先

- 〒750-1114
山口県下関市王喜本町二丁目12番30号
- 電 話：083-282-0332
- FAX：083-282-1940
- 電子メール：ouki-sho@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 自然の中での様々な体験活動を通して豊かな心と創造性を育み、集団での生活を通して自立心や社会性を育てる。
- 他校との交流活動を通して自立心や社会性を育む。
- 竹楽器アंकフルンの演奏や竹細工活動を通して、異学年の者や異年齢の方とふれあい、豊かな心やふるさと王喜を愛する心を醸成する。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 集団宿泊学習
理科1時間、体育2時間、
家庭4時間、社会2時間、
図工2時間、特別活動7時間
総合的な学習の時間5時間
- アंकフルン演奏活動
音楽7時間、社会1時間、
特別活動5時間、
総合的な学習の時間7時間
- 竹細工活動
総合的な学習の時間2時間

※ 宿泊先

山口県美祢市美東町大字赤字長谷平
山口県秋吉台少年自然の家

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

雄大な秋吉台の自然の中での様々な体験活動や、伝統工芸と自動車工場の見学を通して豊かな心と創造性を育み、集団での生活や他校との交流活動を通して自立心や社会性を育む。

ふるさと王喜産の竹で作製した楽器アंकフルンの演奏や、竹の文化を継承する「かぐや姫の里づくり」の地域の方との竹細工活動を通して、異学年の者や異年齢の方とふれあい、豊かな心やふるさと王喜を愛する心を醸成する。

(2) 全体の指導計画

① 集団宿泊学習（秋吉台少年自然の家）

- | | | |
|-------|--------------------------|------------------------|
| 6月 9日 | ・オリエンテーション | (特別活動1時間) |
| | ・エコミュージアム見学 | (総合的な学習の時間1時間) |
| | ・スコアオリエンテーリング | (体育2時間) |
| | ・天体観測ナイトハイク | (理科1時間) |
| 10日 | ・野外炊事 | (家庭3時間) |
| | ・大理石クラフト | (図工2時間) |
| | ・洗濯実習 | (家庭1時間) |
| | ・キャンドルの集い | (総合的な学習の時間2時間) |
| 11日 | ・山口ふるさと伝承センター
(大内塗体験) | (社会1時間、特別活動2時間) |
| | ・マツダ自動車防府工場見学 | (社会1時間、特別活動2時間) |
| 12日 | ・景清洞探検 | (特別活動2時間、総合的な学習の時間2時間) |

② 王喜の竹を通じてのふれあい交流活動

- | | | |
|--------|------------------------------|----------------------------|
| 10月16日 | ・竹楽器アンクルン練習開始 | (総合的な学習の時間1時間、音楽1時間) |
| 10月21日 | ・下関市小学校音楽祭に出演 | アンクルンを演奏(音楽2時間) |
| 10月26日 | ・森林フェスタに山口バンブーオーケストラの一員として出演 | (社会1時間、音楽1時間、総合的な学習の時間3時間) |
| 11月 3日 | ・王喜地区文化祭に出演、アンクルンを演奏 | (総合的な学習の時間1時間、音楽1時間) |
| 11月15日 | ・学習発表会でアンクルンを演奏 | (特別活動5時間) |
| 1月27日 | ・竹細工 | (総合的な学習の時間2時間) |
| 2月19日 | ・アンクルン講習会 | (総合的な学習の時間1時間、音楽1時間) |

2 活動の実際

(1) 事前指導

- 参観日を利用して、保護者へ宿泊学習の説明会を実施。(趣旨、日程、準備物等)
- 班編成、分担決定、宿泊のしおり作成。
- 学級PTA活動で、野外炊事活動の練習として親子カレーライスづくりを実施。

(2) 活動の展開

① 集団宿泊学習（秋吉台少年自然の家）

- 1日目 ・ エコミュージアム見学
総合的な学習の時間で環境について学習している一環として見学する。
- ・ スコアオリエンテーリング
下関市立江浦小学校と合同で活動し、大自然の中を走ったり歩いたりすることで、雄大な自然のよさにふれることができた。
- ・ 天体観測ナイトハイク
- 2日目 ・ 自由散策
- ・ 野外炊事





下関市立江浦小学校と同じ場所で、同じメニューの昼食をつくる。それぞれが役割を分担して準備から後始末まで行う。

- ・ 洗濯実習

3泊4日と、昨年度より1日長い宿泊となったので、Tシャツを洗濯し干すことにした。

- ・ 大理石クラフト

秋吉台産の自然石である大理石を使って文鎮づくりをした。自然にふれるよい経験であった。

- ・ キャンドルの集い

下関市立江浦小学校と合同で行い、お互いの出し物や一緒にゲームをすることにより、交流を深めた。

一緒に活動してもらったお礼も込めて、竹楽器アンクルンで「世界に一つだけの花」を演奏した。



○ 3日目 ・ 社会見学

山口ふるさと伝承センター（伝統工芸の大内塗体験）、マツダ自動車防府工場見学

宿泊施設から直接見学地へ往復する。

昨年度にない取組を試みた。



○ 4日目 ・ 奉仕作業

- ・ 景清洞探検

② 王喜の竹を通じてのふれあい交流活動

○ 森林づくりフェスタへのアンクルン演奏出演

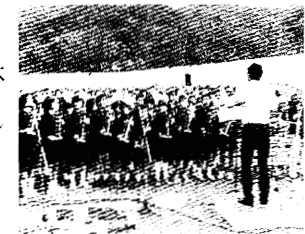
10月26日に山口県岩国市錦帯橋の下の広場で行われた森林づくりフェスタに「やまぐちバンブーオーケストラ」の一員として参加した。

○ 下関市小学校音楽祭へのアンクルン演奏出演

10月21日に下関市小学校音楽祭に参加した。

○ 「かぐや姫の里」の地域の方々との竹細工集会

1月27日 7名の方が指導され、一輪ざしを製作した。



(3) 事後指導

○ 宿泊学習を振り返り、学んだことや感想を作文に書いた。

○ お世話になった秋吉少年自然の家にお礼の手紙を書いた。（代表）

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会

学校評議員3名、PTA会長、地域団体「かぐや姫の里」代表、校長、教頭、教務主任で構成。

(2) 配慮事項等

宿泊学習の実施では、担任と教務主任が宿泊施設と他入所学校との連絡・調整を行う。PTA会長の協力で、PTA学年活動で宿泊実施前に調理実習（カレーライスづくり）を実施する。

竹細工や竹の楽器の演奏については、地域団体「かぐや姫の里」代表や地域のバンブーオーケストラの指揮者に指導・協力をしてもらう。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

宿泊学習の実施では、入所前に担任と教務主任が宿泊施設と他入所学校との連絡・調整を行い、さらに、引率者全員（担任、教務主任、養護教諭、校長、教頭）で宿泊の期間中、児童の活動についての役割分担や意見交換を行ったので、児童の活動の様子が詳しく観察・評価でき、次への指導へとつなげることができた。実施後は、宿泊学習を振り返り、学んだことや感想を作文に書かせることにより、児童の成長の様子を把握することができた。

竹楽器の演奏では、練習時も当日の移動や演奏時も、担任がつきっきりの指導をしたので、学校の代表として参加するという自覚を感じ取ることができた。

竹細工の活動では、グループでの活動や練習の様子を観察することにより、児童の意欲や態度についての評価ができた。また、指導者への感謝の気持ちや地域を愛する気持ちもうかがうことができた。

5 活動の成果と課題

同じ下関市内の江浦小学校と3日間生活を共にすることができたことにより、様々な交流活動を仕組むことができた。オリエンテーリング、野外炊事、大理石クラフトと、同じ場で指導を受け一緒に活動した。キャンドルの集いでもまた、一つのキャンドルを囲み、ゲームを楽しみ、スタンプの交歓をした。本校の児童も、練習してきた竹楽器アンクルンの演奏を披露することができた。3日間をほぼ同じプログラムで活動できたことにより、実り多い交流を行うことができた。

昨年度までとは異なり、1日長い3泊4日の日程で実施したが、体調をこわす児童もなく、むしろ、所での生活リズムに慣れていく様を見て取ることができた。3日目に社会見学、また、長期の宿泊になるため洗濯実習を取り入れ荷物の軽減も図ってみた。所から出発する社会見学も洗濯も初めて見る光景だったようで、所の先生方が感心されていた。

児童のアンケート（宿泊学習終了約2か月後、1学期末に実施）

「宿泊学習で友達とは仲よく過ごせたでしょうか」ととても思う（26）まあまあ思う（5）

「宿泊学習が終わっても友達とは仲よく過ごせているでしょうか」

とても思う（18）まあまあ思う（13）

「宿泊学習で友達のよいところが見つかったでしょうか」 見つかった（26）

児童の意見（人の話をよく聞くと、みんなで助け合って行動できる、みんな自分のことを後にして友達の方を先にやる、こんなに人を手伝う人だったというところ、等）

「今、学校生活で、友達のよいところが見つかりますか」

とても思う（15）まあまあ思う（14）

宿泊学習のねらいとしていた自立心や社会性の育成は、他人のよさを認めることが大事な要素の一つであるように思う。このアンケート結果から、児童は友達のよさを見つけ、友達を認める大切な経験をしたように思う。

森林づくりフェスタへのアンクルン演奏出演では、5・6年生がアンクルンの演奏を披露するとともに、そこで催される様々なイベントにかかわりながら多くの人たちと交流できた。ふるさと王喜を誇りに思う気持ちを育てる大切な機会となった。

来年度は、同じ秋吉台少年自然の家で、3泊4日の宿泊学習を計画している。大自然の中での体験活動をゆったりとした時間の中で過ごさせ、所期のねらいを達成したい。

仲間と学ぶ宿泊体験教室

しものせき やまのた
下関市立山の田小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：26学級
- 児童数：785人
- 教職員数：46人
- 活動の対象学年：5年生・132人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 山口県の西端、関門海峡に面する下関市（人口約30万人）の西方にある。
- 周辺は住宅地、及び商業地。JR山陽本線とJR山陰線の合流地で交通量も多く、大学・高等学校等多くの学校が近くにある文教地区でもある。
- 校区のほとんどが開発され、本来の自然の姿を間近に見ることはできない。わずかに残る畑と点在する公園、街路樹、そして、学校や各住宅の樹木、花壇が日頃、子どもたちが接する自然であり、自然体験の機会が非常に少ない地域であると言える。
- ここ数年来、交通渋滞の解消のため道路の拡張・バイパス工事が進み、残された自然は、更に少なくなる傾向にある。
- 一部響灘に面し、海岸を持つが遊泳・立ち入り禁止となっており、かつてワースト河川と言われた武久川の河口付近に位置している。近年、川の汚れは、改善されてきたが体験活動の場となりにくい面がある。

③ 連絡先

- 〒751-0837
下関市山の田中央町13番1号
- 電 話：083 (252) 3735
- F A X：083 (252) 3745
- 電子メール：yamanota-shou@
edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 自然にかかわる宿泊体験活動
 - ・ 宿泊を伴う共同生活をおくる体験で、友だち同士が力を合わせ、支え合うことを通して、相手の気持ちを分かろうとしたり、相手の立場になって考えたりという、お互いが相手を思いやる心を育てるとともに、家族や教師に手助けしてもらうことなく、自分たちで考え・行動し、自分たちの力で壁を乗り越えていく自主性を育てる。
- 高齢者との交流にかかわる体験活動
 - ・ 宿泊体験活動を通して培った「思いやりの心」を学校の中だけでなく、多くの人々に広げていく。高齢者や障害のある人々とかかわるなど福祉を通して思いやりの心をさらに大きくしていく。
- 社会奉仕にかかわる体験活動
 - ・ 思いやりの心を人だけでなく、自然にも目を向け、身近な環境問題から世界的・地球的環境問題に発展させていく。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- わたしたちの宿泊学習
(総合的な学習の時間10単位時間)
- チャレンジ宿泊学習
(遠足・集団宿泊的行事18単位時間)
- ふれあいいっぱいⅠ
(総合的な学習の時間4単位時間)
- ふれあいいっぱいⅡ
(総合的な学習の時間4単位時間)
- 学校のまわりをきれいにしよう
(総合的な学習の時間4単位時間)

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

宿泊を伴う共同生活をおくる体験で、友だち同士が力を合わせ、支え合うことを通して、相手の気持ちをわかろうとしたり、相手の立場になって考えたりという、お互いが相手を思いやる心を育てていきたい。また、家族や教師に手助けしてもらうことなく、自分たちで考え・行動し、自分たちの力で壁を乗り越えていく自主性もあわせて育てたい。

そして宿泊体験活動を通して培った「思いやりの心」を学校の中だけでなく、多くの人々に広げていく。高齢者や障害のある人々とかかわるなど福祉を通して思いやりの心をさらに大きくしていく。またその心を人だけでなく、自然にも目を向け、身近な環境問題から世界的・地球的環境問題に発展させていきたい。

このような体験活動を通して、「思いやりの心」を育てることが、豊かな人間性や社会性を育むことになると思われる。

○ 全体の指導計画

主な活動		対象学年： 5 年	年間総時間数： 42 時間
実施学年	実施する体験活動の概要	予定日時・期間 (単位時間数)	教育課程上の 位置付け
5 年	「ふれあい いっぱいⅠ」 高齢者と触れ合う体験を通して、高齢者とのかわり方を身につけさせるとともに高齢者への思いやりの心を育ませる。	5 月 (4 時間)	総合的な学習の時間
5 年	「ふれあい いっぱいⅡ」 眼や耳の不自由な人とのかわり方について、体験を通して学ばせ、優しく相手を思いやる気持ちを育てる。	6 月 (4 時間)	学校行事
5 年	「わたしたちの宿泊学習Ⅰ」 主体的に宿泊学習の計画をしたり自分の成長をまとめたりすることにより、見通しをもち協力する態度を身につけさせる。	7. 9 月 (8 時間)	総合的な学習の時間
5 年	「チャレンジ宿泊学習」 友だちと力を合わせて活動することを通して、互いに思いやる心を育てるとともに、自分たちで考え、判断し、行動できる主体性を養う。	10 月 1～3 日 2 泊 3 日 (18 時間)	総合的な学習の時間
5 年	「わたしたちの宿泊学習Ⅱ」 3 日間の宿泊学習で体験したことや思い出を自分なりの方法でまとめる。	10 月 (4 時間)	総合的な学習の時間
5 年	「学校のまわりをきれいにしよう」 落ち葉を掃いたり、ごみを拾ったりする活動を通して、地域の人々と触れ合い、地域を愛する心を育てる。	12 月上旬 (4 時間)	総合的な学習の時間

2 活動の実際

○「わたしたちの宿泊学習Ⅰ」事前指導

- ・ 宿泊学習でどんな力をつけたいかを考え、めあてを決める。
- ・ 宿泊学習の班をつくり、自分の役割を決定する。
- ・ 旗の掲揚や調理体験など宿泊学習の生活の流れに沿った動きを練習する。
- ・ スタンツの例を知り、各班でスタンツの練習をする。

○「チャレンジ宿泊学習」活動の展開

活動場所：山口徳地青少年自然の家（山口県山口市徳地）

- ・ 自然の家の5つの方針「自然や自然の美に感動する心など柔らかな感性」「生命を大切にする心」「他人を思いやる心、自己抑制力、公正さを重んじる心」「我慢する心（耐性）、自立心」「物事を着実にやり抜く強い意志、主体性」が、本校・本事業のねらいに即し、大自然に恵まれた場所にあり、大規模校が安全にのびのび活動できる施設である。

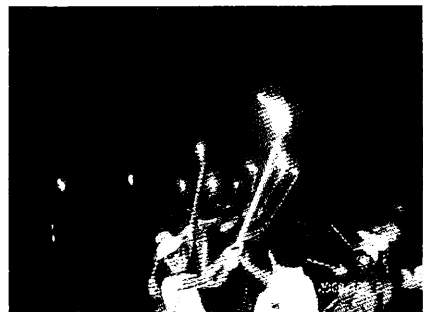
1日目

- ・ 広大な山口徳地青少年自然の家のコースをいっばいに使ったスコアオリエンテーリングを少人数編成で実施する。
- ・ 満天の星空の下、県下一の望遠鏡を使い土星の輪などの天体観察を実施する。



2日目

- ・ 自分たちの手で生地から作りドラム缶で焼くピザ作りを行う。
- ・ 130人余がトーチ棒に火を灯し、キャンプファイヤーを実施する。



3日目

- ・ 宿泊学習の思いを込め、杉板の美しい木目を生かしながら、焼き板細工を実施する。



○「わたしたちの宿泊学習Ⅱ」事後指導

- ・ 作文や絵画にまとめ、発表する。日常生活や学校生活に生かせるものを話し合う。

○「ふれあい いっぱいⅠ」

- ・ 疑似体験器具や車椅子を使った体験活動をする。
- ・ 介護老人保健施設「青海荘」を訪問し、交流活動をする。

○「ふれあい いっぱいⅡ」

- ・ ブラインドウォークや点字に触れる経験をし、目の自由な人とのかかわりについて学ぶ。
- ・ 社会福祉協議会の方を招き、目や耳の不自由な人とのかかわり方について学ぶ。

○「学校のまわりをきれいにしよう」

- ・ 学校周辺及び近隣公園の街路樹掃き活動を行う。

○「ふれあい いっぱいⅢ」

- ・ 福祉施設『青海荘』を訪問する計画を立て、お年寄りと交流する。

3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会

① 学校支援委員会の構成

勤務先又は機関・団体名	職 名	備 考
山の田小学校後援会	会 長	
	学校評議員	
	学校評議員	元自治会長
山の田小学校PTA	会 長	
山の田小学校	校 長	
山の田小学校	教 頭	
山の田小学校	教務主任	
山の田小学校	教 諭	

② 学校支援委員会の主な活動予定について

- ・ 定期的に会合をもち、支援方法について協議する。
- ・ 体験活動を行う際、保護者や地域の協力を得られるように事前に働きかける。

○ 配慮事項等

① 学校を挙げて実施する際の体制整備について（特に留意する点等）

- ・ 該当学年だけにとどまらず、専科等を中心に全校体制で協力・援助する。また経過や成果について公開し、他の学年にも波及するように努める。
- ・ なお、詳細な計画を立てる際には、関係する担当の主任や係とも連携し、よりよい体験活動を仕組めるようにする。

② 保護者理解を得るための取組について

- ・ 学校から本事業に関する体験活動について周知徹底するとともに、学校支援委員会を中心にPTAや地域・関係団体にも働きかけ協力を求めていく。

③ 宿泊体験を実施する際の受け入れ地域・団体・関係するボランティア、指導員との連携・協力体制づくりについて

- ・ 事前に使用したり訪問したりする施設と連絡を取り、体験活動の趣旨やねらい等を十分理解していただく。その上で最も適した体験ができるように計画を立てる。そのために必要な場合は、事前に施設等を訪問し、関係者との連携を密にする。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

○ 児童の作文、アンケート及び宿泊学習発表会等による評価

- ・ 活動して感じたことや学んだことを中心に、新聞、作文、絵、巻物などにまとめる。来年度の参考にしてもらうため、4年生に読んでもらうことも意識してわかりやすくまとめるよう工夫させ、掲示する。
- ・ 最終日に保護者へのはがきを書かせ、その時に体験した感動を家族に伝える。
- ・ 学年活動の一つとして、活動の様子を映したビデオや写真を保護者にも見てもらい体験活動のよさを保護者に知ってもらう。
- ・ 体験活動の発表会の台本を児童と考えるときに、宿泊学習で感じた大切なことを取り入れた。

○ 全校体制によりかかわった職員による反省会

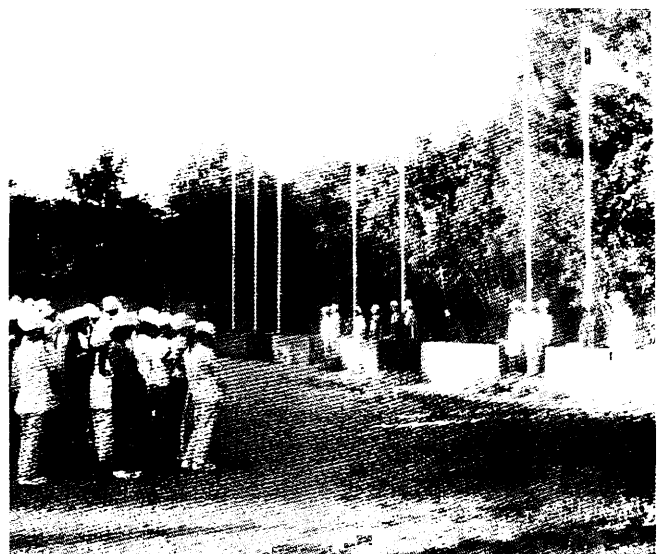
- ・ 各活動について安全面を中心に振り返り、配慮すべき点をしおりに記入して、次年度へ生かせるようにした。

5 活動の成果と課題

- ・ 自分たちで事前に試行したり役割を分担したりして学校生活に生かせるようになり、グループ活動が活発になり自主的な行動が見られるようになった。
- ・ 偏食がひどかった児童が、自分たちで調理したものを進んでよく食べることができ、担当教諭から報告を受けた保護者もその成長ぶりを喜んだ。
- ・ こだわりの強い場面かん黙の児童も、事前に保護者と綿密に打ち合わせをして配慮できる準備をしていたが、自然の中で思ったよりも伸び伸びと活動することができ、その活動ぶりを見て、友だちも教師も保護者もその成長を認めることができた。
- ・ 昨年度の反省を生かして、班長のみの分火後、学級ごとに分火しながら退場することで、最後の一人まで燃えつきることなく安全に退場できた。
- ・ ピザ作りも、昨年度余った材料を今年度は減らして注文し、薄く仕上げることでおいしく焼けて好評だった。また片づけ・点検も計画的にスムーズにできた。
- ・ 施設や道具、人材、構成メンバーの変化による微調整、連携の強化が必要である。
- ・ 今回は大きな行事である運動会と時期が重なり、時間を十分にとることができなかったが、宿泊学習までの事前指導で、児童とめあてを考えたり、活動について調べたりする時間をしっかりとることが必要であると感じた。
- ・ この時期の宿泊学習は、季節的には天候に恵まれるよい時期で、自然の実りも多く、活動が充実したものとなった。
- ・ 宿泊体験やお年寄りとのふれあいを通して、人のつながりや助け合うことの大切さを感じ、学校生活にも生かせるようになってきた。引き続き価値ある体験活動を計画・実施していきたい。

<児童の作文より>

- ・ …最後にわたしが徳地に行って学んだことを書きます。一つ目は、友だちと協力するということです。一人じゃあできないことも、みんなでやれば、できました。友だちはいいなあ～と思いました。二つ目は、何にでも挑戦することです。わたしは、挑戦するのが苦手だけど徳地に行っているいろいろなことに挑戦することができました。そして、とても楽しかったです。これからも、友だちの力もかりながら、いろんなことに挑戦してみようと思います。



県の海洋自然や伝統工芸にふれる体験活動及び

平和を願うボランティア体験活動

(焼き物作り体験・カヌー海洋訓練体験・広島平和公園ボランティア清掃体験)

周南市立久米小学校

学 校 の 概 要

① 学校の規模

- 学級数：16学級
- 児童数：451人
- 教職員数：24人
- 活動の対象学年：5年生・79人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校区は、県の瀬戸内海側の中央部に位置して、交通の要衝である。三方を海にかこまれた本県では、各地域で海洋環境を生かした体験活動が展開されており本校に最寄りの光青年の家ではカヌー操縦体験を中心とした宿泊体験活動が実践できる。
- 本市の人口は周南工業地域の発展に伴い住宅化が進んで増加したが、現在は減少傾向にある。周南工業地域は瀬戸内海工業地域の一部であり、第5学年で学習する自動車工業の社会見学(広島マツダ)は教科書と比較できる。それを兼ねて、広島市の平和記念資料館も見学できる。ここで戦争の悲惨さや平和の大切さをしっかりとかみしめながら、平和記念公園の清掃ボランティアに取り組ませることが可能となる。また、本市には人間魚雷「回天」の基地があり、6年生の歴史学習にもつなげることができる。

③ 連絡先

- 〒745-0801
山口県周南市大字久米3417番地
- 電 話：0834-29-0204
- FAX：0834-29-4353

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 宿泊体験活動を通して、自分たちの住む瀬戸内地域の自然や県の伝統文化にふれることで地域を愛する心を育てる。
- 瀬戸内海はおだやかでカヌー体験をするのに最適の場所であり、体験を通して協調の精神や生命の大切さに気付かせる。
- 本県は萩焼を代表として窯業がさかんであるので、近隣の窯業所で、宿泊体験の初日の活動となる焼き物作りを実施した。土にふれることで、これから始まる長い宿泊体験活動に対する緊張感から解放させる。(アイスブレイキング)
- 社会見学に広島平和公園を選び、戦争の悲惨さから目をそらさない見学をした上で、当時多くの方が亡くなった公園内のボランティア清掃に取り組みながら、平和の大切さと現在の友達や家族との豊かな生活のありがたさに気付かせる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 生産活動に関わる体験活動
田植え・稲刈り・しめ縄作り・もち米料理
(社会2時間、家庭2時間、総合13時間)
- 宿泊学習に関わる体験学習
宿泊先：山口県光青年の家(ササノ光)
焼き物作り、野外炊事、カヌー体験、オリエンタリング(学級活動2時間、総合18時間)
- 奉仕活動に関わる体験活動
広島平和記念資料館の平和学習と、平和記念公園清掃ボランティア活動(社会2時間、総合3時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

本校の体験活動で重点をおいているねらいは以下の3点である。

- 自分たちの住む瀬戸内地域の自然や山口県の伝統文化に体験活動を通してふれ、県の自然や伝統工芸（焼き物作り）をたっぷりと心と体で味わい、郷土を愛する心を育てる。
- カヌー訓練や野外炊飯・オリエンテーリング等、瀬戸内海の自然にたっぷりとふれ、友情や連帯感を培い、豊かな自然を生活に生かそうとする精神を養うとともに、最後まで根気強く挑戦する態度を育てる。
- 世界唯一の被爆国の国民として、悲惨な戦争の歴史事実としっかり向き合うことで、平和に向けて自分も何かしてみようとする態度を養い、平和公園のボランティア清掃活動に取り組むことで社会奉仕の心を育てる。

(2) 宿泊体験活動（自然に関わる体験活動）について

日程：平成20年6月11日(水)～13日(金) 於 山口県光青年の家（ササノヒル光）

参加者：第5学年児童 79名（欠席2名）

【1日目】 9:00 10:00 12:00 13:00 13:40 18:00 22:30

久米小発→光椿窯→昼食→入所式→野外炊飯→入浴→就寝

【2日目】 6:30 7:40 9:00 12:00 13:00 19:00 20:00

起床・朝食→カヌー海洋訓練→昼食→カヌー海洋訓練→キャンドルのつどい→就寝

【3日目】 6:30 7:40 9:30 12:00 15:00 15:40 16:30

起床・朝食→オリエンテーリング→昼食（弁当）→オリエンテーリング終了→退所式→久米小着

(3) 文化芸術《焼き物作り》に関わる体験活動について（総合的な学習の時間とのかかわり）

総合的な学習の時間では、2学期に学ぶ山口県の伝統文化についての事前の調べ学習として焼き物に目を向けさせた。「焼き物作り」は地域の陶芸家の方の協力を得て、手捻りの形成方法で自分にとって必要な生活雑器の作成に取り組んだ。乾燥、色付け、窯焼きの工程まで協力していただいた。文化芸術的体験活動に高めるには、陶芸の全工程を子供の手で行う必要がある。

(4) 勤労生産《米作り》に関わる体験活動について（総合的な学習の時間とのかかわり）

①バケツ苗の栽培 5月中旬～6月中旬 ②学習田の田植え 6月9日 ③奉仕作業日に学習田の草取り 8月23日 ④学習田の稲刈り 10月14日 ⑤しめ縄飾り作り 12月19日

以上の日程で米作り体験を実施し、米作りに目を向けることを通して、地域の人や専門家の人たちとふれ合いながら自然に親しませた。さらに、1月27日（火）に学習田で収穫したもち米を活用して、家庭科の学習と兼ねたもち米調理体験に挑戦した。

(5) 工場見学・平和学習と社会奉仕にかかわる体験活動について

5年生の社会科で学ぶ「自動車をつくる工業」で、広島のマツダ自動車工場へ社会見学に行くことを社会奉仕体験活動と結びつける「媒体」として平和教育を取り上げた。「ノーマアヒロシマ」核戦争を二度と繰り返さないと誓った平和都市広島、さらには、世界中の人々が平和の大切さを学ぶために訪れる平和記念公園の清掃ボランティアを、自分たちにもできる平和への第一歩として本年度も実践した。



〈日 程 平成20年10月9日(木) 参加者 第5学年児童 80名〉

8:30 11:00 ～ 12:00 12:00 ～ 12:30 13:00 ～ 14:00
久米小発→平和記念公園ボランティア清掃場→平和記念公園(昼食)→広島マツダ自動車工場
14:30 ～ 15:30 16:30
→広島平和記念資料館→ 久米小学校着

2 活動の実際（自然に関わる宿泊体験活動を中心に）

「焼き物作り」では、親しみをもって自由にねん土に触れさせることで、これから始まる体験活動に対する緊張感から解放（アイスブレイキング）することができ、有意義な時間が過ごせた。

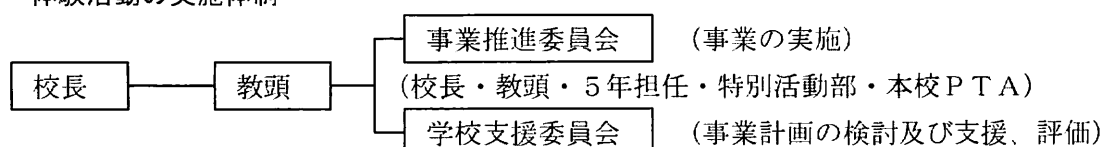
「野外炊飯」は、班ごとに協力しカレーライスを作った。初めての経験のため、マッチでの着火に手間どったり、使用する道具の扱いに慣れず苦戦したりした班もあったが、事前指導で昨年度の活動を写真やビデオで視聴していたので、ほぼ予定通りに進めることができた。本年度も片付けを最後まで徹底的にやることをめあてにしていたので片付け完了が遅くなったが、何事も最後までやり遂げることの大切さを実感させることができた。

「カヌー訓練」は、昨年度と内容を変え、1・2組ともに本年度は全日（午前・午後）カヌーを操縦することで、海洋訓練体験を十分に味わうことができた。自分の力でカヌーを操縦し目的地まで行って帰ってきたときの一人ひとりの自信に満ちた顔が、体験の充実感を物語っていた。

「キャンドルサービス」は、児童の企画立案で全活動を実施させた。各班が趣向を凝らしたスタンプを取り入れ、昨年度より内容が充実し印象深いものとなった。天候に関係なく実施できるキャンドルサービスを2日目の夜に実施したことで、日程的にもゆとりをもつことができた。

「オリエンテーリング」は、最終日に昼食をはさんで5時間の日程で本格的に行った。10キロに及ぶ長距離コースを全部の班が安全にゴールした。子供たちの絆をさらに深めることができた。昨年同様に、助け合い、励まし合いの場面が子供たちの感想に生き生きと表現されていた。

3 体験活動の実施体制



4 体験活動の評価の工夫と指導の改善（自然に関わる体験活動を中心に）

グループ活動は、子供にとってエネルギーを必要とするものである。より理想的なグループの仲間意識を醸成するには、そのグルーピング自体を教材として開発し、何よりも子供たちの心理的な負担を軽減（アイスブレイキング）すべきである。仲間意識高揚に最適なグループワークとして「ビーイング」がある。ワークショップ型の学習形態をとることでお互いが主体的に認め合う態度が身につく、よりよい評価への足がかりを見いだせるという仮説のもとに以下の授業実践（事前指導）を試みた。

【第5学年1組 学級活動 学習指導案】

(1) 単元名 クラスのビーイング

ワークショップ ～自然教室に向けて、班の仲間意識を描いてみよう～

(2) ねらい 6月11日からの長期宿泊体験に向けて、ビーイング（大判用紙に体をトレースしたもの）に各活動班の「協力・信頼・達成」を願う気持ちを文字や色・絵等で表現することを通して、班の仲間意識を高めることができる。

(3) 準備 社会見学のしおり、大判用紙（ボディトレーシング）、マーカーペン

(4) 展 開

学習活動 ・ 内容	教師の支援と援助
1 心の開示法ビーイングのやり方を知る。 ・ボディトレース ・体の中（プラス思考） ・体の外（マイナス思考）	○ 6～7名のグループのうち、1名のボディトレースをし、輪郭の内側に人との関わりで大切な「協力・信頼・達成等」にかかわることを、輪郭の外側に人との関わりであってはいならない「逃避・無責任・争い等」にかかわることを、表現方法を限定しないで自由に多色マーカーペンで表現させる。 ○ 頭・手・胸（ハート）・足等、その部位にかかわる情意表現を工夫させる。
ビーイング（班の存在）に、班の仲間意識を表現してみよう。	
2 ビーイングに表現する。 ・選んだ言葉の発表〈聞く〉 ・ビーイングに表現〈描く・書く〉	○ 宿泊体験における仲間意識について、一人一人が選んだ言葉が他のメンバーと一緒にあっても、行動や態度としては意味が違うことがあるので、みんなの発言を尊重し、お互いが認めあう雰囲気づくりに配慮したい。
3 活動をふりかえる。 ・プラス思考の言葉 ・マイナス思考の言葉 ・ビーイングの名前 ・宿泊体験活動での実践	○ グループのビーイングをじっくりと内省させることで、平和な班づくりのために、自分にできることはないか、争いをなくすアイデアはないかをフリートークで発表させる。 ○ このビーイングを身近に感じさせるためにネーミングを工夫させ、いつでも見つめ直せるように、教室の目立つ場所に掲示する。

(5) 評価 宿泊体験の中での自分たちの仲間意識を示した「ビーイング」を、班の行動指標として尊重していこうとする態度がみられたか。

5 活動の成果と課題

本年度、本校は豊かな体験活動推進事業は2年次である。子供たちは「何事も最後まで責任をもってやり遂げる」「相手を責めるのではなく、相手を認める態度を培う」ことを前年度の先輩から引き継ぎ、自分を振り返る重点目標とした。この「2つの誓い」は宿泊体験の後も、学校のさまざまな活動の中で高学年の自己評価の基準となった。2年間の推進事業を通して子供たちが変容してきたことは、自己の存在が必要とされているという有用感を集団の中で抱けるようになったことである。特に、バディを組んだカヌー体験、チームでのオリエンテーリング、平和記念公園での清掃ボランティアなどは、一人ひとりの尊い存在を再確認できたといえる。体験は必ず、何かにつながる可能性を秘めている。よって、体験の企画者は、次につながる学習を予期して計画を立てていくことの必要性を実感した。さらに本年度は、集団の中で子供が営みを始める前の精神的重圧感をいかに軽減するかという課題に着目し、ビーイングや土とのふれあい（陶芸）をアイスブレーキングとして取り入れることで、スムーズな体験活動への移行が可能となった。今後も、学校サイドが体験の企画者として地域の方々や体験活動の専門家とのコラボレーションを積極的に進め、教師が体験に対する強い思いと願いをもち続けることを大切にしていきたい。

仲間とふれあって、協力することの大切さを学ぶ体験活動

しゅうなん ふくがわみなみ
周南市立福川南小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：14学級
- 児童数：358人
- 教職員数：19人
- 活動の対象学年：5年生・51人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校は、周南市の西端で、夜市川河口沿いに位置している。周南工業地域の発展にともなう人口増加により、昭和55年4月に福川小学校から分離した。

校区内の住民のうち農業人口はわずかで、多くは農業以外の仕事に従事している。地域住民の学校教育に寄せる関心は高く、学校に対してもきわめて協力的である。共働きの家庭が多く、都市型地域としての特徴をもっている。

- 本地域は、以前、幼保小の連携の指定を受けていた。小学校の隣が幼稚園で、保育園も近くにある。幼保小の連携にかかわる取組を、現在も行っている。

③連絡先

- 〒746-0052
山口県周南市中囃町6-1
- 電 話：0834-63-8230
- F A X：0834-64-3654
- 電子メール：fukumnsho@shunan.ed.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 国立山口徳地青少年自然の家での宿泊による仲間と心ふれあう体験活動
 - ・ 共同生活のめあてをもちながら、寝食を共にし、協力することの大切さを学ぶ。
 - ・ T A P（徳地アドベンチャー教育プログラム）を行い、仲間と協力して、問題を解決する方法を学ぶ。
- 幼稚園児・保育園児との交流活動
 - ・ 幼い子どもを思いやりながら、こいのぼりをいっしょに制作し、支援する活動を通して交流を深める。
- 食育体験活動
 - ・ ソーセージ・シャーベット・バターづくり・乳搾りの体験をしたり、野外炊飯でカレーライスをつくったりして食文化の一端にふれ、食べ物をつくることの大変さと楽しさを学ぶ。
 - ・ 「そばの種を蒔いて、育て、そば打ちをして食べよう」では、育てたそばの実を挽いて粉にし、打ったそばを食べる伝統的な食文化の体験をする。

② 活動内容と教育課程上の位置づけ

- 協力し、仲間づくりをする活動
(総合的な学習の時間6時間、図工2時間、特別活動21時間)
- 食育にかかわる活動
(総合的な学習の時間13.5時間)
- 探求心を育てる活動 (理科2時間)

* 宿泊先 国立山口徳地青少年自然の家
〒747-0342
山口県山口市徳地船路668

1 活動に関する学校全体の計画

(1) 活動のねらい

- 仲間と集い、協力することの大切さを体得し、交流を深める。
- 食べ物への関心をもち、食事をつくったり、食文化にふれたりする体験を通して、食の大切さに気づかせ、食を考える契機とする。

(2) 全体の指導計画

- 実施学年：第5学年51人（幼稚園児14人、保育園児32人）

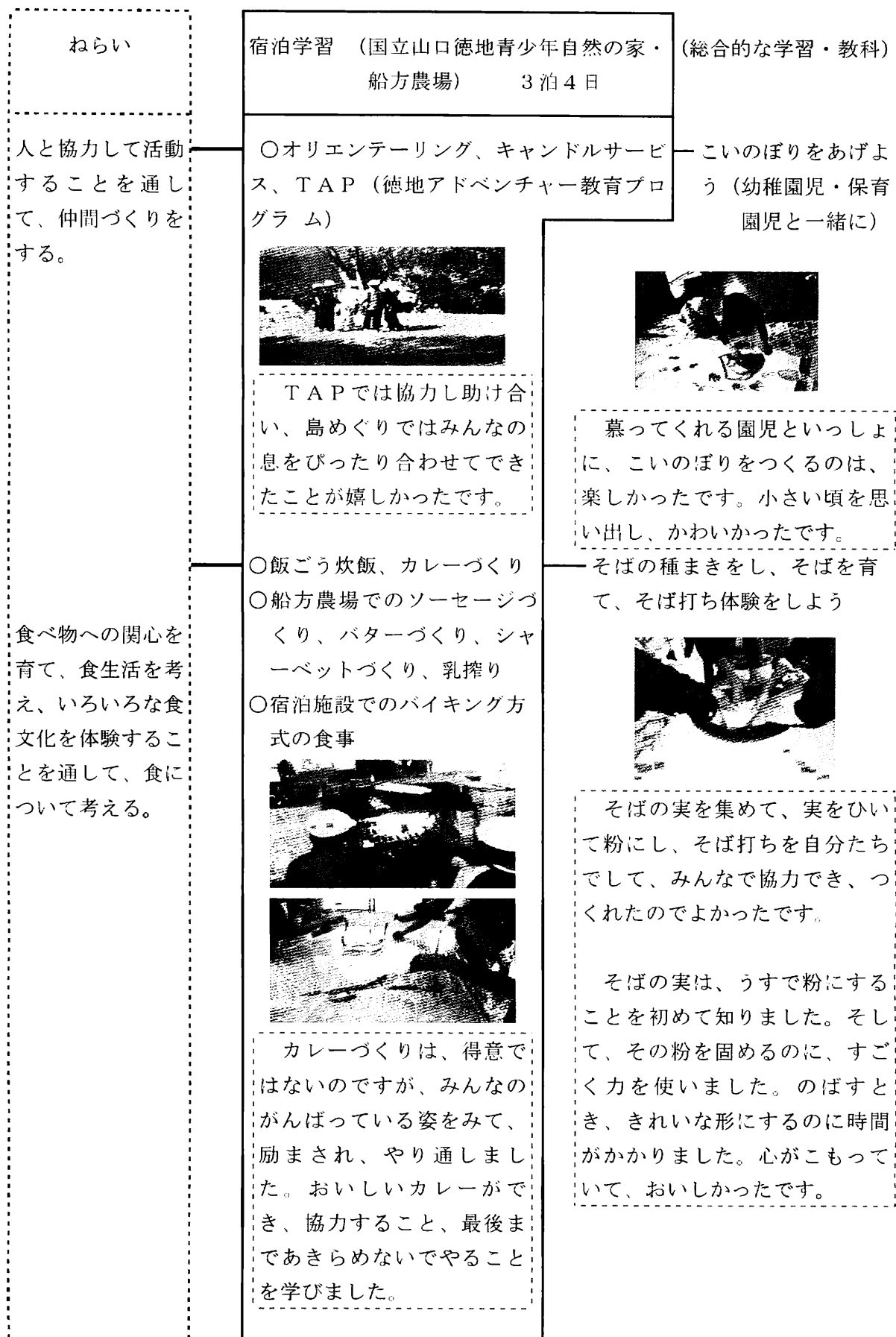
活動月日	活動内容	教育課程上の位置づけ	活動時間数
5月1、2日	○ 幼稚園・保育園児といっしょに夜市川にこいのぼりをあげよう	図工 総合的な活動の時間	2時間 3時間
6月5、6日	○ 宿泊学習事前指導	総合的な学習の時間	2時間
6月10日 ～13日 3泊4日	○ 宿泊学習 ・船方農場（ソーセージ シャーベット、バターづくり、乳搾り体験） ・野外炊飯（カレー） ・オリエンテーリング ・キャンドルサービス ・TAP（徳地アドベンチャープログラム） ・天体観測	総合的な学習の時間 特活 理科	9時間 21時間 2時間
9月16日	○ そばの種を蒔こう	総合的な学習の時間	0.5時間
9月～11月	○ そばの水やり、間引き 草抜き		
12月10日、 11日	○ そばを刈って、そばうち体験をしよう	総合的な学習の時間	4時間
12月12日	○ これまでの活動をふりかえりまとめよう	総合的な学習の時間	1時間

2 活動の実際

(1) 事前指導

宿泊学習では、活動のねらいをはっきりさせ、協力できるよう仕事の分担について、細部にわたり話し合わせた。全体の見通しをもたせ、活動の手順を確認し、互いのよさが生かせるように、それぞれが活躍できる場を増やした。

(2) 活動の展開



○ 事後指導

体験をした後では、活動のねらいをもとにして、自己の変容を書くことにより、振り返りをした。さらに、いろいろな場で、友達のよさを見つけ、よさを紹介し合うことにより、互いを認め合う風土をつくるよう支援をし続けた。

3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会

原案を教務・5年生担任2名で作成し、それを福川南地区コミュニティーセンター関係者・学校評議員・学校関係者で検討し、体験活動の実施にあたった。それぞれの活動では、専門の分野の方々の力を借り、達成感や成就感をもたせるように工夫した。

○ 配慮事項

- ・活動場面では、けがや事故を防ぐよう、活動の計画や手順を事前に把握させた。
- ・3泊4日の宿泊学習には、指導する教員が、いつも児童と一緒に行動を共にした。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

宿泊活動では、仲間と協力すれば達成感がもてるような場面を仕組んだ。それは、一人では挫折しそうになったり、あきらめそうになったりしても、仲間と考え、あきらめず協力すると達成できるという活動場面である。体験後には、達成感の共有を大切にした。

- ① TAP（徳地アドベンチャー教育プログラム）後には、班で話し合って、仲間と協力することのすばらしさに気づかせるようにした。さらに、学んだことを作文に書き、あきらめないで協力することの大切さに気づかせる場を設けた。



- ② リボン表彰

活動場面では、『青色リボン：たくましく（すばやく、集合は静かに）、ピンクリボン：美しく（やさしく、協力、思いやり）、黄色リボン：根気よく（かしこく、積極性、根気強さ）』により、行動の価値づけをし、具体的なひとつひとつの行動を大切にして価値ある言動を増やしていった。

- ③ 事後に「友達のいいところみつけ新聞」を掲示し、よさを互いに認め合ったり、いろいろな体験活動の後に感動したことや仲間と協力したことを感想に残したりした。自分の成長の様子を記録することは、次のめあての意識づけにつながった。
- ④ 子ども同士の間で問題がおきた場合には、機会を逃さず、事情を把握し、子どもたちで解決しようとする力を育てる場ととらえ、集団の力を高めるように努めた。

5 活動の成果と課題

○ 成果

食を通しての活動を主にして、3泊4日の宿泊学習では、仲間と心ふれあい、共に協力して達成することをねらうことができた。一つ一つの活動では、途中で挫折しそうになっては、あきらめずにやりとげようという気持ちをもつ仲間の前向きな言葉や態度に影響を受けていた。次第に班員の心はひとつになり、協力してやりとげようとする集団へと進化していった。これらの体験を共有したことは、学級づくりの財産となった。

○ 課題

来年度以降も予算や時間を工夫して、継続して行っていきたい。この体験活動を生かして、事後指導を充実させ、年間を通して集団の力を高める指導方法を研究していきたい。

仲間づくりとふるさと発見の体験活動

山口県美祢市立美東中学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：7学級（内特別支援学級1）
- 生徒数：160人
- 教職員数：18人
- 活動の対象学年：1年生・57人

② 体験活動の観点からみた学校環境

- 学校は人口3万人の美祢市東部の大田地区に位置する。山口県の中央の山間地域である。農業を中心とした地域で人口が減少し、過疎化が進んでいる。
- 美祢市東部には、石灰岩台地秋吉台が広がっている。秋吉台周辺部の美東町長登地区に銅の接触鉱床が広がっており、奈良時代は東大寺の大仏を建立するための銅鉱石を採掘、製錬して奈良に送り出していた。

③ 連絡先

- 〒754-0211
山口県美祢市美東町大田6258
- 電 話：08396-2-0521
- FAX：08396-2-0522
- 電子メール mitou-08@c-able.ne.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 班で協力して、アドベンチャープログラムや野外炊飯やスタンプに取り組むことで、緊密な人間関係をつくる。
- 長登銅山を中心として、ふるさとの様々な自然や文化、歴史にふれることにより、自分たちのふるさとをより深く理解する。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 仲間づくりの活動（徳地宿泊研修）
（特別活動6単位時間、総合的な学習の時間4単位時間、学校行事18単位時間）
- ふるさと発見の活動（長登宿泊学習）
（特別活動1単位時間、総合的な学習の時間5単位時間、学校行事18単位時間）

③ 宿泊先

- 第1回 6月18～20日、2泊3日
国立山口徳地青少年自然の家
山口県山口市徳地船路668
- 第2回 11月19～21日、2泊3日
山口県秋吉台少年自然の家
山口県美祢市美東町赤長田平2128-17

1 活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

① 第1回 徳地宿泊研修（6月18日～20日）

本校は美東地域の5小学校から入学し、その内3小学校は複式を行っている小規模校である。そのため、集団にうまくとけこめるかという不安を抱えて入学してくる生徒が多い。入学して間もないこの時期に、寝食をともにしながらアドベンチャー・プログラム、スタンプ、野外炊飯などの協力を必要とする活動を行い、お互いの人間関係をより緊密にし、その後の学校生活で学習や部活動などに安心して取り組めるようになることをねらいとしている。

② 第2回 長登銅山宿泊体験学習 (11月19日～21日)

本市の東部には秋吉台があり、石灰岩地帯が広がっている。西部には石炭地帯があり、かつては無煙炭の産地として発展していた。その両地域には、貴重な化石もたくさんふくまれており、秋吉台科学博物館および美祢市歴史民俗資料館に展示されている。本校の校区内には、かつて奈良時代に東大寺の大仏を鑄造するための銅が生産された長登銅山がある。生徒にただ資料を調べるだけでなく、銅鉱石の採集、銅製錬、銅鑄造等の作業を体験させることにより、より深くふるさとを知るとともにふるさとに誇りをもつことをねらいとしている。また、この活動を通して地域社会の様々な年齢層の人たちとふれあい、その人たちのもっておられる経験を通じた知恵を学ぶこともねらいとしている。

(2) 全体の指導計画

① 徳地宿泊研修

月 日	教育課程と時数	生徒の活動
5/16 ～ 6/17	学活：5 総合：4	・ 宿泊研修の全体説明、班編成 ・ スタンツの内容の検討、役割分担、練習【2時間】 ・ 事前アンケートの実施、係集会（係の仕事の確認と分担） ・ スタンツ練習、帰りのバスの降車確認 ・ しおりの製本、しおりによる宿泊研修の活動の確認【2時間】 ・ スタンツ練習、最終確認 ・ 宿泊研修事前指導
6/18 ～ 6/20	学校行事：18	・ 徳地宿泊研修の主な活動 18日：TAP（徳地アドベンチャー・プログラム）【午後】、暗闇でのふりかえり【夜】 19日：TAP【1日】、キャンドルサービス（スタンツ）【夜】 20日：野外炊飯【午前】、事後アンケートの実施
6/23	学活：1	・ 感想文の記入、礼状作成

② 長登銅山宿泊体験学習

月 日	教育課程と時数	生徒の活動
10/10 ～ 11/18	学活：1 総合：3	・ 長登銅山宿泊体験学習の全体説明、長登銅山に関する事前学習（DVD視聴） ・ 事前アンケートの実施、班編成、係集会 ・ しおりの製本、教師による活動プログラムの説明 ・ 長登銅山宿泊体験学習事前指導
11/19 ～ 11/21	学校行事：18	・ 長登宿泊体験学習の主な活動 - A：周辺の遺跡・博物館研修、B：鉱山跡見学・鉱石採集 - C：銅製錬・鑄造体験 - 学年全体を3グループに分け、A～Cの活動を3日間ですべて体験する。 19日夜：講話「長登銅山と奈良東大寺」（講師：池田課長）
11/25	総合：2	・ 体験学習のまとめ、礼状作成、事後アンケートの実施

2 活動の実際

(1) 第1回 徳地宿泊研修（6月18日～20日）

① 事前指導

- 活動の目的を達成させるため、生徒同士で研修目的やスローガンを考えさせた。
- 班の人間関係を深めるために、キャンドルサービスのスタンツの練習に時間を割いた。
- 生徒の人間関係を把握するための事前アンケートを実施した。

② 活動の展開

- 学年全体を4つのグループに分け、講師（ファシリテーター）1人と教師1人がつき、TAPを体験した。仲間と協力しながら様々な困難な課題を克服していくもので、仲間同士の信頼感が培われる。昨年度も十種ヶ峰野外活動センターでこの活動を実施して、仲間づくりに効果的であるとの感想があり、今年度は1. 5日実施した。
- 2日目のキャンドルのつどいで、学校で練習したスタンツを披露した。
- 3日目に野外炊飯でカレーライスをつくった。豪雨の中、全員が自分の役割をよく果たし、すべての班でカレーライスを完成し、食べることができた。

③ 事後指導

- 毎日の活動終了後に、生徒にしおりの振り返りシートを記入させ、担任がそれを読んでアドバイスした。
- 宿泊研修3日目の退所式後、生徒の人間関係の変容を調べるため、事後アンケートを実施した。
- 研修終了後、学校で活動のまとめを行い、生徒に感想を書かせた。



↑ TAP 手つなぎトラバース



↑ TAP アイスブレイク



野外炊飯 →

(2) 第2回 長登銅山宿泊体験学習 (11月19日～21日)

① 事前指導

- 長登銅山と奈良東大寺の関係について、DVDを使って学習した。
- 体験学習の活動プログラムについて、昨年の写真や資料を使って説明した。
- 生徒の美祢市の自然、文化、歴史に対する知識をどの程度もっているかを確かめるため事前アンケートを実施した。

② 活動の展開

- 下記のA～Cの3つの活動プログラムを、1日1プログラム、3日間ですべて体験した。
A：周辺の遺跡・博物館研修（講師：美祢市文化財保護課 係長）
山口市鑄銭司郷土館→美祢市歴史民俗資料館・化石館→国秀遺跡→秋吉台科学博物館（秋吉台エコ・ミュージアム）→銭屋遺跡のコースをバスで移動し、見学する。
B：鉾山跡見学・鉾石採集（講師：九州大学名誉教授、九州大学総合研究博物館准教授）
奈良時代～昭和初期まで銅鉾石を採掘していた鉾山跡を見学した後、山頂付近に残っている銅鉾石、鉄鉾石等を採集し、持ち帰った鉾石をハンマー等で粉碎し、粉末にする。
C：銅製錬・鑄造体験（講師：長登古代銅製錬愛好会、京都（有）和銅寛 鑄物師）
耐火レンガでつくった銅製錬炉に、木炭、銅板を入れ足踏みふいごで風を送り温度を上げ銅を溶かす体験を行う。また、別に銅溶解炉で溶かした銅を、鑄型に流しオリジナルアクセサリーをつくる体験を行う。
- 19日夜、美祢市文化財保護課の方に「長登銅山と奈良東大寺」と題した講話をしていただいた。写真や図を交えたプレゼンテーションで、東大寺の大仏が鑄造された当時の時代背景、奈良時代の長登銅山の様子、長登銅山で生産された銅がどのようにして奈良に運ばれたかなど、わかりやすく説明をしていただいた。

③ 事後指導

- 毎日の活動終了後に、生徒にしおりにその日の活動のまとめをさせた。
- 研修終了後、生徒の変容をしらべるための事後アンケートを実施した。あわせて、人間関係がさらにどのように変容しているか確かめるアンケートも実施した。
- 各活動プログラムのまとめを行うと同時に、講師の先生方への礼状も作成し送付した。



銅の鑄造体験



鉾山跡（大切4号坑）の見学



博物館の見学



講話「長登銅山と奈良東大寺」

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会の組織（長登銅山宿泊体験学習）

美祢市文化財保護課課長（長登銅山研究の専門家）

美祢市文化財保護課係長（銭屋遺跡等の遺跡研究の専門家）

九州大学名誉教授、九州大学総合研究博物館准教授（鉱石・鉱床の専門家）

長登古代銅製錬愛好会（奈良時代の銅製錬の再現研究）、京都(有)和銅寛 鋳物師（銅鑄造）

(2) 学校支援委員会の活動内容（長登銅山宿泊体験学習）

体験活動プログラムの作成、体験活動のための物品等の準備、体験活動の指導・支援

4 体験活動の評価の工夫

(1) 評価のためのアンケートの作成

1年次は生徒の感想やまとめを使って、生徒が体験活動を通してどのように変容したかをとらえるようにしたが、今年度はわかりやすい数値評価を行うためアンケートを作成した。アンケート内容は下記のとおりである。（4【そう思う】～1【思わない】で、評価している。）

① 第1回 徳地宿泊研修（6月18日～20日）

ア あなたは、気軽に話せる友人がいますか。

イ あなたは、気軽に話せる異性（男女）がいますか。

ウ あなたがグループで話し合いをするとき、活発に意見を出し合えていると思いますか。

エ あなたの給食当番の班は、協力して準備ができていると思いますか。

オ あなたは、他の小学校出身の人とも気軽に話すことができますか。

カ あなたは、悩みを相談できる人が同じ学年にいますか。

キ あなたが日頃よく話す友人は何人ぐらいいますか。 ※この項目は人数で記入

② 第2回 長登銅山宿泊体験学習（11月19日～21日）

ア 長登銅山について説明することができますか。

イ 鉱石から銅を取り出す方法について説明することができますか。

ウ 秋吉台がどのようにしてできたか説明することができますか。

エ 美祢市の代表的な化石について説明することができますか。

オ 美祢市内の代表的な遺跡について説明することができますか。

カ 美祢市の自然や文化、歴史に誇りをもっていますか。

キ 銅の鑄造体験は楽しかったですか。 ※この項目は体験学習終了後のみ記入

(2) 体験活動のまとめ

分担を決めて体験学習のまとめを行い、それを校内に掲示し、他の学年の生徒や保護者に見ていただくことにした。

5 活動の成果と課題

(1) アンケートの結果（事前、事後アンケートの平均値の比較）

① 第1回 徳地宿泊研修（6月18日～20日）

項 目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
事前	3. 7	2. 5	2. 8	3. 3	3. 6	3. 1	12. 0
事後	3. 7	2. 7	3. 1	3. 4	3. 7	3. 3	13. 8

② 第2回 長登銅山宿泊体験学習（11月19日～21日）

項 目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
事前	1. 8	1. 5	1. 7	1. 4	1. 3	2. 7	
事後	2. 8	2. 9	3. 0	2. 8	2. 6	3. 5	3. 9

(2) 生徒の感想

① 第1回 徳地宿泊研修（6月18日～20日）

今日TAPで協力することの大切さを学びました。班の人が協力しないとできないものばかりだったので少し責任も感じました。特に最後にやったズームは絵をきちんと並べるゲームですごく難しかったです。(I)

雨の中、カレーを作りました。靴までびしょびしょで気持ち悪かったです。カレーの方はまき係、ご飯係、カレー係に分かれてやりました。私はカレー係になって野菜を切ったり煮たりして少し大変でした。最後、ご飯がもちもちで、もちカレーになって。でも、すごくおいしかったです。(F)

② 第2回 長登銅山宿泊体験学習（11月19日～21日）

ふいごで溶鉱炉に空気を入れ、温度を上げるのが疲れたけど、溶けた銅が穴から出てきたときはとても感動しました。遠くからわざわざ先生が来られ、鉱石や銅について詳しく教えてくれました。貴重な体験ばかりのよい研修でした。(O)

私が、宿泊研修に行って一番思い出に残ったことは、鉱石採集でした。たくさんある石の中から銅の含まれた石を見つけるのは、とてもおもしろく、もう一度やってみたいです。その他、貴重な体験ができてよかったです。(Y)

(3) 課題

2年次の1・2回目両方の研修とも、天候が不順だった。各研修のねらいは十分達成できたと思うが、当初予定された活動ができなかったり、順番を変えて実施するものもあったりした。自然を相手にした活動だけに、事前に天候不順の場合の対応について、十分検討する必要がある。

また、長登銅山宿泊体験学習終了後に1回目と同様な人間関係に関するアンケートを実施したところ、値がやや下がっていた。TAPのような活動を行った直後は人間関係は緊密になるが、しばらく時間が経つともとにもどってしまう傾向が見られる。日常生活の中でこれをどのように継続していくかも課題となると思う。

長登銅山宿泊体験学習の学習プログラムは、生徒にふるさとのよさを知らせるために効果的なものになってきたが、今後、この活動をどのようにして継続していくかが課題である。

農山漁村宿泊体験活動受入地域（長門市俵山地域）の概要

I. 受入地域の基本情報

1. 受入地域協議会の概要

取扱地域	都道府県名	山口県		市町村名	長門市
フリガナ	タラヤマグリーンツーリズムスイシンキョウカイ				
受入地域協議会名	俵山グリーンツーリズム推進協議会				
フリガナ	タラヤマコウミンカン				
窓口組織名	俵山公民館				
担当部署	事務局				
フリガナ	アキエダキョウ		役職	公民館長	
担当者の氏名	秋枝喜久雄				
連絡先	郵便番号	759-4211		連絡先種別	組織
	住所	山口県長門市俵山2302番地1			
	TEL	0837-29-0063		FAX	0837-29-5001
	連絡可能時間	8：30から17：15（土日祝日を除く）			
	E-mail	u-u-green@hotmail.co.jp			
	URL	http://hana00415.hp.infoseek.co.jp/index.html			
組織構成	長門市、俵山公民館、俵山自治会長会、俵山温泉合名会社、JA長門大津俵山支所、俵山社会福祉協議会、俵山スポーツ振興会、俵山発展促進協議会青年部、俵山農産物加工組合、俵山女歌舞伎保存会、農家民泊受入協議会、農業体験受入協議会				
組織の特徴	・平成15年度にグリーンツーリズムを活用したまちおこしを行なうため、地域の青年たちが中心となって協議会を立ち上げた。 ・平成16年度から山口県のグリーンツーリズムモデル地区の指定を受け、都市農村交流について学習や実践活動に取り組んでいる。 ・平成17年度から国土交通省の地域づくりインターン事業を実施し、都会の大学生をホームステイさせ、交流活動が続いている。 ・平成23年度開催の山口国体少年ラグビーの会場に選定されているため、地域住民あがてのホスピタリティの向上に取り組んでいる。				
受入のための取組	・俵山地区内にある10のうち半分の集落では、集落単位で都市と農村の交流活動を実践しており、固有の俵山ファンをつくり出している。 ・温泉旅館とタイアップして、宿泊客に対する農業体験活動も実施することになっている。				

2. 受入地域の概要

受入地域の紹介（地理的な特色など）	地理的条件	長門市は、山口県の西北端に位置している。俵山地区は長門市でも南部の山間地域に位置し、下関市と接している。標高が2～300メートル程度で、平地よりも2～3度気温が低い。一位ヶ岳のふもとに名湯俵山温泉があり、多くの湯治客が訪れる。その周辺は農山村集落が囲んでおり、水稻のほか、長門ゆずきちや自然薯などの特産品が栽培されている。
	自然的資源	長門市は、北長門海岸国定公園青海島を中心とした美しい海岸線と5つの温泉郷が有名である。俵山地区は5名湯のひとつ俵山温泉があり、環境省の国民保険温泉に指定されるなどアルカリ単純泉がリュウマチや皮膚病に効果があるため、高齢者を中心に多くの湯治客が訪れる。 また、七段の滝やその近くに設置された河川プールには、夏場ともなると多くの親子連れで賑わいを見せる。秋にはぶどうやなしの観光農園も開設される。
	文化的資源	俵山温泉では、県の文化財にも指定される女歌舞伎が伝承されている。現在では温泉まつりなど年に数回しか上演されていないが、小中学生による子供歌舞伎でその伝統を受け継ごうという取組みが実践されている。
受け入れ方針、PR等	地区内の小中学校の児童・生徒数は、小学校50人、中学校30人と少なく、小学校では複式化が、中学校では都市部の学校との統廃合が検討されるなど、地域の少子化は急速に進行している。しかしながら、地域で子供を育てようという意識が強く、運動会や文化祭は地区全体で開催し、お年寄りとの交流も積極的に行なわれている。先生方もほとんどの地域行事に参加し、地域に与り込むなど少人数ならではのきめ細かい教育が施されている。特筆すべきは、地区内に児童養護施設があり、都会で登校拒否やイジメにあった子供が40人あまり入居しながら学校に通っているが、そのほとんどの子が地域全体での教育の成果として順調に再生し巣立っていることだ。 そのような地域との交流活動は、都会の子供たちにとって大変刺激的で、財産となることは容易に考えられる。現在グリーンツーリズムの取組として、5集落で特性を活かしながら交流活動を進めているので、俵山に訪れた小学生たちは、少人数がそれぞれ分散して体験交流が実施できる。つまり一人ひとりが積極的に参加できる体験プログラムを準備できるということだ。 また、俵山温泉は環境省の国民保健温泉地に指定される名湯で、多くの湯治客が訪れている。長期間の滞在型旅館がほとんどのため、小規模で施設は古いが低料金である。プランの中に温泉と旅館を入れることも可能になるため、幅を持たせた計画が立てられる。加えて、市内には金子みすゞ記念館や香月泰男美術館など、情操教育の題材となりうる施設もある。	

3. 近隣主要都市から受入地域までの交通アクセス

※主要都市とは都道府県庁の所在地や政令指定都市などアクセスの参考になりやすい都市

①最寄りの都市	下関市	受入地域 集合場所	俵山公民館
車（バス） の場合	70 分	経路	下関市役所→国道、県道→俵山公民館
鉄道・航空・ 船舶の場合	160 分	経路	下関市役所→バス→下関駅→JR山陰本線→長門市 駅→バス→俵山公民館

②最寄りの都市	山口市	受入地域 集合場所	俵山公民館
車（バス） の場合	60分	経路	山口市役所→国道、県道→小郡IC→中国道→美祢 IC→国道、県道→俵山公民館
鉄道・航空・ 船舶の場合	180 分	経路	山口市役所→バス→山口駅→JR山口線→新山口駅 →新幹線→厚狭駅→JR美祢線→長門湯本駅→バス →俵山公民館

③最寄りの都市	宇部市	受入地域 集合場所	俵山公民館
車（バス） の場合	90 分	経路	宇部市役所→国道、県道→俵山公民館
鉄道・航空・ 船舶の場合	120 分	経路	宇部市役所→バス→宇部新川駅→JR宇部線、美祢 線→長門湯本駅→バス→俵山公民館

4. 学校教育旅行の受入実績

※受入校数:「小学校」の受け入れに限定していません。

※日帰り数:「受入数」の中で、地域内での宿泊を伴わない受入は「日帰り」としています。

	受入校数	日帰り校数	受入団体数	日帰り団体 数	受入人員	主な所在地
21年度 見込み	3 校		20 団体	20 団体	700 人	下関市 山口市
20年度 見込み含む	2 校		15 団体	15 団体	500 人	下関市 山口市
19年度			9 団体	9 団体	150 人	下関市 山口市

5. 受入地域での最大宿泊可能人数

最大宿泊可能人数	750 人
----------	-------

Ⅱ. 受入組織の詳細情報

1. 体験指導体制の概要

指導者の所属組織名	指導できる主な体験プログラム	指導者数	受入人数
俵山グリーンツーリズム推進協議会	郷土料理作り	10 人	50 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	自然体験（川遊び）	5 人	25 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	木炭作り	5 人	25 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	米、野菜、果樹の収穫体験	10 人	100 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	餅つき	10 人	50 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	そば打ち	15 人	75 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	吊るし柿作り	5 人	50 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	手芸、工作	2 人	20 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	郷土の歴史探訪	5 人	50 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	たこ作り、たこ揚げ	5 人	50 人
俵山グリーンツーリズム推進協議会	山登り	10 人	100 人
俵山女歌舞伎保存会	子供歌舞伎	2 人	40 人

2. 受入施設の概要

(1) 宿泊施設の概要

農林漁家民泊（ホームステイ）		農林漁家民宿	
軒 数	35 軒	軒 数	
総収容人員	100 人	総部屋数	
主人が語れる話の内容	農業全般、ふるさとの歴史	総収容人員	
[備考]		主人が語れる話の内容	
		[備考]	

※農林漁家民泊の定義：農林漁家の民家で宿泊を受け入れることをいいます。

※農林漁家民宿の定義：農林漁業従事者が経営している民宿のことをいいます。

公的宿泊施設		民間宿泊施設	
施設タイプ		施設タイプ	小規模旅館
軒 数		軒 数	26 軒
総部屋数		総部屋数	274 部屋
総収容人員		総収容人員	650 人
[備考]		[備考]	

(2) 主な体験提供施設（屋内体験や雨天時等に対応できる施設）の概要

施 設 名	収容人員	使用料	主な使用用途
俵山公民館	200 人	なし	屋内体験の実施

3. 安全・衛生対策の概要

(1) 救急時の病院・診療所

病院・診療所名	住所	搬送所要時間		24時間対応
俵山病院	長門市俵山湯町	最も遠い 宿泊施設から	10 分	不可
		最も遠い体験 フィールドから	10 分	
病院・診療所名	住所	搬送所要時間		24時間対応
長門総合病院	長門市東深川	最も遠い 宿泊施設から	40 分	可
		最も遠い体験 フィールドから	40 分	

(2) 安全・衛生の配慮事項

安全・衛生の配慮に関する項目	
配慮事項 1	窓口の対応と組織の責任について
	公民館に窓口を一本化し対応する。
配慮事項 2	病院、保健所、消防署、警察署等との連絡・調整について
	受入時には、スケジュールや児童数を事前連絡する。
配慮事項 3	体験プログラムの指導者や受入農家について
	研修会等を開催し、適切に対応できる体制をつくる。
配慮事項 4	緊急時における関係機関や学校等への連絡について
	迅速に対応できるような体制をとる。
配慮事項 5	小学生を受け入れるという特殊性に対する配慮について
	複数の指導者で、細かく目を配れるようにする。
配慮事項 6	受入農家で危険な器具を児童に使わせる場合等における事故の予防措置について
	基本的に危険な器具は取り扱わせない。
配慮事項 7	体験プログラムの内容における配慮について
	小学生の体力や集中力を考慮したプログラムをつくる。
配慮事項 8	天候の変化に対する対応について
	天候に応じ、適切に判断するとともに、雨天時の代替プログラムを準備する。
配慮事項 9	地域内での移動時における交通手段について
	人数が多い場合は貸切バスを利用。その他必要に応じて農家の車を利用する。
配慮事項 10	食事の衛生管理について
	保健所等の講習を受けるなど適切な配慮を行なう。
配慮事項 11	アレルギー等に対する対応について
	事前に情報を入手し、必要な配慮を行なう。
配慮事項 12	損害保険について
	加入する。
その他配慮している点	

農山漁村宿泊体験活動受入地域（阿武町）の概要

I. 受入地域の基本情報

1. 受入地域協議会の概要

取扱地域	都道府県名	山口県		市町村名	阿武町
フリガナ	アブチイグリーン・ツーリズムスインキョウカイ				
受入地域協議会名	阿武地域グリーン・ツーリズム推進協議会				
フリガナ	アブチヨウ				
窓口組織名	阿武町				
担当部署	経済課商工水産係				
フリガナ	カハシロシ		役職	係長	
担当者の氏名	高橋仁志				
連絡先	郵便番号	759-3622		連絡先種別	
	住所	山口県阿武郡阿武町大字奈古2636番地			
	TEL	08388-2-3114		FAX	08388-2-0100
	連絡可能時間	平日の午前8時30分～午後5時15分			
	E-mail	keizai@town.abu.yamaguchi.jp			
	URL	http://town.abu.yamaguchi.jp			
組織構成	阿武町林業振興会、福賀木目会、(農)うもれ木の郷、四葉サークル、(農)福の里、阿武町生活改善実行グループ連絡協議会、舩ネットワーク、阿武町農村青年協議会、グリーンツーリズムとふるさとづくりを目指す会、(有)あったか村、里山フォーラムのんたの会、そうか!村塾、奈古連合船団、郷川を語る仲間たち、若草窯／上沢堂、やまぐち元気発信隊、阿武町				
組織の特徴	・平成16年に、グリーンツーリズムで町づくりを推進することを目的に、行政や地域興しグループ、農林漁家民宿のオーナーらで、当協議会を立ち上げた。各団体での交流事業のほか、協議会としても毎年、独立行政法人国際協力機構（JICA）等の研修も受け入れている。 ・特に、町内にある農家・漁家民宿は、ともに県内で最初に許可を受けたほか、農家民宿の女将は「農林漁家民宿おかあさん100選」にも選ばれるほど、交流体験事業に関する実績と経験がある。				
受入のための取組	これまで行ってきた各種交流事業等の経験で対応できると考えている。				

2. 受入地域の概要

受入地域の紹介（地理的な特色など）	地理的条件	阿武町は山口県の北部に位置し、海岸部以外の周囲は、観光の町、萩市に囲まれている。町役場（本庁）は、益田市の萩・石見空港から車で50分、宇部市の山口・宇部空港及び山口市の新山口駅からは約1時間30分の位置にある。
	自然的資源	町の総面積は116.07Km ² で、80%以上が森林。日本海に面した奈古、宇田郷地区と、標高が約400mある山間部の福賀地区で構成されているため、海と山、両方の幸に恵まれている。
	文化的資源	海、山の幸に恵まれ、農林漁業が町の基幹産業である。また、国指定のたたら製鉄遺跡をはじめ、経塚などの文化財、樹林などの天然記念物が数多く存在するほか、山陰の勇将・尼子経久の曾孫、義久の墓や、剣豪・佐々木小次郎の墓もある。石見神楽、岩戸神楽が継承されている地域もあり、地元の中学生も授業の一環として踊りを承継している。
受け入れ方針、PR等	現在、町ではグリーンツーリズムを推進し、その一環としてJICA等の研修を受け入れている実績がある。数種類の研修プログラムや交流プログラムなども実践済みで、これらを当事業に流用することも可能と考えている。 また、地域の農家の方が地域の小学生を対象に、田を耕すことから刈り取りまで、稲作の指導を行い、農業の大切さなどを教えているほか、鳴き砂海岸の清掃や過疎で人がいなくなった地区での村づくりなどにより「農山漁村での交流を通じて環境を考えよう」というテーマの学習も可能である。	

3. 近隣主要都市から受入地域までの交通アクセス

※主要都市とは都道府県庁の所在地や政令指定都市などアクセスの参考になりやすい都市

①最寄りの都市	山口市	受入地域 集合場所	阿武町役場福賀支所駐車場
車(バス) の場合	70 分	経路	山口市役所→国道9号→阿東町→国道315号→福賀支所
鉄道・航空・ 船舶の場合		経路	

②最寄りの都市	益田市	受入地域 集合場所	阿武町役場福賀支所駐車場
車(バス) の場合	50 分	経路	益田市役所→国道191号→萩市須佐→国道315号→福賀支所
鉄道・航空・ 船舶の場合		経路	

③最寄りの都市	周南市	受入地域 集合場所	阿武町役場福賀支所駐車場
車(バス) の場合	90 分	経路	周南市役所→国道315号→福賀支所
鉄道・航空・ 船舶の場合		経路	

4. 学校教育旅行の受入実績

※受入校数:「小学校」の受け入れに限定していません。

※日帰り数:「受入数」の中で、地域内での宿泊を伴わない受入は「日帰り」としています。

	受入校数	日帰り校数	受入団体数	日帰り団体数	受入人員	主な所在地
21年度 見込み	2 校		2 団体		100 人	山口県内 つくば市 (JICA)
20年度 見込み含む			4 団体		50 人	つくば市 (JICA) 世界5カ国 (CIEE)
19年度			3 団体	1 団体	30 人	つくば市 (JICA) 東京都 (JICA)

5. 受入地域での最大宿泊可能人数

最大宿泊可能人数	50 人
----------	------

Ⅱ. 受入組織の詳細情報

1. 体験指導体制の概要

指導者の所属組織名	指導できる主な体験プログラム	指導者数	受入人数
農家民宿「樵屋」	植え付け、管理、収穫など、農作業一般	2 人	10 人
阿武町林業振興会	間伐体験ほか林作業一般(時季によっては山菜狩りやキノコ狩り)	2 人	10 人
小菊の館	フラワーアレンジメント(8～10月)	1 人	10 人
ちづるのパン工房	パン作り	1 人	10 人
若草窯／上沢堂	西洋上絵付け	2 人	10 人
(有)あったか村	村づくり(建築等)	2 人	10 人
奈古連合船団	漁船クルーズ・大敷網作業見学	2 人	10 人
以下は今後の協議による			
阿武福祉会	老人介護、交流		
鳴き砂復活隊	海岸清掃ボランティア		
地元小中学校	交流等		

2. 受入施設の概要

(1) 宿泊施設の概要

農林漁家民泊(ホームステイ)		農林漁家民宿	
軒 数	10軒	軒 数	1 軒
総収容人員	30 人	総部屋数	2 部屋
主人が語れる話の内容	農林漁業など	総収容人員	20 人
[備考]		主人が語れる話の内容	農林漁業、町づくり、グリーンツーリズム、人生観など
		[備考] 短期間の宿泊のみであれば、他にも3軒可	

※農林漁家民泊の定義:農林漁家の民家で宿泊を受け入れることをいいます。

※農林漁家民宿の定義:農林漁業従事者が経営している民宿のことをいいます。

(2) 主な体験提供施設(屋内体験や雨天時等に対応できる施設)の概要

施 設 名	収容人員	使用料	主な使用用途
各地域の公民館等	10 人		雨天時の屋内体験

3. 安全・衛生対策の概要

(1) 救急時の病院・診療所

病院・診療所名	住所	搬送所要時間		24時間対応
福賀診療所	阿武町福賀	最も遠い 宿泊施設から	5 分	不可
		最も遠い体験 フィールドから	5 分	
病院・診療所名	住所	搬送所要時間		24時間対応
斉藤医院	阿武町奈古	最も遠い 宿泊施設から	20 分	不可
		最も遠い体験 フィールドから	20 分	
病院・診療所名	住所	搬送所要時間		24時間対応
萩市の各病院	萩市	最も遠い 宿泊施設から	40 分	可
		最も遠い体験 フィールドから	40 分	

(2) 安全・衛生の配慮事項

安全・衛生の配慮に関する項目	
配慮事項 1	窓口の対応と組織の責任について
	受入対応窓口を一本化し、組織として受入を行う。
配慮事項 2	病院、保健所、消防署、警察署等との連絡・調整について
	町内の各機関等については受入時に事前に連絡。
配慮事項 3	体験プログラムの指導者や受入農家について
	これまでも受入の経験があるが、研修会等の開催によりスキルの向上に努める。
配慮事項 4	緊急時における関係機関や学校等への連絡について
	連絡票を作成し、迅速に連絡が取れるようにする。
配慮事項 5	小学生を受け入れるという特殊性に対する配慮について
	細かく目を配れるように、体験プログラムについてはなるべく複数で対応できる体制をとる。
配慮事項 6	受入農家で危険な器具を児童に使わせる場合等における事故の予防措置について
	児童に対してどのような注意をしたら良いか、器具の置き場や保管方法等について受入農家を対象に研修会を行っている。
配慮事項 7	体験プログラムの内容における配慮について
	小学生の体力や集中力を考慮したプログラムを作る。
配慮事項 8	天候の変化に対する対応について
	屋外体験の実施に際しては、天候や天災に応じた適切な判断（中止を含む）と、代替プログラムの提供や場所の確保を行えるようする。
配慮事項 9	地域内での移動時における交通手段について
	事故等を考慮し、原則、事業者の貸切バスやタクシー等による移動とする。
配慮事項 10	食事の衛生管理について
	農林漁家民宿は保健所から許可済であるが、定期的な食品衛生講習の受講等、適切な配慮を行う。農林漁家の民泊については、食品衛生講習の受講はもとより、町の保健師や栄養士と連携し、メニューや食材、食器類の保管などに細心の注意を払う。
配慮事項 11	アレルギー等に対する対応について
	事前に確認を行う。
配慮事項 12	損害保険について
	必要な保険には加入する。
その他配慮している点	

農山漁村宿泊体験活動受入地域（岩国市錦町地域）の概要

I. 受入地域の基本情報

1. 受入地域協議会の概要

取扱地域	都道府県名	山口県		市町村名	岩国市	
フリガナ	ヤマシロ体験交流センター					
受入地域協議会名	やましろ体験交流センター					
フリガナ	エスビーオーホウシンホットニシキ					
窓口組織名	NPO法人ほっとにしき					
担当部署	事務局					
フリガナ	ミツタ マサキ		役職	事務局長		
担当者の氏名	光貞 正明					
連絡先	郵便番号	740-0724		連絡先種別	組織	
	住所	山口県岩国市錦町広瀬				
	TEL	0827-72-2345		FAX	0827-72-2345	
	連絡可能時間	10：00から16：00				
	E-mail	hot-n@mx71.tiki.ne.jp				
	URL	http://www.hotnishiki.jp/info.html				
組織構成	山口アウトドアネットワーク、吉川林産興業株式会社、山代神楽連絡協議会、阿賀ふれあいセンター、株式会社やさか、生見ikiikiセンター四季の味やましろの里、深谷峡温泉清流の郷、工房なないろ・清流グループ、錦川鉄道株式会社、府谷グリーン山里会、木積こんにやく、美川木工センター、美川観光グループ、美川開発株式会社、農事組合法人いきいきファーム美和、広瀬釣具店、NPO法人ほっとにしき、高根むらづくり協議会、その他個人					
組織の特徴	・NPO法人ほっとにしきは、合併を前に周辺地域の自立と活性化を促進するために、行政や商工会青年部と一緒に設立した、錦地域（旧錦町）の住民総参加によるまちづくり組織であり、現在の会員数は2000名あまりである。やましろ体験交流センターは、NPO法人ほっとにしきが設立した、やましろ地域の組織の総合窓口機能である。 ・限界的といわれる少子高齢化集落やその地域に住む住民への支援等を行う一方で、地域住民の生き甲斐対策と地域活性化のために、これまでの経験を生かし、体験型の交流活動をすすめるよう体制を整えている。					
受入のための取組	・これまで30年近く、夏休みを中心に子どもたちを3日間で約800人の受入を行い、川や伝統芸能（神楽）で体験型の受入を行ってきた。また、近年では教育委員会を中心とした実行グループにより都会の子どもと地域の子どもの交流活動として「子ども自然王国」2泊3日キャンプ活動などを行ってきており、人材やノウハウが蓄積されている。 ・広域での受入をすすめるため、やましろ体験交流センターを設置し、昨年は周南市から107人の児童を受け入れた。					

2. 受入地域の概要

受入地域の紹介（地理的な特色など）	地理的条件	山口県岩国市のほぼ北半分をしめる地域で、歴史的に「山代地域」という。 西中国山地西南端の瀬戸内海側に位置し、広島・島根両県に接している。近くには、山陽自動車道・中国自動車道や山陽新幹線が通り、世界遺産の宮島や広島にも近い。
	自然的資源	山代地域の上流には、寂地峡などの景勝地があり、下流には有名な錦帯橋が架かる県下一長い錦川が貫通している。 さらに、絶景の弥栄峡や羅漢溪谷を有する小瀬川は、広島県境を流れている。
	文化的資源	山代地域には、古くからの伝統を受け継いでいる数多くの神楽団があり毎年合同で共演大会を行うなど、地域での活動も盛んである。 また、各地から平家伝説や戦国合戦あるいは幕末維新などの史跡も数多く残っている。
受け入れ方針、PR等	過疎化の進行と共に集落の機能維持が困難な状況も見られるようになってきた。当NPO法人は、このような状況をなんとか地域住民で助け合い、自立することで安心した生活ができるよう組織づくりをしその活動を進めてきた。 その過程で、地域に住む住民の笑顔をもっと引き出したいとの思いから、現に生活している実態を都会から来る子どもたちに見てもらい、体験してもらうことで生き甲斐や希望が生まれ、笑顔が生まれるのではないかと期待をしている。（本当の農作業を体験できるメニューにしている。） 幸いにも、地域や農林家には多くの素材が存在しており、現在その活用に向けて努力を重ねている。このような環境の下で、素晴らしい感動体験が子どもたちに与えられると信じている。 ①地域のネットワーク機能を強化し、農山漁村体験の充実に努める。 ②各体験プランの充実とそれらの成功事例などの勉強会を行うなど、農山漁村体験の質の向上と担い手づくりに努める。 ③農山漁村体験の中でアンケートをするなど、都会（参加者）と田舎（受け入れ先）の環境の違いを共有し、交流や親睦を深めお互いが喜び合える関係を築く。 ④地域内で体験プログラムの増加など受け入れ体制の強化に努める。 ⑤岩国市において本地域が、農村漁村体験の先駆けとなるよう、あらゆる情報の発信や収集に努める。	

3. 近隣主要都市から受入地域までの交通アクセス

※主要都市とは都道府県庁の所在地や政令指定都市などアクセスの参考になりやすい都市

①最寄りの都市	広島市	受入地域 集合場所	錦ふるさとセンター
車（バス） の場合	70 分	経路	広島市役所→山陽自動車道→岩国I.C.→R2→R187→錦ふるさとセンター
鉄道・航 空・船舶の 場合	120 分	経路	広島駅→JR山陽本線→岩国駅→錦川清流線→錦ふるさとセンター

②最寄りの都市	山口市	受入地域 集合場所	錦ふるさとセンター
車（バス） の場合	70 分	経路	山口市役所→中国自動車道→六日市I.C.→錦ふるさとセンター
鉄道・航 空・船舶の 場合	90 分	経路	山口駅→新山口駅→新岩国駅→錦川清流線→錦ふるさとセンター

③最寄りの都市	下関市	受入地域 集合場所	岩国市役所
車（バス） の場合	120 分	経路	下関市役所→中国自動車道→六日市I.C.→錦ふるさとセンター
鉄道・航 空・船舶の 場合	100 分	経路	下関駅→新下関駅→新岩国駅→錦川清流線→錦ふるさとセンター

4. 学校教育旅行の受入実績

※受入校数:「小学校」の受け入れに限定していません。

※日帰り数:「受入数」の中で、地域内での宿泊を伴わない受入は「日帰り」としています。

	受入校数	日帰り校数	受入団体数	日帰り団体 数	受入人員	主な所在地
21年度 見込み	4 校	2 校	7 団体	7 団体	1,300 人	広島県 4 山口県 7
20年度 見込み含む	2 校	1 校	2 団体	2 団体	800 人	山口県 4
19年度	3 校	3 校	3 団体	3 団体	1,200 人	広島県 5 山口県 1

5. 受入地域での最大宿泊可能人数

最大宿泊可能人数	260 人
----------	-------

Ⅱ. 受入組織の詳細情報

1. 体験指導体制の概要

指導者の所属組織名	指導できる主な体験プログラム	指導者数	受入人数
錦川流域ネット 山口アウトドア・ネット ワーク	カヌー・沢登り・ハイキング	5 人	30 人
なないろ工房	つるかご編み・草木染め	5 人	50 人
阿賀ふれあいセンター	かしわ餅作り・草餅つき・こんにゃく作り	10 人	20 人
美川ムーバレー	木工体験・グラス加工・石板加工	3 人	20 人
吉川林産興業(株)	枝打ち・椎茸駒打ち	10 人	50 人
府谷グリーン山里会	田植え・稲刈り・野菜づくり・収穫 とうふづくり・そば打ち	10 人	50 人
錦川観光協会	薬草探索	1 人	50 人
宇佐振興会	田植え・稲刈り・野菜づくり・収穫 祇園坊干し柿作り	5 人	30 人
NPO法人ほつとにしき	ストーンアート・鮎のつかみ取り・ 川遊び・ジャガイモ植えと収穫	5 人	100 人
〃	稲わら細工・ハヤ釣り・カヌー	20 人	100 人
野鳥の会	バードウォッチング	3 人	100 人
酪農組合	酪農体験	4 人	80 人
山代神楽連絡協議会	神楽ミニ体験	10 人	100 人
錦川鉄道株式会社	とことこトレイン	2 人	100 人
農事組合法人 いきいきファーム美和	栗拾い・お茶摘み・農業体験	8 人	100 人
広瀬釣りクラブ	清流釣り	5 人	50 人

2. 受入施設の概要

(1) 宿泊施設の概要

農林漁家民泊（ホームステイ）	
軒 数	30 軒
総収容人員	100 人
主人が語れる話の内容	昔の生活や地域に伝わる物語など
[備考] 人数は見込み数	

農林漁家民宿	
軒 数	0 軒
総部屋数	
総収容人員	
主人が語れる話の内容	
[備考]	

※農林漁家民泊の定義：農林漁家の民家で宿泊を受け入れることをいいます。

※農林漁家民宿の定義：農林漁業従事者が経営している民宿のことをいいます。

公的宿泊施設	
施設タイプ	温泉宿泊施設
軒 数	2 軒
総部屋数	26 部屋
総収容人員	130 人
[備考] 1 軒はホテルで、16 部屋50 人 1 軒はログハウスで、10 棟80 人	

民間宿泊施設	
施設タイプ	旅館
軒 数	2 軒
総部屋数	10 部屋
総収容人員	30 人
[備考]	

(2) 主な体験提供施設（屋内体験や雨天時等に対応できる施設）の概要

施設名	収容人員	使用料	主な使用用途
錦ふるさとセンター	300 人	時間・部屋別	集会施設
らんかん高原交流センター	100 人	15000円/日	集会・食堂
宇佐川小学校体育館	200 人	420円/回	体育館
広東小学校体育館	250 人	420円/回	体育館

3. 安全・衛生対策の概要

(1) 救急時の病院・診療所

病院・診療所名	住所	搬送所要時間		24時間対応
錦中央病院	岩国市錦町広瀬1072-1	最も遠い 宿泊施設から	35 分	可
		最も遠い体験 フィールドから	45 分	

病院・診療所名	住所	搬送所要時間		24時間対応
六日市病院	島根県鹿足郡吉賀町	最も遠い 宿泊施設から	30 分	可
		最も遠い体験 フィールドから	30 分	

(2) 安全・衛生の配慮事項

安全・衛生の配慮に関する項目	
配慮事項 1	窓口の対応と組織の責任について
	NPO法人ほっとにしきの事務局を窓口とし、対応を一本化する。
配慮事項 2	病院、保健所、消防署、警察署等との連絡・調整について
	地元の病院・消防署・警察等に連絡し、緊急時の対応措置を依頼できる。
配慮事項 3	体験プログラムの指導者や受入農家について
	NPO法人ほっとにしきで定期的に研修会を開催し、対応を検討する。農家にはスケジュールを提示し、受入可能な農家の確保と研修を実施する。
配慮事項 4	緊急時における関係機関や学校等への連絡について
	各個人の連絡票を事前に作成し、個別対応が可能なように研修する。
配慮事項 5	小学生を受け入れるという特殊性に対する配慮について
	児童理解が上手にできるように研修を行い、指導者や受入農家の参加を呼びかけ一人一人個別対応するように配慮する。
配慮事項 6	受入農家で危険な器具を児童に使わせる場合等における事故の予防措置について
	事前研修に於いて十分に情報を収集すると共に実際の受け入れを想定して、可能なもの不可能なものの選別を行い、事故防止に対処する。
配慮事項 7	体験プログラムの内容における配慮について
	タイムスケジュール、物品の準備、人的確保、経費等について細部にわたる計画を準備する。
配慮事項 8	天候の変化に対する対応について
	天気予報などの情報を早めに収集し、悪天候などへの対策が早めに行えるよう、常に対策を検討し準備しておく。特に、降雨のみならず増水、落雷、強風などには十分な配慮が必要である。
配慮事項 9	地域内での移動時における交通手段について
	地域にある旅行業者に依頼し、貸し切りバスで対応する。(一部受入農家までは自家用車も想定しているが、個別に検討し無理な移動はしないよう配慮する)
配慮事項 10	食事の衛生管理について
	NPO法人ほっとにしきの保健師や栄養士らに依頼し、メニューや食材、食器類の保管などに細心の注意を払う。
配慮事項 11	アレルギー等に対する対応について
	事前個別調査を実施し、リストづくりをして個別に適宜対応する。
配慮事項 12	損害保険について
	NPO法人ほっとにしきが損害賠償、傷害保険に加入する。
その他配慮している点	NPO法人ほっとにしきとして、期間中は多くのスタッフを配置して、子どもたちにできるだけ目が行き届くように配慮する。小さな危険性も見逃すことがないよう、事前のチェック体制を整える。